

---

令和2年度  
「我が国における地球観測の実施計画」  
(案)

---

令和2年8月28日  
科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
地球観測推進部会

令和2年度「我が国における地球観測の実施計画」目次

実施項目	関連府省庁	ページ
<b>IV章. 課題解決型の地球観測</b>		
<b>1. 気候変動に伴う悪影響の探知・原因の特定への貢献</b>		
<b>(1) 人為的な地球環境の変動の把握への貢献</b>		
① 温室効果ガス及び短寿命気候汚染物質、エアロゾル等の観測と地球温暖化プロセスの理解の深化	総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、気象庁、環境省	4
② 気候変動に伴う海面上昇の監視	文部科学省、気象庁	10
③ 気候変動が大気圏、地球表層圏、生物圏に与える影響の把握、及び地球環境変動と人為的な関与の観測に基づく実証的・定量的な解明	総務省、文部科学省、経済産業省、気象庁、海上保安庁、環境省	12
<b>(2) 気候変動対策の効果把握への貢献</b>		
① 温室効果ガス等の継続的な観測、両極域を含むグローバルかつ高解像度の観測体制の構築	文部科学省、経済産業省、気象庁、海上保安庁、環境省	16
② 温室効果ガス、短寿命気候汚染物質、エアロゾルの北極域を含む地球規模の三次元大気観測及び地表での吸放出量の観測	総務省、文部科学省、環境省	20
③ 衛星観測等による森林火災の監視、全球植生のバイオマスや一次生産力の監視	文部科学省、環境省	24
<b>(3) 気候変動の予測精度の向上への貢献</b>		
① 開発途上国を中心とした国々の過去の観測記録のデジタル化、古気候プロキシデータの体系的な収集、持続性・堅ろう性のあるアーカイブシステムの構築等	文部科学省	28
② 気候モデルのシミュレーション精度の向上とアンサンブル数の増大	総務省、文部科学省	28
<b>2. 地球環境の保全と利活用の両立への貢献</b>		
<b>(1) 持続的な海洋の利活用への貢献</b>		
① 海洋内部の自動計測技術、生態系変動や生物多様性の指標の計測技術、極海域や深海域等における観測技術の開発	文部科学省、気象庁、環境省	30
② 船舶、パイなどによる全球海洋観測網の整理と維持、生物化学環境観測への拡張及び北極海や深海域等での観測網の充実と国際協力の推進	文部科学省、気象庁、海上保安庁、環境省	32
③ 雪氷・海水分布の常時把握や将来予測	文部科学省	34
<b>(2) 生態系・生物多様性の現状把握と保全への貢献</b>		
① 各種生態系の機能や動態、絶滅危惧種や生物間相互作用などの状況、生態系の成長と攪乱からの回復過程等の解明・予測、沿岸域生態系のモニタリング	文部科学省、水産庁、環境省	36
② 研究機関や大学、観測ネットワークによる現地調査と、航空機や衛星によるリモートセンシングの分野横断的な観測の推進、データと知見の共有促進の強化	総務省、文部科学省、農林水産省、林野庁	38
<b>(3) 森林の現状把握及び変化予測精度の向上への貢献</b>		
① 森林分布、樹種構成、森林構造、温室効果ガスの吸収と放出、炭素蓄積、水土保全機能等の観測、及びREDD+2等を通じた対策への活用	文部科学省、林野庁、経済産業省、環境省	38
② 森林機能に関する定点観測、航空機や衛星による広域・長期反復観測、環境変動に対する森林機能の応答及び地球環境にもたらすフィードバック機構の解明	文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省	40
③ 観測ネットワークや研究機関、大学による分野・スケール横断的な観測・データ共有・知見創出の促進	文部科学省、経済産業省	42
<b>3. 災害への備えと対応への貢献</b>		
<b>(1) 災害発生の予測・予知への貢献</b>		
① 地震、地殻変動、地形変化、火山活動、気象、海象等の観測	総務省、文部科学省、経済産業省、気象庁、海上保安庁	44
② 被災地域及び今後被災する可能性の高い地域の抽出、並びに予防段階及び発災後の地球観測による監視	文部科学省	48
③ 災害に関わる自然現象や災害そのもののシミュレーションモデルの構築及び観測データのアーカイブ	総務省、文部科学省、気象庁	48
④ 地球観測と災害予測モデルとの効果的な連動、早期警戒システムの実現	総務省、文部科学省	50
⑤ 気象衛星「ひまわり」やハンドマルチパラメータレーダ「XRAIN」等による観測データの防災・減災研究への活用	総務省、文部科学省、国土交通省、気象庁	50
⑥ 高分解能のマイクロ波放射計による積雪量・降雪量観測、全球降水マップ(GsMAP)、衛星データ等同化による予報モデルの高度化を利用機関との連携を通じて強化	文部科学省、国土交通省	52
⑦ 地球観測の成果を、国・地方自治体・個人が災害時に的確に行動するための判断材料として社会に提供	総務省、文部科学省、気象庁	52

<b>(2) 発生時の緊急対応と復旧・復興への貢献</b>		
① 広範囲の情報を観測可能な衛星観測や、狭範囲であるが高解像度の機動的な観測等の観測体制の充実と、予測モデルの構築・高度化	総務省、文部科学省、国土交通省、国土地理院	54
② 復旧・復興段階における「より良く再建すること」の典型的な事例の提示や判定基準策定への地球観測活用方策の検討	文部科学省	56
<b>4. 食料及び農林水産物の安定的な確保への貢献</b>		
① 農業への地球観測の活用(農地やその周辺における土地利用・作付け体系、農産物の生産量、有害動植物や病害虫による被害の実態及びその推移、農業生産を支える環境の実態及びその推移に関する高頻度、短周期の観測)	農林水産省	58
② 林業への地球観測の活用(森林の分布、樹種、森林蓄積量と成長量)	文部科学省、農林水産省	58
③ 水産業への地球観測の活用(水産資源の量や分布、漁場環境、有害生物などの把握のための地球観測)	文部科学省、水産庁	60
④ 林業、水産業に貢献する衛星データの活用、温室効果ガスフラックス等に関する既存の観測ネットワークの維持とデータ活用、自動計測技術及びデータ同化技術の開発・高度化	文部科学省、水産庁、気象庁	60
⑤ 農業に貢献する地球観測・予測データに基づいた農地や家畜・家畜排せつ物から発生する温室効果ガスの排出抑制策の評価	文部科学省	60
<b>5. 総合的な水資源管理の実現への貢献</b>		
① 治水・利水施設の操作・管理に利用するための地球観測の実施(降水量や河川流量、地下水位、揚水量、土壌水分量、水質などを地上観測ネットワーク、衛星観測、数値モデルの統合利用によって把握)	総務省、文部科学省、国土交通省、環境省	62
② 食料、エネルギー、健康、生物多様性などの統合的な地球観測の実施とデータの統合的利用手法の開発	文部科学省	62
<b>6. エネルギー及び鉱物資源の安定的な確保への貢献</b>		
① 再生可能エネルギーの利活用に資する風況、日射量、海況等の観測や、海底資源等の確保に資する資源の賦存量、海底下の地質などを把握する観測	文部科学省	62
② 資源の安定的確保を目的とした、衛星観測情報や地質情報の整備、環境・災害リスクを考慮した資源開発を目的とした地球観測の推進	文部科学省	62
③ アジア及びアフリカ地域における小規模鉱山開発等による環境・災害リスクや健康リスクの衛星観測による監視	文部科学省	62
<b>7. 健康に暮らせる社会の実現への貢献</b>		
① 大気汚染物質の濃度やヒートアイランドの実態の把握、感染症の発生状況、媒介生物の出現状況などの把握のための地球観測	総務省、文部科学省、気象庁、環境省	64
② 感染症の発生や媒介生物の出現が見込まれる場所の予測・同定に資する地形、土地利用、土地被覆、水質等の環境因子の観測	文部科学省	66
③ データ利用者となる疫学者や現場の公衆衛生担当者との連携による、利用者が必要とする環境因子に関する情報の共有、適切な空間・時間分解能での観測・予測データの提供	総務省、気象庁	66
<b>8. 科学の発展への貢献</b>		
① 地球システムの包括的理解に必要な基礎的知見を蓄積するための地球観測	総務省、文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省	66
② 広範囲の情報を正確に把握するための衛星の活用、海洋内部の観測を可能とする観測機器や観測網の構築と維持等	総務省、文部科学省、環境省	70
③ 地球システムの包括的理解を目的とした、科学観測の提案から、審査、策定、実行、評価まで、一貫して推進する機能の確立		72
④ 人類共通の科学的知見の蓄積・深化のため、科学的理解に至っていない現象の科学過程の解明を目的とした観測研究の実施とモニタリングとの連携を通じた観測研究の強化	経済産業省、文部科学省、環境省、気象庁	72
⑤ 安定・継続した観測体制の確立、新たな観測技術の研究開発の強化・推進及び観測・予測データの適切な管理	総務省、文部科学省、経済産業省、気象庁	74
<b>V章. 共通の・基盤的な取組</b>		
1. 観測データのアーカイブとデータの統合化・利活用の促進	総務省、文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省	76
2. 分野間の連携、多様なステークホルダーの関与及び人材育成	文部科学省、気象庁、環境省	78
3. 長期継続的な地球観測の実施	総務省、経済産業省、文部科学省、国土交通省、国土地理院、気象庁、海上保安庁、環境省	80
4. 地球観測による科学技術イノベーションの推進	文部科学省、環境省、気象庁	84
5. 科学技術外交・国際協力への地球観測の貢献	文部科学省、経済産業省、国土交通省、国土地理院、気象庁、環境省	86

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
IV章. 課題解決型の地球観測										
1. 気候変動に伴う影響の認知・原因の特定への貢献										
(1) 人為的な地球環境の変動の把握への貢献										
①温室効果ガス及び短寿命気候汚染物質、エアロゾル等の観測と地球温暖化プロセスの理解の深化										
	1		大気中のSLCPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う国際宇宙ステーション搭載uv500PE	○	○	○		大気汚染物質	衛星	全球
	2		大気中のSLCPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う静止衛星搭載GMAP-ASIA	○	○	○		大気汚染物質	衛星	アジア域
	3		観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動・変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支や淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連溶存物質、その他溶存化学物質、温度、塩分、栄養塩、海上気象など	船舶、地上、衛星、その他の(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大陸
	4		地球表層と人間活動との相互作用の把握 地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の高アプローチから捉え、それらと地球表層の変動等と人間における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC <sub>2</sub> 、対流圏オゾン、一酸化炭素、揮発性有機化合物(VOC)、窒素(N <sub>2</sub> O)、O <sub>2</sub> 、PM <sub>2.5</sub> 、大気エアロゾル粒子物性、成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季、マイクロプラスチック、海洋沈降粒子、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン群集、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロート)	福江島、横須賀、沖縄辺野古、韓国光州、ロシアベニゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北極海定地点(MAP、NEC)、東部津軽海峡
	5		北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に依る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向流速、海水(面積、厚さ、漂流速度・積雪、海水下形状、化学物質、プランクトンなど)、温暖化関連溶存物質(大気中、海水中)、海水中の溶存化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(量分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、氷床氷河(質量・表面状態)などの変化、など	衛星、船舶、地上、海中観測系、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地域

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球 1 日に 1 回	総務省 (研) 情報通信研究機構				H24~		共同研究・文部科学省(研) 海洋研究開発機構
1 時間 1 回	総務省 (研) 情報通信研究機構				H24~		共同研究・文部科学省(研) 海洋研究開発機構
船舶: 1 日に 4 回程度 フロート、ブイ: 1 時間 1 回~10 日に 1 回等	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO 国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(GLIVAR)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測システムプロジェクト(TPOS2020)、世界定観測ネットワーク(OceanSITES)、国際海洋炭素データ統合プロジェクト(10CCP)、IMC といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施 【民間企業参画】 高精度溶存酸素センサを搭載した次世代型深海用フロートの開発に関する共同研究 海洋標準物質作成に関する共同研究
大気組成観測は 1 時間~1 日 1 回、経年連続観測は 1 日 48 回(気象・フラックス、分光反射率、硫酸等)、1~5 年に 1 回(分光反射率、海面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節・天空)は 2 分から 1 日毎、森林の光環境の観測(1 時間観測)のうら、センサーは 1 時間に 1 回、海洋沈降粒子は 1 か月に 1~2 回、船上観測では 1 時間~1 日毎、BGC フロートは 1 時間に 1 回、ブイ・ブイは 1 日 0.5 回	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(AMAP))、北極大気汚染と社会(PAGES)、MOSAIC (Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate) TROPOMI 衛星センサと陸域の静止大気汚染観測衛星センサ GEMS の検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLOWNET)、Phenological Eyes Network (PEN)、JaLTER (Japan Long-Term Ecological Research Network)、GE Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN (Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network (GOA-ON) といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
衛星: 1 日に 1.2 回程度、船舶: 1 日に 1 回程度、地上: 1 日に 4 回程度、場所により毎時、毎時、1 時間に 1 回、漂流ブイ: 1 時間に 1 回	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極圏研究推進プロジェクト(951)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO 国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(GLIVAR)、気候と雪氷面計画(GICC)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASC)、太平洋北極研究グループ(PAG)、北極圏海洋フラックス研究(ASOF) などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	6		温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	7		温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。		○			二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	8		気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	9		農業生態系の炭素循環と温室効果ガスフラックスのモニタリング(陸域プラットフォーム(タワー)により、モンソーンアジアの農耕地の炭素収支、メタン・N2Oフラックス、微気象、植生量等を長期連続観測し、気候の変化や農地管理の影響を解析する。)	○		○		気象要素、CO2、CH4、N2Oのフラックス、蒸発散量、作物土壌、関連項目	地上	つくば市、新ひだか町、タイ、韓国
	10		南鳥島および領土における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一WMOの全球観測所に選定されている南鳥島と、気象庁経度観測所において、各機関と連携して、大気主成分や温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、炭素循環や海洋浮遊熱量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸化物濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南鳥島、嶺
	11		温室効果ガス等の観測 大気中の温室効果ガス等について、国内3地点及び東京～南鳥島間の上空において観測を行い、データ提供を継続する。	○		○		温室効果ガス等	地上、航空機	国内3箇所及び航空機
	12		降水・降水観測 降水及び降水試料の採取及び化学分析データの提供を継続する。	○				降水及び降水	地上	南鳥島
	13		オゾン観測 オゾン分光光度計およびオゾンゾンデによるオゾン観測及びデータ提供を継続する。	○		○		オゾン	地上	光度計：全国3箇所 ゾンデ：全国1箇所
	14		エアロゾル観測 スカイラジオメーターによるエアロゾル観測及びデータ提供を継続する。	○				エアロゾル	地上	全国3箇所
	15		日射放射観測 日射計及び放射計による日射放射観測及びデータ提供を継続する。	○				日射及び赤外放射	地上	全国5箇所
	16		観測船による海洋気象観測 国際的枠組みのもと海洋気象観測船により、海洋深層までの水温や温室効果ガス濃度等を継続して観測し、地球温暖化、海洋環境変動の解明に資するデータを提供する	○				水温、塩分、温室効果ガス、気象等	船舶	北西太平洋

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/拡 充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球：3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	880	H20～		【国立環境研究所】 和文 <a href="http://www.gosat-2.nies.go.jp/index.html">http://www.gosat-2.nies.go.jp/index.html</a> 英文 <a href="http://www.gosat.nies.go.jp/en/index.html">http://www.gosat.nies.go.jp/en/index.html</a>	【国際連携】 アメリカ航空宇宙局(NASA)のOCO-2と相互校正や検証で協力。
全球：6日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	20	H26～		【国立環境研究所】 和文 <a href="http://www.gosat-2.nies.go.jp/">http://www.gosat-2.nies.go.jp/</a> 英文 <a href="http://www.gosat-2.nies.go.jp/">http://www.gosat-2.nies.go.jp/</a>	
全球：2～3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252	H17～		【GCOM-C】 <a href="http://suzaku.eorc.jaxa.jp/GCOM_C/index_j.html">http://suzaku.eorc.jaxa.jp/GCOM_C/index_j.html</a>	
連続	農林水産省、環境省 ( (研) 農業・食品産業技術総合研究機構)	運営費交付金	3	H11～		(閉合わせ先案内のURL) <a href="http://asiaflux.net/index.php?page_id=83">http://asiaflux.net/index.php?page_id=83</a> <a href="http://asiaflux.net/index.php?page_id=84">http://asiaflux.net/index.php?page_id=84</a>	アジア地域における陸域生態系と大気との間で二酸化炭素のフラックスを体系的に観測するための国際観測ネットワーク(アジアフラックス)に参加。
連続観測および月2～4回の大気サンプリング	経済産業省 ( (研) 産業技術総合研究所、気象庁象研究所と共同)	・大気成分の長期観測による海洋浮遊熱量および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球温暖化安全試験研究費) ・運営費交付金の内訳	19	R1年度～R5年度		<a href="http://dias-dss.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/ddo/viewer?ds=MNM-C02isotoperatio">http://dias-dss.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/ddo/viewer?ds=MNM-C02isotoperatio</a> 連絡先は上記URLに掲載	中間とりまとめ関連
国内3箇所：連続 航空機：月1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳	S62～		・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a>	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
降水：毎日 降水下塵：毎月	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳	S61～		・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a>	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
光度計：毎日 ゾンデ：週1回	気象庁	オゾン層観測		11(11)	S32～	・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a>	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
10分に1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳	S60～		・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a>	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
毎時	気象庁	日射観測		3(3)	S31～	・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a>	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
1～4回/年(観測ラインにより異なる)	気象庁	海洋環境観測業務	692(667)	S22～(温室効果ガスはS66～)		・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html</a> ・関連URL(日) <a href="https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/vessel_obs/data-report/html/ship.php">https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/vessel_obs/data-report/html/ship.php</a> ・関連URL(英) <a href="https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/vessel_obs/data-report/html/index_e.html">https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/vessel_obs/data-report/html/index_e.html</a> ・関連URL(英) <a href="https://www.node.noaa.gov/ocads/oceans/GLODAPV2/">https://www.node.noaa.gov/ocads/oceans/GLODAPV2/</a> ・関連URL(英) <a href="https://www.socat.info/">https://www.socat.info/</a>	世界気象機関(WMO)及びユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)の枠組と連携した観測

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	17		地球環境監視・診断・予測技術高度化に関する研究(温室効果ガスの大気増加・海洋吸収の変動評価及びその人為的・気候的要因の診断解析手法を開発し、地球温暖化の監視技術の高度化を図る)。	○	○	○		海洋中の温室効果ガス、炭酸素、溶存酸素	船舶、その他(水中グライダー)	北太平洋西部
	18		世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)の運営WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	19		世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(QA/SAC)の運営アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	20		世界気象機関(WMO)全球大気監視校正センター(WCC)の運営アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	21		温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)GOSATによる全球の温室効果ガス等の観測データの提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	22		温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2)観測センサーの高度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出単位の排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリと比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	23		温室効果ガス観測技術衛星3号機継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。		○	○		二酸化炭素、メタン、二酸化窒素等	衛星	全球
	24		地球環境モニタリングステーション(波照間、落石、富士山)等による温室効果ガス、短寿命気候汚染物質、大気汚染物質、エアロゾル等の長期的モニタリング長期的にアジア太平洋地域の大気質の変化をモニタリングする	○	○	○		温室効果ガス短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	ステーション(自動観測装置、ポートラサンプル)	波照間島落石岬富士山
	25		アジア、太平洋地域における温室効果ガス等の地上観測の展開インドを含むアジア諸国での観測の空白域を少なくするためにプロジェクトベースで観測点を展開し、温室効果ガス等の観測を行い、これまでなかったデータを取得	○	○	○		温室効果ガス短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	地上	中国、マレーシア、インドネシア、ハワイ、インド、バングラデッシュ
	26		民間船舶を使った太平洋上温室効果ガスモニタリング太平洋上における温室効果ガスやエアロゾル等のバックグラウンド大気モニタリング	○	○	○		温室効果ガス短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	船舶等	太平洋上、東シナ海

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
年に数回	気象庁気象研究所	気候・地球環境変動の要因解明と予測に関する研究	43の内数(20)		R1~R5	—	—
—	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	・利用条件URL(英) https://gaw.kishou.go.jp/policy/gaw	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく活動中間とりまとめ関連
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	・関連URL(日): https://ds.data.jma.go.jp/qasac/qasac.j.html ・関連URL(英): https://ds.data.jma.go.jp/qasac/qasac.html	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく活動中間とりまとめ関連
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	・関連URL(日): https://ds.data.jma.go.jp/gmd/wcc/wcc.j.html ・関連URL(英): https://ds.data.jma.go.jp/gmd/wcc/wcc.html	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく活動中間とりまとめ関連
全球:3日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H18~	和文 http://www.gosat.nies.go.jp 英文 http://www.gosat.nies.go.jp/en/	GOSAT研究公募の枠組みで、120件以上の共同研究契約を20カ国以上の研究機関、大学と締結している。また米国とはGOSAT、GOSAT-2、GOSAT-2iに関する覚書を交わしている。
全球:6日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H24~	和文 http://www.gosat-2.nies.go.jp/jp/ 英文 http://www.gosat-2.nies.go.jp	・GOSAT・GOSAT-2を統合した研究公募を実施し、12カ国36件の共同研究契約を締結。 ・環境省は、JAXA、NIESとともに、米国NASAと、GOSAT、GOSAT-2、GOSAT-2を対象とした覚書を既に締結済み。 ・JAXAとNIESは、本事業の国際連携強化に向け、欧州ESA、仏国CNES、独国防空庁等と協力協定を締結。
全球:3日に1回	環境省(国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充	H30~	—	【中間とりまとめ関連】4-2 課題解決を志向した地球観測インフラの長期的・継続性の確保
連続観測を1時間平均に(富士山では1日1回)	環境省(国立環境研究所)	1. 地球環境の戦略的モニタリング・地上モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 65の内数 2. 19の内数		H5~	連絡サイト: http://db.cger.nies.go.jp/porta/ggus/hateruma02. http://www.nies.go.jp/doi/10.17595/20160901_001.html 英語サイト: http://www.nies.go.jp/doi/10.17595/20160901_001-e.html その他 問い合わせ先: cgerdb_admin@nies.go.jp	—
連続または週に1回	環境省(国立環境研究所)	1. 低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部) 2. (環境省)「温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)シリーズによる排出量検証に向けた技術高度化事業」	1. 46の内数 2. 1,890の内数		H16~	問い合わせ先: www-cger@nies.go.jp	日本中国科学技術協定インドネシア(ポータル農業大学(IPB)、技術評価応用庁(BPPT)とのMoU)マレーシア(マレーシア気象庁(WMO)との協力依頼)日本科学技術協定
連続	環境省(国立環境研究所、農水省水産研究・教育機構)	1. (国立環境研究所)地球環境の戦略的モニタリング・海洋モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	問い合わせ先: www-cger@nies.go.jp G02データは地球環境情報等融合プログラム(http://www.dias.jp.net/use/dias-datasetlist/#02)に登録済み	連絡科学産業研究機構(CSIRO)、NIIAとの共同研究

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点	
				観測	機器開発	データ利用研究	その他				
	27		民間船舶を使った海洋表層の二酸化炭素分圧モニタリング 太平洋における表層海水の二酸化炭素分圧ならびに栄養塩等の観測	○	○	○		二酸化炭素分圧、栄養塩、亜塩素酸イオン、窒素、リン、	船舶等	北大西洋(日本一北米)、西太平洋(日本一オセアニア)	
	28		シベリアにおけるタワー観測ネットワーク シベリアの既存タワーネットワークを利用して二酸化炭素とメタンの濃度の連続観測	○	○	○		二酸化炭素、メタン	地上ステーション(自動観測システム)	西シベリア地域に6カ所	
	29		チャーター機を使った温室効果ガスの航空機モニタリング シベリア上空における、定期チャーター機を利用したサンプリング法による温室効果ガスの鉛直分布観測	○	○	○		二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、同位体比	チャーター機(ボトルサンプリング)	シベリア(スルグウト、ノボシビルスク、ヤクーツク)の上空	
	30		民間航空機(JAL)を使った温室効果ガスのグローバル観測 JAL国際線に二酸化炭素連続測定装置と自動大気サンプリング装置を搭載し、全球規模で温室効果ガスの高度分布を含む立体(3D)分布を観測する。	○	○	○		二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、同位体比	JAL国際線旅客機	世界の国際空港上空とその間のルート(成田、バリ、ハワイ、東京アザ、インド、オーストラリア、その他)	
気候変動に伴う海面上昇の監視	31	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に係る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向流速、海水(面積・厚さ・深さ)の高度・積雪、海水下形状、化学物質、プランクトンなど、温暖化関連溶解物質(大気中・海水中)、海水中の溶解化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(塵・分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、植生、積雪状況、氷床、氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、地上、海中係留系、その他(漂流物など)	北極海およびその周辺海域/地域	
	32	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動、変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支と淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連溶解物質、その他海洋化学物質・温度、塩分、栄養塩、海上気象など	船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大、陸	
	33		温暖化影響の観測 全国の潮位観測施設における精密な海面水位データを収集し、全球海面水位観測システム(GLOSS)にデータを提供する。	○					潮位	地上	全国

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/拡 充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
連続	環境省 (国立環境研究所、 地球環境研究、 農水省水産研究・教 育機構)	1. (国立環境研究所) 地球環境の戦略的モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省) 地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	問い合わせ先: www-cger@nies.go.jp CO2データは地球環境情報等融合プログラム (http://www.dias.jp.net/use/dia- s-datasetlist/#02)と海洋表層 CO2アトラス (http://socat.info)に登録済み	産科科学産業研究機構 (CSIR)、NIIAとの共同研究
連続	環境省 (国立環境研究所)	1. (環境省) 地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	26		H12~	http://db.cger.nies.go.jp/porta/ 地球環境情報等融合プログラム http://www.dias.jp.net/use/dia- s-datasetlist/#02	V.E. Zuev Institute of Atmospheric Optics, Russian Academy of Sciencesとの共同観 測
月に1回	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング 航空機モニタリング事業(運営費交付金の一部)	42の内数		H7~	問い合わせ先: www-cger@nies.go.jp	V.E. Zuev Institute of Atmospheric Optics, Russia Winogradsky Institute of Microbiology, Russia Institute for Biological Problems of Cryolithozone, Russia の3者との共同観測
毎日	環境省 (国立環境研究所、 気象庁気象研究所)	1. (国立環境研究所) 気候変動研究プログラム(運営費交付金の一部) 2. (環境省) 地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 16,307の内数 2. 22		H18~	http://www.cger.nies.go.jp/cont rail/	日本航空株式会社、株式会社ジャ ラ、(公財)JAL財団の寄附 米田博(公財)社との協力 欧州連合IAGOSプロジェクトとの 連携
衛星: 1日に 1,2回程度、船 舶: 1日に4回 程度、地上: 1 日に4回程度、 場所により毎 時、係留系: 1 時間に1回、漂 流ブイ: 1時間 に1回	文部科学省 ( (研) 海洋研究開 発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数、 北極域研究加速プロ ジェクト(951) の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data base/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・ 全球気候観測システム (GOOS)、全球海洋観測システム (GOOS)、ARGO国際プロジェクト、 気候変動及び予測可能性研究 計画(CLIVAR)、気候と雪氷面研 究計画(CIIC)、表層海洋CO2データ ベース(SOCAT)、全球海洋各層 観測調査プログラム(GO-SHIP)、 国際北極科学会議(IASO)、太平洋側北極研究 グループ(PAG)、北極圏海氷 フラックス研究(ASOF)などとい った国際プロジェクト等に参 照し、観測を実施
船舶: 1日に4 回程度、ブ イ: 1時間に1 回~10日に1 回等	文部科学省 ( (研) 海洋研究開 発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数、 環境総合研究推進費 (37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data base/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・ 全球気候観測システム (GOOS)、全球海洋観測システム (GOOS)、ARGO国際プロジェクト、 気候変動及び予測可能性研究 計画(CLIVAR)、表層海洋CO2 データベース(SOCAT)、全球海 洋各層 観測調査プログラム(GO-SHIP)、 熱帯太平洋海洋観測シ ステムプロジェクト(TPOS2020)、 世界定観測ネットワーク (OceanSITES)、国際海洋炭素データ 統合プロジェクト(1000P)、 YMOといった国際プロジェクト等 に参照し、観測を実施 【民間企業参画】 高精度海洋観測センサーを搭載した 次世代型深層フロートの開発に 関する共同研究、海洋標準物質作 成に関する共同研究
連続	気象庁	高潮高波対策業務	高潮高波対策業務 の内数		T13~	・ 利用条件U R L (日): https://www.jma.go.jp/jma/kisho u/info/comment.html ・ 利用条件U R L (英): https://www.jma.go.jp/jma/en/co pyright.html	全球海面水位観測システム (GLOSS)の枠組と連携した観測

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点	
				観測	機器開発	データ利用研究	その他				
③気候変動が大気圏、地球表面、生物圏に与える影響の把握、及び地球環境変動と人為的関与の観測に基づく実証的・定量的な解明	34		衛星エアロソル放射線ミッション(EarthCARE)(EarthCAREプログラムのコアセンサーである雲プロファイリングレーダ(DPR)の開発)	○	○			雲・エアロソル	衛星	全球	
	35		全球降水観測計画衛星(GPM)(TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二重波降水レーダ(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う)	○	○			降水	衛星	全球	
	36		小型テラヘルツリモセンによる氷雲・水蒸気・水蒸気同位体の観測	○	○	○		氷雲・水蒸気・水蒸気同位体	衛星	全球	
	37	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動・変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支と淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連溶解性物質、その他海洋化学物質、温度、塩分、栄養塩、海面上気象など	船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大陸	
	38	再掲	地球表面と人間活動との相互作用の把握 地球表面を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分な陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表面の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、一酸化炭素、二酸化窒素(N2O)、CO2、PM2.5、大気エアロソル粒子物理特性、成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋浮遊植物、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロート)	福江島、横須賀、沖縄辺戸岬、韓国光州、ロシアズベニゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、クロロフィル蛍光、海洋浮遊植物、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海表面流等	北極海、北極海周辺の海域/地域
	39	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向流速、海水(面積・厚さ・凍結速度・積雪・海水下形状・化学物質・プランクトンなど)、温暖化関連溶解性物質(大気中・海水中)、海水中の溶解性化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(量・分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、氷床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地域	
	40		衛星エアロソル放射線ミッション(EarthCARE)(EarthCAREプログラムのコアセンサーである雲プロファイリングレーダ(DPR)の開発を行う。	○				雲・エアロソル	衛星	全球	

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大規模衛星回 線軌道(日帰 日数25日)	総務省 (研)情報通信研 究機構		運営費交付金の内 数		H17~		
全球:3時間ご と	総務省 (研)情報通信研 究機構		運営費交付金の内 数		H12~	JAXAサイト <a href="https://gportal.jaxa.jp/gpr/71a-mg-ja">https://gportal.jaxa.jp/gpr/71a-mg-ja</a>	
3時間ごと	総務省 (研)情報通信研 究機構		運営費交付金の内 数		H16~	<a href="http://smiles.nict.go.jp/pub/data/index.html">http://smiles.nict.go.jp/pub/data/index.html</a>	共同研究・NASA/JPLなど
船舶:1日に4 回程度 フロート、ブ イ:1時間1回 ~10日に1回	文科科学省 (研)海洋研究開 発機構	地球環境の状況把握と変 動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数、 環境総合研究推進費 (37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/</a>	中東とリマとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム (GCOS)、全球海洋観測システム (GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究 計画(CLIVAR)、表層海洋CO2 データベース(SOCAT)、全球海 洋各層 観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測シ ステムプロジェクト(TPOS2020) ・世界定点観測ネットワーク (OceanSITES)、国際海洋表層データ 統合プロジェクト(IOCOP)、 YMCといった国際プロジェクト等 に参画し、観測を実施 【民間企業参画】 高精度浮遊植物センサーを搭載した 次世代型深海用フロートの開発に 関する共同研究・海洋環境変動 中東とリマとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム (GCOS)、北極圏監視評価プロ グラム作業部会(北極圏監視評価 プログラム作業部会(AMAP))、北 極大気汚染と社会(PAGES)、 MOSAiC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサーと韓 国の静止大気汚染観測衛星セン サーの検証プログラム、全球気候 観測システム(GCOS) OceanSITES、全球二酸化炭素フ ラックス観測ネットワーク (FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEIN)、JALIER(Japan Long-Term Ecological Research Network)、GE0 Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計 画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)と いった国際プロジェクト等に参 画し、観測を実施
大気観測は1日4回 毎。植生関係 観測は1日4回 (気象、フラッ グス、分光反 射、積雪等)、 1~5年に1回 (分光反射、葉 面積、バイオ マス)、衛星・ カメラ観測・ 植物季節・ (植物季節・ 天望)は2分が 1日毎、森林 の光環境の観 測(1時間毎) 海洋物質観 測:定点観測 プランクトン センサーは1回 間に1回、海洋 浮遊植物は1か 月に1~2回 船上観測では1 時間~1日毎。 BGCフロートは 1時間に1 回、HF-LRは 毎日5h	文科科学省 (研)海洋研究開 発機構	地球環境の状況把握と変 動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数、 環境総合研究推進費 (37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/</a>	【国際連携状況】 ・全球気候観測システム (GCOS)、全球海洋観測システム (GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究 計画(CLIVAR)、気候と雲気象計 画(CliC)、表層海洋CO2データ ベース(SOCAT)、全球海洋各層 観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議 (IASO)、太平洋側北極研究グ ループ(PAG)、北極圏表層海洋 フラックス研究(ASOF)などと いった国際プロジェクト等に参 画し、観測を実施
衛星:1日に1 ~2回程度、船 舶:1日に4回 程度、地上:1 日に4回程度、 場所により毎 時、係留系:1 時間1回、漂 流ブイ:1時間 に1回	文科科学省 (宇宙航空研究開発 機構、情報通信研 究機構、欧州宇宙機 関)	研究開発推進費		203	H20~	開発中	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	41		全球降水観測計画衛星(GPM)TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二周波降水レーダー(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う。	○		○		降水	衛星	全球
	42	再掲	南島島および緯度における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一の観測所として認定されている南島島と、気象庁観測所において、各機関と連携して、大気主成分や温室効果ガスの挙動に影響する関連ガスを監視する総合的モニタリングシステムを開発し、炭素循環や海洋貯熱量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南島島、緯度
	43		アジア地域二酸化炭素フラックス等観測 アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベースを過して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度、フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびナコンラチャン県
	44	再掲	降水・降下塵観測 降水及び降下塵試料の採取及び化学分析データの提供を継続する。	○				降水及び降下塵	地上	南島島
	45		紫外線観測 波長別紫外域日射観測装置による紫外線観測及びデータ提供を継続する。	○		○		紫外線	地上	全国1箇所
	46	再掲	日射放射観測 日射計及び放射計による日射放射観測及びデータ提供を継続する。	○				日射及び赤外放射	地上	全国5箇所
	47	再掲	地球環境監視・診断・予測技術高度化に関する研究(温室効果ガスの大気増加・海洋吸収の変動評価及びその人為的・気候的要因の診断解析手法を開発し、地球温暖化の監視技術の高度化を図る)。	○	○	○		海洋中の温室効果ガス、炭酸素、溶存酸素	船舶、その他(水中グライダー)	北太平洋西部
	48	再掲	観測船による海洋気象観測 国際的枠組みのもと海洋気象観測船により、海洋深層までの水温や温室効果ガス濃度等を継続して観測し、地球温暖化、海洋環境変動の解明に資するデータを提供する	○				水温、塩分、温室効果ガス、気象等	船舶	北西太平洋
	49		海洋汚染の調査 海洋汚染を防止し、海洋環境を保全する観点から、外洋に面した内湾域から外洋域までの汚染物質の広がりの状態を把握するため、海水や海底堆積物中の油分、ポリ塩化ビフェニル(PCB)、重金属、有機スズ化合物、化学的酸素要求量(COD)に関する調査を実施する。	○				海水及び海底堆積物	船舶	外洋に面した12の内湾域から外洋域にかけての定点
	50		高山帯植生における温暖化影響モニタリング 高山帯植生への地球温暖化影響を把握するための長期的モニタリングの実施	○	○	○		高山帯植生	地上連続観測(自動画像撮影等)	本州および北海道地域の高山帯

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
0時計画全体で3時間毎の全球降水観測	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、米国防空宇宙局)	研究開発推進費	444		H13~	G-Portals https://www.gportal.jp/gportal.html 宇宙航空研究開発機構 地球観測衛星データ提供システム(G-Portals) サポートデスク E-mail: z-gportal-support@jaxa.jp [NASA] https://gpm.nasa.gov/data-access/downloads/gpm [GSMaP] http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP/index_j.htm E-mail: Z-trmm_real@jaxa.jp	【国際連携】 主催者であるGPM衛星を中心にコンステレレーションをNASA/NOAA/EUMETSAT/CNES/ISRO等と形成し、全球降水観測において連携。
連続観測および月2~4回の 大気サンプリング	経済産業省 (産業界技術総合研究所、気象庁気象研究所と共同)	・大気成分の長期観測による海洋貯熱量および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境保全試験研究費) ・運営費交付金の内訳	19		R1年度~R5年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連
項目により10分~1日間隔	経済産業省 (産業界技術総合研究所、岐阜大学と共同)	・科研究費 ・運営費交付金の内訳	3		~R2年度 (以降も継続予定)	https://db.cger.nies.go.jp/asia/fluxdb/?page_id=16 http://ds.data.jma.go.jp/gmd/wdogg/cgi-bin/wdogg/catalogue.cgi?lang=JP 連絡先はURLに記載	・タイにおける観測はタイ科学技術省科学技術研究院(ISTAR)・天然資源環境省国立公園野生生物保護局(ONP)と共同で実施中。 中間とりまとめ関連
降水:毎日 降下塵:毎月	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳		S51~	整理番号12を参照	整理番号12を参照
毎時(日中)	気象庁	紫外域日射観測	0.9(0.4)		H2~	・利用条件URL(日): https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html ・利用条件URL(英): https://www.jma.go.jp/jma/en/copyright.html	世界気象機関(WMO)の全球大気監視(GAW)計画に基づく観測 中間とりまとめ関連
毎時	気象庁	日射観測	3(3)		S31~	整理番号15を参照	整理番号15を参照
年に数回	気象庁気象研究所	気候・地球環境変動の要因解明と予測に関する研究	43の内訳(20)		R1~R5	整理番号17の再掲	整理番号17の再掲
1~4回/年(観測ラインにより異なる)	気象庁	海洋環境観測業務	692(667)		S22~(温室効果ガスはS56~)	整理番号16を参照	整理番号16を参照
各点年1回	海上保安庁海洋情報部	海洋汚染の調査(旅費等)		5	S47~	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html	
毎時	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング・温暖化影響モニタリング(高山帯)事業(運営費交付金の一部)	218の内訳		H23~	観測情報・データダウンロード: http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/mountain/ モバイル向け: http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/mountain-mobile/index.html	



「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	51	再掲	森林炭素収支モニタリング 気候変動と生態系炭素循環の相互作用を解明するための陸域炭素循環観測拠点(炭素移動量観測塔を有する地点等)での森林生態系長期モニタリングの実施	○	○	○	○	一陸気象、波長別放射位 支、群落下での熱・水・二酸化炭素フ ラックス、葉 面積、バイオ マス、その他 陸域炭素循環 各項目	地上連続観測	山梨県(富士吉田) 北海道(天塩・苫小牧)
(2) 気候変動対策の効果把握への貢献										
① 温室効果ガス等の継続的な観測、同地域を含むグローバルかつ高精度の観測体制の構築	52	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	53	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。		○			二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	54	再掲	南島および緯里における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一WMOの全球観測所に選定されている南島と、気象庁緯里観測所において、各機関と連携して、大気主成分や温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的モニタリングシステムを開発し、炭素循環や海洋貯熱量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南島、緯里
	55	再掲	温室効果ガス等の観測 大気中の温室効果ガス等について、国内3地点及び東京～南島間の上空において観測を行い、データ提供を継続する。	○		○		温室効果ガス等	地上、航空機	国内3箇所及び航空機
	56	再掲	降水・降下観測 降水及び降下塵試料の採取及び化学分析データの提供を継続する。	○				降水及び降下塵	地上	南島
	57	再掲	オゾン観測 オゾン分光光度計およびオゾンソナドによるオゾン観測及びデータ提供を継続する。	○		○		オゾン	地上	光度計：全国3箇所 ソナド：全国1箇所
	58	再掲	紫外線観測 波長別紫外域日射観測装置による紫外線観測及びデータ提供を継続する。	○		○		紫外線	地上	全国1箇所
	59	再掲	エアロゾル観測 スカイラジオメーターによるエアロゾル観測及びデータ提供を継続する。	○				エアロゾル	地上	全国3箇所
	60	再掲	日射放射観測 日射計及び放射計による日射放射観測及びデータ提供を継続する。	○				日射及び赤外放射	地上	全国5箇所
	61	再掲	観測船による海洋気象観測 国際的枠組みのもと海洋気象観測船により、海洋深層までの水温や温室効果ガス濃度等を継続して観測し、地球温暖化、海洋環境変動の解明に資するデータを提供する	○				水温、塩分、温室効果ガス、気象等	船舶	北西太平洋
	62	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)の運営 WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	63	再掲	南極海域における大陸・海洋地殻の進化過程解明の基礎データとしての活用及び海図作成のため、海底地形観測を実施するための基本観測として、また、地殻変動や海面水位長期変動監視を目的として昭和基地において潮汐観測を行う。	○				海底地形	船舶	南極地域

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/拡 充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
30分毎	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の継続的モニタリング-森林炭素収支モニタリング事業(運営費交付金の一部)	222の内数		H13~	観測情報・データダウンロード: 環境研究森林炭素収支モニタリングデータ: http://db.cger.nies.go.jp/porta/geds/terrestrialMonitoring 地球環境情報等融合プログラム: http://www.dias.jp.net/use/dias-datasetlist/#02 AsiaFlux database: https://db.cger.nies.go.jp/asiafluxdb/ FLUXNET data portal: http://fluxnet.fluxdata.org/ JALTEr database: http://db.cger.nies.go.jp/JALTEr/	国際連携、下記観測ネットワークの一部を構成する AsiaFlux: http://asiaflux.net FLUXNET: http://fluxnet.fluxdata.org/ ILTER: https://www.ilter.net.edu/content/ilter-web-site
全球：3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	880		H20~		整理番号6を参照
全球：6日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	20		H26~		整理番号7を参照
連続観測および月2~4回の 大気サンプリング	経済産業省 (産業技術総合研究所、気象庁気象研究所と共同)	・大気成分の長期観測による海洋貯熱量および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境総合試験研究費) ・運営費交付金の内数	19		R1年度~R5年度		整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連
国内3箇所：連続 航空機：月1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S62~		整理番号11を参照 整理番号11を参照
降水：毎日 降下塵：毎月	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S51~		整理番号12を参照 整理番号12を参照
光度計：毎日 ソナド：週1回	気象庁	オゾン観測	11(1)		S32~		整理番号13を参照 整理番号13を参照
毎時(日中)	気象庁	紫外域日射観測	0.9(0.4)		H2~		整理番号45を参照 整理番号45を参照
10分に1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S50~		整理番号14を参照 整理番号14を参照
毎時	気象庁	日射観測	3(3)		S31~		整理番号15を参照 整理番号15を参照
1~4回/年(観測ラインにより異なる)	気象庁	海洋環境観測業務	692(667)		S22~(温室効果ガスはS56~)		整理番号16を参照 整理番号16を参照
—	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~		整理番号18を参照 整理番号18を参照
年1回	海上保安庁海洋情報部	南極地域観測事業費(南極地域観測事業に必要な経費)	27		S40~	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html	水深データ取得のための水路測量と海図の発行が国際水路機関南極地域水路委員会(HCA)の枠組みに位置づけられている。

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	64	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)による全球の温室効果ガスの観測及びデータ処理、データ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン	衛星	全球
	65	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2)の観測センサーの高度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出源単位での排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリと比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	66	再掲	温室効果ガス観測技術衛星3号機 継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。			○	○	二酸化炭素、メタン、二酸化窒素等	衛星	全球
	67	再掲	地球環境モニタリングステーション(波照間、青石、富士山)等による温室効果ガス、短寿命気候汚染物質、大気汚染物質、エアロゾル等の長期的モニタリング 長期的にアジア太平洋地域の大気質の変化をモニタリングする	○	○	○		温室効果ガス 短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	ステーション(自動観測装置、ボトルサンプラー)	波照間島 落石岬 富士山
	68	再掲	アジア、太平洋地域における温室効果ガス等の地上観測の展開 インドを含むアジア諸国での観測の空白域を少なくするためにプロジェクトベースで観測点を展開し、温室効果ガス等の観測を行い、これまでなかったデータを取得	○	○	○		温室効果ガス 短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	ステーション(自動観測装置、ボトルサンプラー)	中国、マレーシア、インドネシア、インドネシア、インド、バングラデッシュ
	69	再掲	民間船舶を使った太平洋上温室効果ガスモニタリング 太平洋上における温室効果ガスやエアロゾル等のバックグラウンド大気モニタリング	○	○	○		温室効果ガス 短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	船舶等	太平洋上、東シナ海
	70	再掲	民間船舶を使った海洋表層の二酸化炭素分圧モニタリング 太平洋における表層海水の二酸化炭素分圧ならびに栄養塩等の観測	○	○	○		二酸化炭素分圧、酸素分圧、窒素、リン、	船舶等	北太平洋(日本-北米)、西太平洋(日本-オセアニア)
	71	再掲	シベリアにおけるタワー観測ネットワーク シベリアの既存タワーネットワークを利用して二酸化炭素とメタンの濃度の連続観測	○	○	○		二酸化炭素、メタン	地上ステーション(自動観測システム)	西シベリア地域に6カ所
	72	再掲	チャーター機を使った温室効果ガスの航空機モニタリング シベリア上空における、定期チャーター機を利用したサンプリング法による温室効果ガスの鉛直分布観測	○	○	○		二酸化炭素、メタン、二酸化窒素、同位体比	チャーター機(ボトルサンプリング)	シベリア(スルグート、ノボシビルスク、ヤクーツク)の上空
	73	再掲	民間航空機(JAL)を使った温室効果ガスのグローバル観測 JAL国際線に二酸化炭素連続測定装置と自動大気サンプリング装置を搭載し、全球規模で温室効果ガスの高度分布を含む立体(3D)分布を観測する。	○	○	○		二酸化炭素、メタン、二酸化窒素、同位体比	JAL国際線旅客機	世界の国際空港上空とルート(成田、バリ、ハワイ、東南アジア、インド、オーストラリア、その他)

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球：3日に1回	環境省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H18~	整理番号21を参照	整理番号21を参照
全球：6日に1回	環境省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H24~	整理番号22を参照	整理番号22を参照
全球：3日に1回	環境省 (国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充	H30~	整理番号23の再掲	整理番号23の再掲
連続観測を1時間平均に(富士山では1日1回)	環境省 (国立環境研究所)	1. 地球環境の戦略的モニタリング・地上モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 65の内数 2. 19の内数		H5~	整理番号24を参照	整理番号24の再掲
連続または週に1回	環境省 (国立環境研究所)	低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部)	16,307の内数		H16~	整理番号25を参照	整理番号25を参照
連続	環境省 (国立環境研究所、農水省水産研究・教育機構)	1. (国立環境研究所)地球環境の戦略的モニタリング・海洋モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	整理番号26を参照	整理番号26を参照
連続	環境省 (国立環境研究所、教育機構)	1. (国立環境研究所)地球環境の戦略的モニタリング・海洋モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	整理番号27を参照	整理番号27を参照
連続	環境省 (国立環境研究所)	1. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	26		H12~	整理番号28を参照	整理番号28を参照
月に1回	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング・航空機モニタリング事業(運営費交付金の一部)	42の内数		H7~	整理番号29を参照	整理番号29を参照
毎日	環境省 (国立環境研究所、気象庁気象研究所)	1. (国立環境研究所)低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部) 2. (環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 16,307の内数 2. 22		H18~	整理番号30を参照	整理番号30を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	74	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的・海洋環境変動の把握に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支や淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的・海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大陸	
	75	再掲	地球表層と人間活動との相互作用の把握 地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分な陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表層の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	80、対流圏オゾン、二酸化炭素、二酸化窒素(N2O)、CO2、PFCs、大気エアロゾル粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降物、子、海水中の溶存酸素、pH、溶存酸素、植物プランクトン、動物プランクトン、浮遊動物、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロート)	福島島、横須賀、沖縄、鹿児島、沖縄、日光、ロシア、ベネチア、アラカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、インドネシア、シベリア、西部北極海、北極海、東部洋縁海等
	76	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○	○	海水温、塩分、流向流、海氷(面積、厚さ、凍結速度、積雪、海氷下形状、化学物質、プランクトンなど)、温暖化関連溶存物質(大気中、海水中)、海水中の溶存化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(量分布、形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、水床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、海中係留系、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地域
②温室効果ガス、短寿命気候汚染物質、エアロゾルの北極域を含む地球規模の三次元大気観測及び地表での吸放出量の観測	77	再掲	大気中のSLiPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う国際宇宙ステーション搭載観測SCOPE	○	○	○	○	大気汚染物質	衛星	全球
	78	再掲	大気中のSLiPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う静止衛星搭載観測MAP-ASIA	○	○	○	○	大気汚染物質	衛星	アジア域
	79		福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予報システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
船舶：1日に4回程度、ブイ：1時間に1回～10日に1回等	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測システムプロジェクト(TPOS2020)、世界定点観測ネットワーク(OceanSITES)、国際海洋観測データ統合プロジェクト(1000)、VMOといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施【民間企業参画】 高緯度洋中観測センサーを搭載した次世代型深海用フロートの開発に関する共同研究、海洋標準物質作成に関する共同研究
大気組成観測は1時間～1日毎、植生指標観測は1日4回(気象・フラッグス、分光反射率、積雪等)、1～5年に1回(少氷反射率、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節・天空)は2分から1日毎、森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測：定点観測プラットフォーム、動物プランクトン計測、海表面流等	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極域観測調査プログラム(AMAP)、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサーや韓国の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JALIER(Japan Long-Term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
衛星：1日に1、2回程度、船舶：1日に4回程度、地上：1日に4回程度、場所により毎時、係留系：1時間に1回、漂流ブイ：1時間に1回	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極域研究推進プロジェクト(951)の内数		H31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、気候と雪氷面計画(GIIC)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASO)、太平洋北極域研究グループ(PAG)、北極圏海氷海洋フラックス研究(ASOF)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球 1日1回	総務省( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数		H24～		共同研究：文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)
1時間に1回	総務省( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数		H24～		共同研究：文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)
1時間に1回	総務省( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数		H28～		共同研究：文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)、奈良女子大学、東北大学、理研(国立環境研究所)、韓国ヨンセ大学

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	80	再掲	地球表面と人間活動との相互作用の把握 地球表面を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表面の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、一酸化炭素、二酸化炭素(N <sub>2</sub> O)、O <sub>3</sub> 、PM <sub>2.5</sub> 、大気エアロゾル、粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロード)	福江島、横須賀、沖縄辺戸岬、韓国光州、ロシアペニゴロ、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、北極海等 北極海定点(NAP)、東部洋経海峡
	81	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に係る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○	○	海水温、塩分、流況流速、海水(海面)積・厚さ・凍結速度、植物氷、海水下形状、化学物質、プランクトンなど)、温暖化関連溶解物質(大気中、海水中)、海水の溶解化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(量・分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、水床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、海上、海中係留系、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地域
	82	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○	○	○	○	二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	83	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	84	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)観・エアロゾル、積雪分布の気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○	○	○	○	雲、エアロゾル、積雪分布等	衛星	全球
	85	再掲	シベリアにおけるタワー観測ネットワークシベリアの既存タワーネットワークを利用して二酸化炭素とメタンの濃度の連続観測	○	○	○	○	二酸化炭素、メタン	地上ステーション(自動観測システム)	西シベリア地域に6カ所
	86	再掲	チャーター機を使った温室効果ガスの航空機モニタリングシベリア上空における、定期チャーター機を利用したサンプリング法による温室効果ガスの鉛直分布観測	○	○	○	○	二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、同位体比	チャーター機(ボルトサンプリング)	シベリア(スルゴシ、ノボシビルスク、ヤクーツク)の上空
	87	再掲	民間航空機(JAL)を使った温室効果ガスのグローバル観測JAL国際線に二酸化炭素連続測定装置と自動大気サンプリング装置を搭載し、全球規模で温室効果ガスの高度分布を含む立体(3D)分布を観測する。	○	○	○	○	二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、同位体比	JAL国際線旅客機	世界の国際空港上空とその間のルート(成田、バリ、ハワイ、東南アジア、インド、オーストラリア、その他)

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大気組成観測は1時間~1日毎、植生観測は1日48回(気象・フラッグス、分光反射率、積雪等)、1~5年に1回(分光反射率、葉面積、バイオマス)、衛星、カメラ観測(植物季節・天空)は2分から1日毎、森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測は1日48回、植物プランクトン1回、海洋沈降粒子は1か月に1回、船上観測では1時間~1日毎、BGCフロードは1時間に1回、HF-Liは毎日1回	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		R31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GCOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(MAMP))、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサや韓国の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GCOS)、OceanITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JALIER(Japan Long-term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
観測:1日に1.2回程度、地上:1日に4回程度、海上:4回程度、場所により異なる、係留系:1時間に1回、漂流ブイ:1時間に1回	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極域研究加速プロジェクト(951)の内数		R31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GCOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(CLIVAR)、気候と雪氷圏計画(GIC)、表層海洋CO <sub>2</sub> データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IAO)、太平洋側北極研究グループ(PAG)、北極圏冬季海洋フロッグス研究(AOP)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球:3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	880		H20~	整理番号6を参照	整理番号6を参照
全球:6日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	20		H26~	整理番号7を参照	整理番号7の再掲
全球:2~3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
連続	環境省(国立環境研究所)	1.(環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	26		H12~	整理番号28を参照	整理番号28を参照
月に1回	環境省(国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング・航空機モニタリング事業(運営費交付金の一部)	42の内数		H7~	整理番号29を参照	整理番号29を参照
毎日	環境省(国立環境研究所)(気象庁気象研究所)	1.(国立環境研究所)低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部) 2.(環境省)地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1,16,307の内数 2,22		H18~	整理番号30を参照	整理番号30を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
③衛星観測等による森林火災の監視、全球植生のバイオマスや一次生産力の監視	88	再掲	地球表面と人間活動との相互作用の把握 地球表面を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表面の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、バイオ化炭素、二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )、O <sub>3</sub> 、PM <sub>2.5</sub> 、大気エアロゾル、粒子物理特性、成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海水中の溶解酸素、pH、溶存酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン、群集、海面流速等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロード)	福江島、横須賀、沖縄辺戸岬、韓国光州、ロシアズベニゴロフ、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北極海定地点(K2)、西部北極海定地点(NAP)、東部津軽海峡
	89	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に係る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○	○	海水温、塩分、流向流速、海水(海中)滞留、積・厚さ、凍結速度、積雪、海水下形状、化学物質、プランクトンなど)、温暖化関連海洋物質(大気中、海水中)、海水中の溶解化学物質、炭素塩、大気中の化学物質(量・分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、植生、積雪状況、水床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、地上、海中(滞留系、その他(漂流ブイなど))	北極海およびその周辺海域/地域
	90		小型赤外カメラ 小型赤外カメラによる森林火災や火山の観測を行い、データ提供を行う。	○				森林火災	衛星	全球
	91		陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大気組成観測は1時間~1日毎。植生関係観測は1日48回(気象・フラッグス、分光反射、積雪等)、1~5年に1回(分光反射、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節・天窓)は2分から1日毎。森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測:定常観測のうち、センサーは1時間に1回、海洋広域観測は1か月に1回、船上観測では1時間~1日毎。BGCフロードは1時間に1回、HF-Li <sup>+</sup> は毎分1回。	文部科学省 ( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(MAP))、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサや韓国の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JaLIER(Japan Long-Term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
観測:1日に1,2回程度、船舶:1日に4回程度、地上:1日に4回程度、場所により毎時、係留系:1時間に1回、漂流ブイ:1時間に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極域研究加速プロジェクト(951)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(GIC)、表層海洋CO <sub>2</sub> データベース(SOCC)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASO)、太平洋側北極研究グループ(PAG)、北極圏東洋海洋フックス研究(AOP)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
搭載衛星に依る	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金(115,923)の内数		H21~		
全球:最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	[PASCO] <a href="http://jp.alos-pasco.com/">http://jp.alos-pasco.com/</a> 株式会社パスコ 衛星事業部 事業推進部 事業推進課 Tel: 03-5465-7276 E-mail: order@alos-pasco.com [RESTEC] <a href="http://www.alos-restec.jp/">http://www.alos-restec.jp/</a> 一般財団法人リモート・センシング技術センター ソリューション事業部 TEL: 03-6435-6789 [AUIG2] <a href="https://aui2.jaxa.jp/ips/home">https://aui2.jaxa.jp/ips/home</a> ●AUIG2の使用法のお問い合わせ担当窓口 宛先 ALOS-2オーダデスク E-mail: Z-ALOS-Z.ORDERDESK@jaxa.jp ●共同研究・PIお問い合わせ担当窓口 宛先 EORCオーダデスク E-mail: Z-orderdesk@jaxa.jp ●「だいち」防災利用実証実験担当窓口 宛先 防災ユーザー総合窓口 E-mail: Z-BOUSA1-HELP@jaxa.jp	[民間参画] PASCO、RESTECによるデータ配布。

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	92	再掲	陸域観測技術衛星2号「たいしち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「たいら2号」(ALOS-2)による植生、雲水等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雲水等	衛星	全球
	93	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	94	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	95	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。			○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	96	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)GOSATによる全球の温室効果ガスの観測及びデータ処理、データ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	97	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2)観測センサーの高度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出単位の排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリの比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	98	再掲	温室効果ガス観測技術衛星3号機継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。			○	○	二酸化炭素、メタン、二酸化窒素等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球:14日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704	H20~		【PASO】 <a href="http://jp.alos-pasoo.com/">http://jp.alos-pasoo.com/</a> 株式会社AIXO 衛星事業部 事業推進部 事業推進課 Tel:03-5465-7376 E-mail:order@alos-pasoo.com 【RESTEC】 <a href="http://www.alos-restec.jp/">http://www.alos-restec.jp/</a> 一般財団法人リモート・センシング技術センター ソリューション事業部 TEL:03-6435-6789 【AUIG2】 <a href="https://aui22.java.jp/ips/home">https://aui22.java.jp/ips/home</a> ●AUIG2の使用法のお問い合わせ担当窓口 宛先 ALOS-2オーダデスク E-mail:2-orderdesk@jaxa.jp ●共同研究・PIお問い合わせ担当窓口 宛先 EUROオーダデスク E-mail:2-orderdesk@jaxa.jp ●「だいち」防災利用実証実験担当窓口 宛先 防災ユーズ総合窓口 E-mail:Z-BOUSAI-HELP@jaxa.jp	【長問参照】PASO、RESTECによるデータ配布
全球:2~3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252	H17~		整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球:3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	880	H20~		整理番号6を参照	整理番号6を参照
全球:6日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	20	H26~		整理番号7を参照	整理番号7の再掲
全球:3日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	H18~		整理番号21を参照	整理番号21を参照
全球:6日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	H24~		整理番号22を参照	整理番号22を参照
全球:3日に1回	環境省(国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充 H30~		整理番号23の再掲	整理番号23の再掲

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
(3) 気候変動の予測精度の向上への貢献										
①開発途上国を中心とした国々の過去の観測記録のデジタル化、古気候プロキシデータの体系的な収集、永続性・堅牢性のあるアーカイブシステムの構築等	99		データ統合・解析システム(OAS)の構築 地球観測・予測情報を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○				
②気候モデルのシミュレーション精度の向上とアンサンブル数の増大	100	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○	大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球	
	101		地球環境の変動予測 地球環境変動モデルと観測研究との連携を強化することで個々の再現性や予測精度を向上させるとともに、モデル間の連携を促進する。これにより、各々のモデルが扱う時間空間スケールの重複領域や気圏、水圏、生物圏等、各圏の相互作用によって発生する極端現象や環境変動のメカニズムについて新たな知見を得る。			○				
	102		気候モデルの性能向上及び気候変動予測の確率情報の創出 気温、降水、雲などの地上観測データと衛星観測データと気候モデルシミュレーション結果を比較し、気候モデルの性能向上を行っているとともに、気候モデルによる確率予測実験を行っている。また、多数のアンサンブル実験を行い、将来予測に確率的に評価することのできる気候変動予測情報を創出する。			○				
			気候変動適応技術社会実装プログラム これまでの気候変動研究の蓄積を生かすとともに、地方自治体等が適応策を策定するために必要となる共通基盤技術を開発、整備することにより、成果の社会実装を行う。			○				

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	382	拡充	H26~R2	DIASホームページ <a href="http://www.dias.jp.net/">http://www.dias.jp.net/</a>	中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用 の現場に繋ぐ取組の強化(地球 観測による課題解決への更なる貢 献) 4-4 共通の・基盤的な取組の推 進とイノベーションへの貢献
1時間に1回	総務省 (一部) 情報通信研 究機構		運営費交付金の内数		H26~		
	文部科学省 (一部) 海洋研究開 発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data&lt;br/&gt;base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 全球気候観測システム(GOOS)、 全球海洋観測システム(GOOS)、 気候変動及び予測可能性研究計画 (OLIVAR)、SeaRISE(国際水床 モデル比較プロジェクト)に参画 し、観測を承擔といった国際プロ ジェクトに参画し、観測を実施
	文部科学省	統合的気候モデル高度化 研究プログラム	744百万円の内数	拡充	H29~R3	統合的気候モデル高度化研究プロ グラム ホームページ <a href="http://www.jamstec.go.jp/tougou/">http://www.jamstec.go.jp/tougou/ /</a>	実施機関: 東京大学、国立環境研 究所、海洋開発研究機構、気象業 務支援センター、気象庁気象研究 所 中間とりまとめ関連「4-3 予測情 報の高精度化」
	文部科学省	気候変動適応技術社会実 装プログラム	354		H27~H31	気候変動適応技術社会実装プロ グラム(SI-CAT)ホームページ <a href="https://si-cat.jp/">https://si-cat.jp/</a>	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
2. 地球環境の保全と利活用の高立への貢献										
(1) 持続的な海洋の利活用への貢献										
① 海洋内部の自動計測技術、生態系変動や生物多様性の指標の計測技術、極海域や深海域等における観測技術の開発										
	103	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動、変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支や淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○				
	104		海洋調査プラットフォーム関連技術開発 広域かつ大水深域への対応が可能な、自律型を含む無人探査機システムを実装する。		○			地形、地質、海水(物理化学)、生物など	その他(ROV、AUVなど)	-
	105		地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価 深海の生物多様性変動を把握するために、環境DNAによる多様性解析手法を確立しながら、環境変動と多様性変動の関連を解析する。プラスチックによる深海生態系への汚染を把握するために、プラスチックの分析技術開発、プラスチックサンプリング技術開発、海洋生物によるプラスチックの取り込みやプラスチック起因化学物質の蓄積を解析する。巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。そして、人間活動を含む環境変動が生態系へ与える影響の詳細に資する知見を得る。	○	○	○		海洋生物/環境DNA/プラスチック/プラスチック含有化学物質/POB/水温、塩分、溶解酸素など物理・化学環境/地形・底質	船舶、地上、衛星、その他(ラボリアル、ランスタック有化学物質)	駿河湾、相模湾、西太平洋、三陸沖
	106	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に係る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向速度、海水(凍結、厚さ・濃度、凍結速度・積雪・海水下形状・化学物質・プランクトンなど)、温暖化関連溶解物質(大気中、海水中)、海水中の溶解化学物質、氷量、大気中の化学物質(量・分布・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、氷床水質(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、地上、海中係留系、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地球
	107	再掲	地球環境監視・診断・予測技術高度化に関する研究(温室効果ガスの大気増加・海洋吸収の変動評価及びその人為的・気候的要因の診断解析手法を開発し、地球温暖化の監視技術の高度化を図る)。	○	○	○		海洋中の温室効果ガス、炭酸ガス、溶解酸素	船舶、その他(水中グライダー)	北太平洋西部
	108		水温上昇によるサンゴ分布変化のモニタリング 沖縄、九州、四国、関東沖までの定点においてサンゴの北上をモニタリングする	○	○	○		サンゴ	海洋	対馬、奄美、五島、濟州島、天山、串本、伊豆、館山

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄	
船舶:1日に4回程度、地上、衛星:連日観測 プロジェクト、ブイ:1時間1回~10日に1回等	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測システムプロジェクト(TPOS2020)、世界定点観測ネットワーク(OceanSITES)、国際海洋要素データ統合プロジェクト(IOCOP)、YMOといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施 【民間企業参画】 高精度溶解酸素センサーを搭載した次世代型深海用フロートの開発に関する共同研究、海洋標準物質作成に参画する民間企業 中間とりまとめ関連	
-	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	海洋調査PFの整備・運用及び技術的向上	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4~R8.3	-	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・国際ヨトトレースの機会を利用し、パラオ、UNEP関連機関を含む多様なセクターとの協働により、海洋プラスチック問題を含む海洋科学と海洋リテラシー普及を図り、国際的に発信。 ・海洋プラスチック観測研究の国際ネットワーク構築、手法の標準化を進める国連(GESAMPやGOOS)、環境省関連の専門家グループに加入し、今後10年間の行動計画の策定等に貢献。 ・ユネスコ/IOC/IOOE/OBISに日本ロードとして参画するとともに深海生物の多様性情報をOBISに提供
駿河湾、相模湾、三陸沖は3-4回/年程度 西太平洋は1回/年	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構 海洋資源利用促進技術開発プログラム 海洋情報把握技術開発:マイクロプロセッサに関する情報取得のための技術開発(文部科学省) ・環境研究総合推進費:海洋プラスチックごみのモニタリング・計測手法等の高度化:海底堆積物中のプラスチックごみの計測技術の高度化(環境省) ・東北マリンスイエンス拠点形成事業(文部科学省) ・環境研究総合推進費S15:社会・生態システムの統合化による自然資本・生態系サービスの予測評価(環境省)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、気候と雲氷圏計画(OIC)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASC)、太平洋側北極研究グループ(PAG)、北極圏寒帯海洋フラックス研究(ASOF)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施	
衛星:1日に1.2回程度、船舶:1日に4回程度、場所により毎時、係留系:1時間1回、漂流ブイ:1時間に1回	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極域研究加速プロジェクト(951)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、気候と雲氷圏計画(OIC)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASC)、太平洋側北極研究グループ(PAG)、北極圏寒帯海洋フラックス研究(ASOF)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施	
年に数回	気象庁気象研究所	気候・地球環境変動の要因解明と予測に関する研究	43の内数(20)		R1~R5	整理番号17の再掲	整理番号17の再掲	
年に1回	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング:温暖化影響モニタリング(海洋生物)事業(運営費交付金の一節)	5		H23~	和文: http://db.cger.nies.go.jp/gem/ja/coral/ 英文: http://db.cger.nies.go.jp/gem/en/coral/		



「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
①船舶、パイなどによる全球海洋観測網の整理と維持、生物化学環境観測への拡張及び北極海や深海域等での観測網の充実と国際協力の推進	109	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的・化学的な海洋環境の変動・変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支と淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更に全球規模の物理的・化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○				
	110	再掲	地球表面と人間活動との相互作用の把握 地球表面を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分な陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表面の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○「プロセスマセル化」	BC、対流圏オゾン、一酸化炭素、二酸化窒素(NO2)、O3、PM2.5、大気エアロゾル、粒子物理特性、成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降物、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン、動物プランクトン群、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフット)	福島県、横須賀、沖縄辺野川、韓国光州、ロシアズベニゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球、マレーシア、アラスカ、シベリア、西側北太平洋定点(K2、KEO)、西部北極海定点(NAP、NBC)、東部洋経海峡
	111	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に依る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向流、速、海水(面積・厚さ・深さ)流速・積、漂流バイナリ、海水下形状、化学物質、プランクトンなど、温暖化関連溶解物質(大気中、海水中、海水中の溶解化学物質・栄養塩・大気中の化学物質(雲・霧・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、水床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、海中係留系、その他	北極海およびその周辺海域/地域
	112	再掲	観測船による海洋気象観測 国際的枠組みのもと海洋気象観測船により、海洋深層までの水温や温室効果ガス濃度等を継続して観測し、地球温暖化、海洋環境変動の解明に資するデータを提供する	○				水温、塩分、湿度、酸素、気象等	船舶	北太平洋
	113		中層フロートによる海洋観測 国際的枠組みのもと中層フロートで、海洋内部の水温を高頻度で観測し、海洋の温暖化、異常気象の予想等に資するデータを提供する	○				水温、塩分	その他(中層フロート)	日本周辺海域
	114		南極地域観測事業 南極海域における大陸・海洋地殻の進化過程解明の基礎データとしての活用及び海図作製のため、海底地形調査を実施するための基本観測として、また、地殻変動や海面水位長期変動監視を目的として昭和基地において潮汐観測を行う。	○					潮汐	観測所

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
船舶：1日に4回程度、連続観測(1時間)1回、漂流バイナリ：1時間1回～10日に1回等	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内、環境総合研究推進費(37)の内数		R31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測システムプロジェクト(TPOS2020)、世界定観測ネットワーク(OceanSITES)、国際海洋要素データ統合プロジェクト(1000P)、VMOといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施【民間企業参画】 高緯度洋行観測センサを搭載した次世代型深海用フロートの開発に関する共同研究、海洋標準物質作成に関する共同研究
大気組成観測は1時間～1日毎。植生関係観測は1日4回(気象・フラッグロス、分光放射、積雪等)、1～5年に1回(分光放射、葉面積、バイオマス、衛星・カメラ観測(植物季節、天窓)は2分から1日毎。森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測：定常観測(1時間)センサーは1時間1回、海洋沈降物計は1か月に1回、HF-1は毎0.5h	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内、環境総合研究推進費(37)の内数		R31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極監視評価プログラム作業部会(北極監視評価プログラム作業部会(AMAP))、北極大気汚染と社会(PAGES)、MOSAIC (Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate) TROPOMI 衛星センサと韓国の静止大気汚染観測衛星センサ GEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network (PEN)、JaLIER (Japan Long-term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN (Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network (GOA-ON) といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
衛星：1日に1,2回程度、船舶：1日に4回程度、地上：1日に4回程度、積雪・海水下形状、化学物質、プランクトンなど、温暖化関連溶解物質(大気中、海水中、海水中の溶解化学物質・栄養塩・大気中の化学物質(雲・霧・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、積雪状況、水床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内、北極域研究加速プロジェクト(G51)の内数		R31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、気候と雪氷面研究計画(GIIC)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASO)、太平洋北極研究グループ(PAG)、北極圏海氷研究フラックス研究(ASOF) などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
1～4回/年(観測タイミングにより異なる)	気象庁	海洋環境観測業務	692(667)		S22～(運用効果ガスはS56)	整理番号16を参照	整理番号16を参照
年間約50回のフロートを運用	気象庁	海洋環境観測業務、気候・海洋情報処理業務			H12～	・利用条件URL(日)： http://www.jamtec.go.jp/j-ARGO/data/data.html	世界気象機関(WMO)及びユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)の枠組と連携した観測
常時	海上保安庁海洋情報部	南極地域観測事業(消耗品等)	23		S40～	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html	地球規模の海面水位長期変動監視のための国際的な世界海面水位観測システム(GLSS)へのデータ提供を行っている。

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	115	再掲	民間船舶を使った太平洋上温室効果ガスモニタリング 太平洋上における温室効果ガスやエアロゾル等のバックグラウンド大気モニタリング	○	○	○		温室効果ガス 長寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	船舶等	太平洋上、東シナ海
	116	再掲	民間船舶を使った海洋表層の二酸化炭素分圧モニタリング 太平洋における表層海水の二酸化炭素分圧ならびに栄養塩等の観測	○	○	○		二酸化炭素分圧、酸素分圧、窒素、リン、	船舶等	北太平洋(日本-北米)、西太平洋(日本-オセアニア)
③雪氷・海水分布の常時把握や将来予測	117	再掲	北極域における環境変動の把握と海水下観測技術開発 地球温暖化の影響が最も顕著に現れている北極域において、海洋・海水環境の現状把握のためのデータの取得を促進し、海洋と海水との相互作用等の気候・環境システムの理解を進めることにより、北極域の環境変動に依る将来予測の不確実性を低減するための研究開発を行う。	○	○	○		海水温、塩分、流向流速、海水(面層・厚さ・漂流速度・積雪・海水下形状・化学物質、プラスチックトンなど)、温暖化関連溶解物質(大気中・海水中)、海水中の溶解化学物質・栄養塩、大気中の化学物質(塵・分形・形状など)、海上気象、陸上気象、高層気象、植生、積雪状況、氷床氷河(質量・表面状態などの変化)、など	衛星、船舶、地上、海中係留系、その他(漂流ブイなど)	北極海およびその周辺海域/地域
	118	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	119	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	120		水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W) GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	121		地球システムモデルによる将来予測 地球システムモデルは、大気海洋統合気候モデルを骨格として、エアロゾル、大気化学、海洋・海氷・海生化学、河川、陸面生態系など多種多様な要素モデルを結合させた統合モデルであり、このモデルを用いた温暖化実験により、海水分布も含めた要素の将来予測を行っている。			○		-	-	-

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
連続	環境省(国立環境研究所、農水省水産研究・教育機構)	1. (国立環境研究所) 地球環境の戦略的モニタリング・海洋モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省) 地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	整理番号26を参照	整理番号26を参照
連続	環境省(国立環境研究所、農水省水産研究・教育機構)	1. (国立環境研究所) 地球環境の戦略的モニタリング・海洋モニタリング事業(運営費交付金の一部) 2. (環境省) 地球環境保全試験研究費(地球環境保全試験研究費)	1. 44の内数 2. 27の内数		H5~	整理番号27を参照	整理番号27を参照
衛星: 1日に1.2回程度、船舶: 1日に4回程度、地上: 1日に4回程度、場所により毎時、係留系: 1時間1回、漂流ブイ: 1時間1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、北極域研究加速プロジェクト(951)の内数		H31-R7	問合せ先: 付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	【国際連携状況】 ・ 全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(OLIVAR)、気候と雪氷圏計画(CLIC)、表層海洋CO2データベース(SOCCAT)、全球海洋層観測調査プログラム(GO-SHIP)、国際北極科学会議(IASO)、太平洋側北極研究グループ(PAG)、北極圏寒帯海洋フラックス研究(ASOF)などといった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球: 最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球: 14日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球: 2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	[DPSS] <a href="https://gcom-wl.java.jp/auth.html">https://gcom-wl.java.jp/auth.html</a> 宇宙航空研究開発機構 GCOM-W データ提供サービス ヘルプデスク E-mail: Z-gw@help.java.jp [GSMaP] <a href="http://sharaku.eorc.java.jp/GSMaP/index_j.htm">http://sharaku.eorc.java.jp/GSMaP/index_j.htm</a> E-mail: Z-trmm_real@java.jp [JASMES] <a href="http://kuroshio.eorc.java.jp/JASMES/">http://kuroshio.eorc.java.jp/JASMES/</a> E-mail: Z-GCOM_OAR@java.jp	【国際連携】 NOAAと地上局で連携。NASA主導の国際的な衛星コンステレーション(A-Train)に参加。
-	文部科学省	統合的気候モデル高度化研究プログラム	744百万円の内数	拡充	H29~R3		実施機関: 海洋開発研究機構 向付り定ため関連「4-3 予測情報の高精度化」

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点	
				観測	機器開発	データ利用研究	その他				
(2) 生態系・生物多様性の現状把握と保全への貢献											
①各種生態系の機能や動態、絶滅危惧種や生物間相互作用などの状況、生態系の成長と攪乱からの回復過程等の解明・予測。沿岸域生態系のモニタリング	122	再掲	地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価 深海の生物多様性変動を把握するために、環境DNAによる多様性解析手法を確立しながら、環境変動と多様性変動の関連を解析する。プラスチックによる深海生態系への汚染を把握するために、プラスチックの分析技術開発、プラスチックサンプリング技術開発、海洋生物によるプラスチックの取り込みやプラスチック超超微粒子の産生を解析する。巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。そして、人間活動を含む環境変動が生態系へ与える影響の評価に資する知見を得る。					海洋生物/環境DNA/プラスチック/プラスチック含有化学物質、POB	船舶、その他(ラビゲーター)	駿河湾、相模湾、西太平洋、三陸沖	
	123	再掲	地球表層と人間活動との相互作用の把握 地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分な陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表層の変動等と人間間における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。					BC、対流圏オゾン、二酸化炭素、一酸化窒素(N2O)、O3、PM2.5、大気エアロゾル、粒子物理特性、成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降物、海水化学、栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海面潮流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロート)	福江島、横須賀、沖縄辺戸岬、韓国光州、ロシアペニゴロト、アララスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、レーシア、アラスカ、シベリア、西太平洋洋底点(K2、KED)、西部北極海底点(MAP、NBC)、東部洋底海峡	
	124		水産資源調査・評価推進事業 我が国周辺水域の主要魚種について、資源調査・評価を強化するとともに、より的確な漁獲形成・漁況予測を行う。また、資源変動要因の解析及び情報収集の取組の支援。また、まぐろ類、サンマ等の主要な国産漁業資源について、資源調査や評価等を実施する。併せて海洋環境の変化が水産資源に与える影響に関する調査の支援。					水温、塩分、栄養塩、海洋生物等	調査船、衛星等	日本周辺海域	
	125	再掲	高山帯植生における温暖化影響モニタリング 高山帯植生への地球温暖化影響を把握するための長期的モニタリングの実施					高山帯植生	地上(連続観測(自動画像撮影等))	本州および北海道地域の高山帯	
	126	再掲	水温上昇によるサンゴ分布変化のモニタリング 沖縄、九州、四国、関東沖までの定点においてサンゴの北上をモニタリングする					サンゴ	海洋	対馬、奄美、五島、伊豆、錦山	
	127		湖沼長期モニタリング事業 霞ヶ浦における水質・生物群集の長期観測ならびに国内外の観測ネットワーク活動(GEMS/Water、Jal.TERなど)への貢献					物理化学要素、水質、一次生産量、プランクトン群集、底生動物、魚類など	地上(湖上調査)	霞ヶ浦	
	128		モニタリングサイト1000 我が国の代表的な生態系について、全国約1000箇所の定点調査サイトを設け、生物の生息・生育状況等を継続的にモニタリングし、生態系の変化等を把握する。					高山帯、森林、草原、里地、湿原、湖沼、沿岸域、小島嶼	地上	日本全域	

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
駿河湾、相模湾、三陸沖は3-4回/年程度 西太平洋は1回/年	文部科学省 (中) 海洋研究開発機構 ・海洋資源利用促進技術開発プログラム ・海洋情報把握技術開発：マイクロプラスチックに関する情報取得のための技術開発(文部科学省) ・環境研究総合推進費：海洋プラスチックごみのモニタリング・計測手法等の高度化：海底堆積物中のプラスチックごみの計測技術の高度化(環境省) ・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省) ・環境研究総合推進費SIS：社会・生態系サービスの予測評価(環境省)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数 環境総合研究推進費(37)の内数		R31.4~R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・国際ヨットレースの機会を利用し、パラオ、LINEP関連機関を含む、多様なセクターとの協働により、多様なプラスチック問題を含む海洋科学と海洋リテラシー普及を図り、国際的に発信。 ・海洋プラスチック観測研究の国際ネットワーク構築、手法の標準化を進める国連(GESAMPやGOOS)、環境省関連の専門家グループに合わせ、今後10年間の行動計画の策定等に貢献。 ・ユネスコ/IOC/IOOE/OBISに日本ノードとして参画するとともに深海生物の多様性情報をOBISに提供
大気組成観測は1時間~1日毎。植生関係観測は1日4回(気象・フラッグス、分光放射、積雪等)、1~5年に1回(分光放射、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節、天空)は2日から1日毎。森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物産観測・定点観測のうちのセンサーは1時間1回、海洋沈降物子は1か月に1回、船上観測では1時間~1日毎。BGCフロートは1時間に1回、HFレーザは毎0.5h	文部科学省 (中) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数 環境総合研究推進費(37)の内数		R31.4~R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(AMAP)、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC (Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate) 衛星センサーと韓国・静止大気汚染観測衛星センサーGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network (PEN)、Jal.TER (Japan Long-Term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN (Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network (GOA-ON) といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
適宜	水産庁 (中) 水産研究・教育機構他)	水産資源調査・評価推進事業	5,225		R31~R5	調査船調査に関する情報は海洋情報クリアリングハウス( <a href="http://www.mich.go.jp/">http://www.mich.go.jp/</a> )。	
毎時	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング：温暖化影響モニタリング(高山帯)事業 (運営費交付金の一部)	218の内数		R23~	整理番号50を参照	整理番号50の再掲
年に1回	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング：温暖化影響モニタリング(海洋生物)事業 (運営費交付金の一部)	5		R23~	整理番号108を参照	整理番号108の再掲
観ヶ浦：毎月1回	環境省 (国立環境研究所)	GEMS/WATER湖沼長期モニタリング事業	11		S51~	<a href="http://db.cger.nies.go.jp/gem/inter/GEMS/database/kasumi/contents/terms.html">http://db.cger.nies.go.jp/gem/inter/GEMS/database/kasumi/contents/terms.html</a> 問い合わせ先： <a href="mailto:cebes.data@nies.go.jp">cebes.data@nies.go.jp</a>	国連の実施するGEMS/Water事業において、霞ヶ浦はトレンドステーションとして登録されており、データを提供している。また日本長期生態学研究(Jal.TER)のコア sites. data@nies.go.jp 提供を行っている。
年に1回(一部調査分野の調査地点については、3~5年に1回)	環境省	重要生態系監視地球モニタリング推進事業	263		R15~	<a href="http://www.biodic.go.jp/copyrig/ht/index.html">http://www.biodic.go.jp/copyrig/ht/index.html</a> ※個別データの利用条件については、各データ毎のダウンロードページを参照	(長問参照) 市民ボランティアを募り、一部調査を実施している。

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
②研究機関や大学、観測ネットワークによる現地調査と、航空機や衛星によるリモートセンシングの分野横断的な観測の推進、データと知見の共有促進の強化	129	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予報システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	130		データ及びサンプルの提供・利用促進 保有する研究開発基盤等によって取得した各種データやサンプルに関する情報等を効果的に提供する。				○			
	131	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち2号」(ALOS-2) アーカイブデータによる植生、雲水等のデータ提供を継続する。			○		植生、雲水等	衛星	全球
	132	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) による植生、雲水等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雲水等	衛星	全球
	133	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
			草地生態に関する研究ネットワーク・日本長期生態学研究ネットワーク(JaLTER) 草地生態系の機能・構造及び生物多様性に関する包括的観測 北海道から九州までの各地域における半自然草地長期観測サイトでの植生調査の継続および解析を実施。			○		植生、家畜生産	地上	日本
			REDD+推進民間活動支援に関する研究 森林の地上調査とリモートセンシングをもとに、森林炭素蓄積量変化のモニタリング手法の選択手法を開発し、開発途上国にREDDプラス実施体制の整備を進める。			○	○	土地利用・土地利変用・森林	衛星・地上	カンボジア、ペルー

(3) 森林の現状把握及び変化予測精度の向上への貢献

①森林分布、樹種構成、森林構造、温室効果ガスの吸収と放出、炭素蓄積、水土保全機能等の観測、及びREDD+2等を通じた対策への活用	134	再掲	地球表面と人間活動との相互作用の把握 地球表面を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の高アプローチから捉え、それら地球表面の変動等と人間間における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、二酸化炭素、一酸化炭素(WO2)、PM2.5、大気エアロゾル粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海水中の子、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン動物プランクトン群集、海面潮流等	衛星、地上、船舶、その他 180cfプロット	福江島、横須賀、沖縄辺戸岬、崎陽光台、ロシアズベニゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、フランス、イタリア、西部北太平洋点(K2、KEO)、西部北極海点(NAP、NEO)、東部洋陸海峽
	135	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
1時間に1回	総務省 (研) 情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H26~		
	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	大型研究開発基盤の供用及びデータ等提供の促進	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】ユネスコ世界海洋学委員会国際海洋データ・情報交換(100/100E)の我が国代表機関である日本海洋データセンター(JDOO)に対して、様々な調査・観測で取得した海洋データを提供。また、100/100Eの下で運営されている全球規模の海洋生物情報データベースシステム(OBIS)の連携データユニット(ADU)として、国内における関連データの受入・調整・保管・提供及びOBISとのデータ連携等の調整を実施。
全球: 最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球: 14日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球: 2~3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
年1回	農林水産省 (研) 農業・食品産業技術総合研究機構	運営費交付金	1		S47~R1	畜産研究部門草地利用環境草地機能ユニット長下田勝久0287-37-7225 草地植生ファクトリーデータベース <a href="http://www.naro.affrc.go.jp/n11gs/vegetation/index.html">http://www.naro.affrc.go.jp/n11gs/vegetation/index.html</a>	代表する調査草地を地球規模で生態系の動態を観測する国際ネットワークDEIMS(Dynamic Ecological Information Management System)に登録
年1回	林野庁	REDD+推進民間活動支援(補助事業)	70		H27~H31		・カンボジア森林局、ペルー森林野生生物局とMOUを締結して実施。 ・開発したモニタリング手法を用いて民間企業がJOMのREDD+プロジェクトを実施することを期待

大気組成観測は1時間~1日毎。植生動態観測は1日4回(気象・フラッグス、分光反射、分光反射、積雪等)、1~5年に1回(分光反射、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節、天空)は2分から1日毎、森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測: 定点観測プラントのうち、センサーは1時間に1回、海洋沈降粒子は1か月に1~2回 船上観測では1時間~1日毎。BGCフロートは1時間に1回、HF-1は毎0.5h	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】・全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラムの作業部会(AMAP))、北極大気汚染と社会(PAGES)、MOASIC(Multidisciplinary Arctic Monitoring Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサや韓国の静止大気汚染観測衛星センサ等の検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLOWNET) Phenological Eyes Network (PEN) JaLTER (Japan Long-Term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN/Asia Pacific Network)、国際アルゴリズム計画、Global Ocean Acidification Observing Network (GOA-ON) といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球: 3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	800		H20~	整理番号6を参照	整理番号6を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	136	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。		○			二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	137	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	138	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	139	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	140	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W) GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	141		森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備 全国の森林土壌の炭素蓄積を推定するために、系統サンプリングによる定点の土壌調査を5年ごとに実施する。	○		○		森林土壌炭素	地上	日本
	142	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測 アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度、フラックス、気象、樹冠映像、生体指標等(概約40項目)	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびコンラチャシマ県
	143	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) GOSATによる全球の温室効果ガスの観測及びデータ処理、データ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	144	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2) 観測センサーの高精度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出単位での排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリの比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	145	再掲	温室効果ガス観測技術衛星3号機 継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。		○	○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素等	衛星	全球
	146	再掲	森林炭素収支モニタリング 気候変動と生態系炭素循環の相互作用を解明するための陸域炭素循環観測拠点(炭素移動量観測塔を有する地点等)での森林生態系長期モニタリングの実施	○	○	○		一気象、波長放射計成支、群落上での熱・水・二酸化炭素フラックス、葉面積、バイオマス、その他陸域炭素循環各項目	地上連続観測	山梨県(富士吉田)、北海道(天塩・苫小牧)
	147		気候変動への適応に向けた森林の水循環機能の高度発揮のための観測網・予測手法の構築 北海道から九州まで様々な植生や地帯を有する森林を対象に、水循環および気候環境要素の変動を精密・高精度で観測網を構築するとともに、既存の観測地と合わせてデータベース化を行う。	○		○		降雨、水流出、水質、日射、湿度、地温、水温	地上	日本
②森林機能に関する定点観測、航空機や衛星による広域・長期反復観測、環境変動に対する森林機能の応答及び地球環境にもたらすフィードバック機構の解明	148	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	149	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球：6日1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費		20	H26~	整理番号7を参照	整理番号7の再掲
全球：最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球：14日1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球：2~3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号9を参照	整理番号9の再掲
全球：2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
5年に1回	林野庁	森林吸収源インベントリ情報整備事業(委託事業)	91		H15~R2		
項目により10分~1日間隔	経済産業省(産業技術総合研究所、岐阜大学と共同)	・科研究 ・運営費交付金の内数	3		~R2年度(以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連
全球：3日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1,185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H18~	整理番号21を参照	整理番号21を参照
全球：6日に1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1,185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H24~	整理番号22を参照	整理番号22を参照
全球：3日に1回	環境省(国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1,185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充	H30~	整理番号23の再掲	整理番号23の再掲
30分毎	環境省(国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング・森林炭素収支モニタリング事業(運営費交付金の一部)	222の内数		H13~	整理番号51を参照	整理番号51を参照
月1~2回(水質の採水)・連続(その他要素)	農林水産省	地球環境保全試験研究費委託事業	19		R1-R4	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 清水 貴樹 Tel: 029-829-8234 https://www2.ffpri.go.jp/labs/fwdp/	
全球：最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球：14日1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	150	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	151	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	152		陸面物理モデルの開発による植生フィードバック機構の解明研究気候モデルに結合される陸面物理モデルの開発においては、植生をシミュレーションし、地球システムに対する森林機能などによるフィードバック機構の解明研究を行っている。				○	-	-	-
	153		人工林に係る気候変動の影響評価気候変動に対するスギ人工林の応答を解明し、影響評価を1kmメッシュでマッピングする。	○		○		産林(人工林)	地上	日本
	154		山火リスクを低減する技術の開発気候変動に伴う山火リスクの激化に对应しながら持続的な木材生産を行うための、森林の土砂崩壊・流出防止機能の経年変化の予測技術と、脆弱性が特に高い地域において森林の防災機能を効率的に発揮させるための森林管理技術を開発する。	○		○		森林、山地災害	地上、衛星	日本
	155	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度・フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびナコンラチャシマ県
	156	再掲	森林炭素収支モニタリング気候変動と生態系炭素循環の相互作用を解明するための陸域炭素循環観測拠点(炭素移動量観測塔を有する地点等)での森林生態系長期モニタリングの実施	○	○	○		一箇気象、波長別放射収支、群落上での蒸・水・二酸化炭素フラックス、葉面積、バイオマス、その他陸域炭素循環各項目	地上連続観測	山梨県(富士吉田)、北海道(天塩、苫小牧)
③観測ネットワークや研究機関、大学による分野・スケール横断的な観測・データ共有・知見創出の促進	157	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。				○	植生、雪氷等	衛星	全球
	158	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	159	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	160	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	161	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度・フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびナコンラチャシマ県

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球：2～3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17～	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球：2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17～	整理番号120を参照	整理番号120を参照
-	文部科学省	統合的気候モデル高度化研究プログラム	744百万円の内数	拡充	H29～R3	-	実施機関：東京大学、海洋開発研究機構 中間とりまとめ関連「4-1地球観測情報」をデータ利活用の現場に深く取組の強化(地球観測による環境解決への新たな貢献)
年1回	農林水産省	戦略的プロジェクト研究推進事業(森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発)	18		H28～R2	-	-
年に数回	農林水産省(農林水産技術会議、内閣府)	戦略的プロジェクト研究推進事業(森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発)	37		H28～R2	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所研究ディレクター(国土保全・水資源研究担当)大丸 裕武 TEL: 029 829 8215 daimaru@affrc.go.jp	2019年度より内閣府PMIS予算による拡充を受けている。
項目により10分～1日間隔	経済産業省(産業技術総合研究所、岐阜大学と共同)	科研費・運営費交付金の内数	3		～R2年度(以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連
30分毎	環境省(国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング・森林炭素収支モニタリング事業(運営費交付金の一部)	222の内数		H13～	整理番号51を参照	整理番号51を参照
全球：最長2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17～	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球：14日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20～	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球：2～3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17～	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球：2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17～	整理番号120を参照	整理番号120を参照
項目により10分～1日間隔	経済産業省(産業技術総合研究所、岐阜大学と共同)	科研費・運営費交付金の内数	3		～R2年度(以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
3. 災害への備えと対応への貢献										
(1) 災害発生への予測・予知への貢献										
①地震、地殻変動、地形変化、火山活動、気象、海洋等の観測										
	162		地上設置型リモートセンシング技術の研究開発(ゲリラ豪雨・竜巻に代表される突発的大気現象の早期検出・発達メカニズム解明及び予測技術の向上に貢献する。風、水蒸気、降水等を高時間空間分解能で観測する技術の研究開発する)	○	○	○		風向・風速、水蒸気、降水	地上	大阪、神戸、沖縄等
	163	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)、TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二周波降水レーダー(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う)	○	○	○		降水	衛星	全球
	164		海域観測による地震発生帯の把握、広域かつ高精度な観測データを得た北海道西方沖から鳥取沖にかけての地震探査データを見直し、再解析によりイメージングを改善させ、日本海の地殻構造、断層・褶曲等の地殻変形構造の形態、及びその分布をまとめる。	○	○	○		地殻構造、自然熱地熱・火山・地殻変動、水圧計、津波、津波履歴調査	船舶、その他(地震計、水圧計、津波履歴調査)	南海トラフセントラル海溝と日本周辺海域
	165		日本海地震・津波調査プロジェクトにおける沖合構造調査本プロジェクト及びひびき集中帯の重点的調査観測・研究プロジェクトで得た北海道西方沖から鳥取沖にかけての地震探査データを見直し、再解析によりイメージングを改善させ、日本海の地殻構造、断層・褶曲等の地殻変形構造の形態、及びその分布をまとめる。	○	○	○		海底下地殻構造、堆積物、地質、地球物理データ	—	日本海
	166		南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトにおける巨大地震発生域調査観測地下構造調査と観測地殻観測を実施することにより、地震発生帯のプレート形状及び物理の詳細、陸側プレートとの相対的な位置関係等を把握する。また、南西諸島域では自然地震観測によりこれまで明らかになっていない地震発生帯プレート形状を明らかにする。	○	○	○		地震データ、堆積物、地質データ、歴史資料	船舶、地震計、コアリング	南海トラフおよび周辺地域
	167	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)、TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二周波降水レーダー(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う。	○	○	○		降水	衛星	全球
	168	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	169	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○	○	○		植生、雪氷等	衛星	全球
	170		センチネル・アジア「だいち2号」等の地球観測衛星による地震、津波、火山噴火等の大規模自然災害の観測及びデータ提供を行うとともに、災害関連情報をアジア太平洋地域の現地防災機関との間で共有する活動(「センチネル・アジア」プロジェクト)を継続する。	○	○	○		大規模自然災害	衛星	全球
	171		海底地震・津波観測網の構築・運用 海洋型の地震・津波を即時に検知して警報に活用するとともに、海域の地震発生メカニズムを高精度に解明するため、巨大地震の発生が恐れがある南海トラフ沿い(DONET)と、今後も大きな余震・誘発地震が予想される日本海溝沿い(東北地方太平洋沖)(S-net)に整備したリアルタイム海底地震・津波観測網を運用し、地震・津波の観測及びデータ提供を行う。南海トラフ地震の発生震域のうち、まだ観測を設けていない海域(高知県沖～日向灘(宮崎県沖))に、南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)を構築する。	○	○	○		地震、津波	ケーブル式海底地震計、津波計	DONET: 紀伊半島沖及び瀬戸内沖から室戸岬沖 S-net: 北海道沖から千葉県沖にかけての日本海溝沿い
	172		地震・津波の観測・予測研究 S-net及びDONETを含む海域の基礎的地震観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警報及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○		地震、津波	地震計等	全国、一部海外地域
	173		火山災害の観測・予測研究 基礎的火山観測網と各種リモートセンシング技術やモニタリング技術等を活用して火山災害の早期検出・把握や予測に関する研究開発及び火山災害の軽減につながるリスクコミュニケーションの在り方に関する研究を実施し、新たな火山防災・減災対策の実現を目指す。	○	○	○		火山活動	地震計、衛星、航空機等	全国、一部海外地域
	174		気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪氷災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を用いた高精度の気象予測技術の研究開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○		気象	レーダー等	全国
	175		首都圏を中心としたレジリエンス総合向上プロジェクト 官民連携超高密度地震観測システムの構築、非構造部材を含む構造物の耐震余裕度に関するセンサー情報の収集により、官民一体の総合的な災害対応や事業継続、個人の防災行動等に資するビッグデータを整備する。	○	○	○		地震	地震計	首都圏

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
数10秒～数分ごと	総務省 (研)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H26～R2	http://pawr.nict.go.jp/	
全球:3時間ごと	総務省 (研)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H12～	整理番号35を参照	
常時	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	海域で発生する地震及び火山活動に関する研究開発機構	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4～R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/basa/	中岡とりまとめ関連
—	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	日本海地震・津波調査プロジェクト(文部科学省)	日本海地震・津波調査プロジェクト(255)の内数		H25～R2	http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/	
年3回	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト(文部科学省)	南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト(239)の内数		H25～R1	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/basa/	
年1回程度	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト(文部科学省)	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト(420)の内数	新規	R2～R6	(研)海洋研究開発機構海域地震火山部門 URL:未定	
研計画全体で3時間毎の全球降水観測	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、米国防空宇宙局)	研究開発推進費	444		H13～	整理番号41を参照	整理番号41を参照
全球:最短2日	宇宙航空研究開発機構	研究開発推進費	101		H17～	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日1回	宇宙航空研究開発機構	研究開発推進費	1,704		H20～	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:14日1回	宇宙航空研究開発機構	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金(115,923)の内数		H18～		
常時	文部科学省 (研)防災科学技術研究所	海底地震・津波観測網の運用に必要な経費(地球観測システム研究開発費補助金)	6,960		DONET: H18～ S-net: H23～ N-net: H30～	防災科学技術研究所 総務部総務課 029-851-1611	地震・津波観測データを用いた共同研究の推進により、防災情報リテラシーの向上やインフラ設備等の防災対策への活用が期待できる。
常時	文部科学省 (研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28～R4	https://hinetw11.bosai.go.jp/nied/registration/	海外展開としては、海外の研究機関との共同研究によって展開しているアジア・太平洋地域の広帯域地震観測網を運用、リアルタイム波形データをSWIFTシステムで解析し、得られた地震のメカニズム情報を公開。 http://www.isn.bosai.go.jp/index.html(日本語) http://www.isn.bosai.go.jp/en/index.html(英語)
常時	文部科学省 (研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28～R4	https://hinetw11.bosai.go.jp/nied/registration/	
常時	文部科学省 (研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28～R4	http://mp-radar.bosai.go.jp/xnet/	
常時	文部科学省 (研)防災科学技術研究所	首都圏を中心としたレジリエンス総合向上プロジェクト(地球観測システム研究開発費補助金)	456		H29～H3	https://frr.co.niigata-u.ac.jp/duc/	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	176		活断層について活動履歴の調査を行い、活断層の活動性評価を行うとともに、地震災害の予測精度を向上させる。また、南海トラフの巨大地震の予測に資する為の地下水観測井を活用した観測技術開発を実施するとともに、海溝型地震と巨大津波の予測手法を高度化するための調査、研究を行う。	○		○		活断層、津波堆積物、地形、地殻力、地震、地下水位	地質調査	日本全国
	177		火山噴火予知及び火山防災に資する火山地質情報を提供するため、火山の噴火活動履歴の解明、火山灰・火山ガス等の火山噴出物に対する物質科学的研究による噴火活動推移予測に資する調査・研究を行う。	○	○	○		火山噴出物、噴煙、熱・電磁気学的変動	地質調査	御蔵山、日光白根山、口永良部島、伊豆大島、浅間山、桜島、阿蘇山、嵯阿蘇岳、秋田焼山
	178	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDCCG)の運営WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	179		沿岸波浪観測 沿岸海域における船舶の安全運航及び沿岸施設の安全管理に寄与するため、全国に沿岸波浪観測装置を設置し、波浪観測を実施している。	○				波浪	地上	全国6箇所
	180		海洋気象プロボットによる観測 観測データの少ない洋上において継続的に海上気象観測データを取得して海洋の防災に寄与するため、漂流型海洋気象プロボットによる波浪・気圧・水温の観測を実施している。	○				海上気象	その他(漂流ブイ)	日本周辺海域
	181		地震・津波・火山等に関する調査及び観測 地震動・津波・火山に関する警報の発表、南海トラフ沿いの地震活動や地震活動の評価、各種情報発表等のため、地震活動・震度・地殻変動・津波・火山活動を観測・監視する。	○		○		地震動、震度、地殻変動、津波、火山現象	地震計、震度計、ひずみ計、津波計、高水位計等	全国(地殻変動は東海地域)
	182		地震計データの一元処理 地震活動を把握し、政府地震調査委員会に報告するために、地震計データを一元的に処理する。	○		○		地震活動	—	全国
	183		台風・集中豪雨等の監視・予測のため、静止気象衛星、レーダー、アメダス、ラジオゾンデ、ウィンドプロファイラー等による気象の定常観測を行い国内外に提供する。	○				気温、風、日照、降水、気圧、大気現象等	地上、衛星	国内全域(各地における重複または遠隔) (静止気象衛星観測は宇宙からの遠隔)
	184		海溝、南海トラフ等のプレート境界において、巨大地震発生のシグナルである地殻変動を観測するため、海底基準局を整備し、26点で観測を実施する。	○				地殻変動	船舶	日本海溝・南海トラフ等26点
	185		下里水路観測所において、人工衛星レーザー測距(SLR)観測を実施しており、離島を含めて日本列島の位置を世界測地系に結合して求める海洋測地を推進する。	○				地殻変動	地上	和歌山県那智勝浦町
	186		地震発生に至る地殻活動の解明及び地殻活動の予測シミュレーションとモニタリングのための観測として地殻変動監視、駿潮、海底地殻変動観測を実施するとともに南西諸島及び北方諸島の海域火山において定期巡回監視を実施する。	○				地殻変動、潮汐	船舶、地上	日本海溝・南海トラフ等26点
	187		地震発生に至る地殻活動の解明及び地殻活動の予測シミュレーションとモニタリングのための観測として地殻変動監視、駿潮、海底地殻変動観測を実施する。また、南西諸島及び北方諸島の海域火山において定期巡回監視を実施する。	○				火山監視	航空機	南方諸島・南西諸島方面の海域火山

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
随時	経済産業省 (産学技術総合研究所)	産総研運営費交付金の一部	運営費交付金 (62,343の内数)		R1~R6		地震災害予測手法の開発に資する地質情報の整備と調査研究
随時	経済産業省 (産学技術総合研究所)	産総研運営費交付金の一部	運営費交付金 (62,343の内数)		R1~R6		火山噴火予知に資する地質情報の整備と調査研究
—	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
1時間に1回	気象庁	波浪観測	波浪観測の内数		S51~	・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a>	—
1時間/3時間に1回	気象庁	波浪観測	波浪観測の内数		H12~	・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a>	世界気象機関(WMO)の枠組と連携した観測
常時	気象庁	地震津波観測業務等、火山観測業務等、高潮高波対策業務	地震津波観測業務等、火山観測業務等、高潮高波対策業務の内数		M17~(観測項目により異なる)	・利用条件URL(日): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a>	—
常時	気象庁	地震津波観測業務等	地震津波観測業務等の内数		H9~	・利用条件URL(日): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a> ・関連URL(日): <a href="http://www.data.jma.go.jp/cvd/e/qev/data/bulletin/index.html">http://www.data.jma.go.jp/cvd/e/qev/data/bulletin/index.html</a>	—
アメダス:10分毎 レーダー:5分毎 ラジオゾンデ:1日2回 ウィンドプロファイラー:10分毎 静止気象衛星:10分毎(日本域は2.5分毎)	気象庁	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務の内数		M5~	・利用条件URL(日): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/infocoment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">http://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a>	レーダー: アメダス: ラジオゾンデ: ウィンドプロファイラー: 静止気象衛星: 世界気象機関(WMO)の枠組みと連携した観測
各観測域:年2回	海上保安庁海洋情報部	特別観測(測地観測旅費、水路業務庁費)	12		S40~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	—
随時	海上保安庁海洋情報部	海洋測地の推進(水路業務庁費)	10		S55~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	国連海洋法条約 測地衛星「ラジオス」の国際共同観測 中国、ロシア及び米国と「あじさい」等のレーザー測距同時観測
各観測域年2回	海上保安庁海洋情報部	特別観測(職員旅費、測地観測旅費、水路業務庁費、通信専用料)	42		S40~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	—
各観測域:年1回	海上保安庁海洋情報部	特別観測(職員旅費、水路業務庁費)	1		S40~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	—



「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
②被災地域及び今後被災する可能性の高い地域の抽出、並びに予防段階及び発災後の地球観測による監視	188	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	189	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	190	一部再掲	地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価 巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。	○	○		○	海洋生物/POB /水温・塩分・溶解酸素 など物理・化学環境	船舶、その他(ラボマック、ランダー)	三陸沖
	191		自然災害ハザード・リスク評価と情報の利活用に関する研究 地震・津波災害等のハザード・リスク評価手法の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び利活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○		○		地震、津波等	地震計、衛星、航空写真、ボーリング等	全国、一部海外地域
	192	再掲	海底地震・津波観測網の構築・運用 海溝型の地震・津波を即時に検知して警報に活用するとともに、海域の地震発生メカニズムを精度高く解明するため、巨大地震の発生の恐れがある南海トラフ沿い(DONET)と、今後大きな余震、誘発地震が予想される日本海溝沿い(東北地方太平洋沖)(S-net)(S-net)に整備したリアルタイム海底地震・津波観測網を運用し、地震・津波の観測及びデータ提供を行う。南海トラフ地震の想定震源域のうち、まだ観測網を設置していない海域(高知県沖～日向灘(宮崎県沖))に、南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)を構築する。	○	○	○		地震、津波	ケーブル式海底地震計、津波計	DONET:紀伊半島沖及び瀬戸沖から室戸岬沖 S-net:北海道沖から千島列島にかけての日本海溝沿い N-net:高
	193		遠山技術を進んで適用する手法の開発に関する研究 リモートセンシング等を活用し、リスクマップの作成や炭田上の森林の防火・減災等の機能強化に遠山技術を活用する手法の開発し、我が国の民間企業等が森林技術を海外展開できる体制を整備する。	○		○		土地利用・土地利用変化・森林	衛星・地上、その他(LiAR)	ベトナム
	194	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	195	再掲	反射法探査データ等の収集及び海域断層データベースの構築と反射法探査データ等の解析及び統一断層解釈 日本周辺海域断層イメージをまとめるのに重要な反射法探査データ等を収集し、データベースを構築する。 反射法探査データ等に最新のデータ処理を加え、深部イメージングの品質を向上させるとともに、データベースに登録後、断層を解釈し、断層の3次元的な広がり評価する。			○		反射法探査データ、速度構造	本事で観測と実施していない	日本周辺海域
	196	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	197	再掲	地震・津波の観測・予測研究 S-netとDONETを含む海陸の基礎的観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警報及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○		地震、津波	地震計、津波計等	全国、一部海外地域
198	再掲	火山災害の観測・予測研究 基礎的火山観測網と各種リモートセンシング技術やモニタリング技術等を活用して火山災害の軽減に資する研究開発及び火山災害の軽減につながるリスクコミュニケーションの在り方に関する研究を実施し、新たな火山防災・減災対策の実現を目指す。	○	○	○		火山活動	地震計、衛星、航空機等	全国、一部海外地域	
199	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪氷災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用し、短時間の予報精度の向上と災害対策支援技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○		気象	レーダー等	全国	
200	再掲	自然災害ハザード・リスク評価と情報の利活用に関する研究 地震・津波災害等のハザード・リスク評価手法の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び利活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○		○		地震、津波等	地震計、衛星、航空写真、ボーリング等	全国、一部海外地域	
200	再掲	海底地震・津波観測網の構築・運用 海溝型の地震・津波を即時に検知して警報に活用するとともに、海域の地震発生メカニズムを精度高く解明するため、巨大地震の発生の恐れがある南海トラフ沿い(DONET)と、今後大きな余震、誘発地震が予想される日本海溝沿い(東北地方太平洋沖)(S-net)(S-net)に整備したリアルタイム海底地震・津波観測網を運用し、地震・津波の観測及びデータ提供を行う。南海トラフ地震の想定震源域のうち、まだ観測網を設置していない海域(高知県沖～日向灘(宮崎県沖))に、南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)を構築する。	○	○	○		地震、津波	ケーブル式海底地震計、津波計	DONET:紀伊半島沖及び瀬戸沖から室戸岬沖 S-net:北海道沖から千島列島にかけての日本海溝沿い N-net:高	

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球: 最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101	H17~		整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球: 14日に1回	宇宙航空研究開発機構	研究開発推進費	1,704	H20~		整理番号92を参照	整理番号92を参照
三陸沖は3-4回/年程度	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	海洋生態系研究開発拠点機能形成事業費補助金(210)の内数	H23~R2		問合せ先: 付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data	-
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数	H28~R4		http://www.jamstec.go.jp/agreement(J-SHIS) http://di-opac.bosai.go.jp/nied-lib/index.html http://www.isn.bosai.go.jp/index.html(日本語) http://www.isn.bosai.go.jp/en/index.html(英語)	【再掲】 海外展開としては、海外の研究機関との共同研究によって展開しているアジア・太平洋地域の広域地震観測網を運用し、リアルタイム波形データをSWIFTシステムで解析し、得られた地震のメカニズム解情報を公開。 http://www.isn.bosai.go.jp/index.html(日本語) http://www.isn.bosai.go.jp/en/index.html(英語)
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	海底地震・津波観測網の運用に必要な経費(地球観測システム研究開発費補助金)	6,960	DONET: H18 ~ S-net: H23 ~ N-net: H30 ~		整理番号171を参照	整理番号171を参照
年1回	林野庁	森林技術国際展開支援事業(補助事業)	57	新規	R2~R6		【中間とりまとめ関連】 4-4 共通的・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献(4) 国際的な取組の推進(3) 防災・減災(仙台防災枠組)への貢献
1時間に1回	総務省( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数	H28~			
既往データの収集	文部科学省( (研) 海洋研究開発機構)	海域における断層情報総合評価プロジェクト(文部科学省)	海域における断層情報総合評価プロジェクト(169)の内数	H25~R1		問合せ先: 付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data	-
全球: 最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101	H17~		整理番号91を参照	整理番号91を参照
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数	H28~R4		整理番号172を参照	整理番号172を参照
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数	H28~R4		整理番号173を参照	整理番号173の再掲
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数	H28~R4		整理番号174を参照	整理番号174の再掲
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数	H28~R4		整理番号191を参照	整理番号191を参照
常時	文部科学省( (研) 防災科学技術研究所)	海底地震・津波観測網の運用に必要な経費(地球観測システム研究開発費補助金)	6,960	DONET: H18 ~ S-net: H23 ~ N-net: H30 ~		整理番号171を参照	整理番号171を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点	
				観測	機器開発	データ利用研究	その他				
	201	再掲	気候モデルの性能向上及び気候変動予測の確率情報の創出 気温、降水、雲などの地上観測データ、衛星観測データと気候モデルシミュレーション結果を比較し、気候モデルの性能向上を行っているとともに、気候モデルによる将来予測実験を行っている。また、多数のアンサンブル実験を行い、将来予測に確率的に評価することのできる気候変動予測確率を創出する。			○					
	202	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○					
	203	再掲	地震計データの一元処理 地震活動を把握し、政府地震調査委員会に報告するために、地震計データを一元的に処理する。	○		○			地震活動	全国	
	204	再掲	台風・集中豪雨等の監視・予測のため、静止気象衛星、レーダー、アメダス、ラジオゾンデ、ウィンドプロファイラー等による気象の定常観測を行い国内外に提供する。			○			気温、風、日照、降水、気圧、大気現象等	地上、衛星 国内全域(各地における直接または遠隔) (静止気象衛星観測データからの遠隔)	
④地球観測と災害予測モデルとの効果的な連携、早期警戒システムの実現	205	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○			大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	206		地震・津波の発生過程の理解とその予測 取得した各種データと既存データ等とを統合して開発された地震発生率モデルを高精度化し、それらモデルを用いた地震発生率変動の計算結果と観測データの解析による現状把握及び推移予測の手法を確立する。地震・津波被害想定や現状評価のための情報として提供する。			○			地震、津波	その他(地震計、水圧計等)	全国、一部海外地域
	207		火山及び地球変動要因としての地球内部活動の状況把握と変動予測 海底火山活動の観測、調査、地質試料の採取分析によって活動履歴、過去の噴火モード等の現状を把握する。得られたデータや知見を用いて火山活動を支配する地球内部流体やエネルギーの循環機構等を解明する。	○	○	○			火山活動	船殻、その他(地震計、電位差磁力計、水圧計、ハイドリフトゾンデ等)	全国(地殻変動は東海地域)一全国(特に伊豆小笠原諸島・南西諸島)
	208	再掲	地震・津波の観測・予測研究 S-net及びDONETを含む海底の基礎的地球観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警戒及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○			地震、津波	地震計、津波計等	全国、一部海外地域
	209	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雷水災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間スケールの予測技術の開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○			気象	レーダー等	全国
	210	再掲	自然災害ハード・リスク評価と情報の利活用に関する研究 地震・津波災害等のハード・リスク評価の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び利活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○	○	○			地震、津波等	地震計、衛星、観望等、ボロリング	全国、一部海外地域
	211	再掲	海底地盤・津波観測網の構築・運用 海溝型の地震・津波を即時に検知して警報に活用するとともに、海域の地震発生メカニズムを精度高く解明するため、巨大地震の発生が予想される南海トラフ沿い(DONET)と、今後大きな余震・誘発地震が予想される日本海溝沿い(東北地方太平洋沖、S-net)に整備したリアルタイム海底地震・津波観測網を運用し、地震・津波の観測及びデータ提供を行う。南海トラフ地震の想定震源域のうち、まだ観測網を設置していない海域(高知県沖～日向灘(宮崎県沖))に、南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)を構築する。	○	○	○			地震、津波	ケーブル式海底地震計、津波計	DONET: 紀伊半島沖及び瀬戸内海沖から瀬戸内海沖 S-net: 北日本海溝から千島列沖にかけての日本海溝沿い
⑤気象衛星「ひまわり」やXバンドマルチパラメータレーダー「XRAIN」等による観測データの防災・減災研究への活用	212		ひまわり衛星データを用いた福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○			大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	213		ひまわり衛星データのリアルタイムフル解像度可視化Webの開発と公開、これに基づく太陽日射量データのリアルタイム可視化			○			雲、太陽日射量、気象庁警報情報	各種衛星データ、地上データ	日本・アジア全球
	214	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雷水災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間スケールの予測技術の開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○			気象	レーダー等	全国

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
-	文部科学省	統合的気候モデル高度化研究プログラム	744百万円の内数	拡充	H29~R3	整理番号102を参照	実施機関 東京大学、国立環境研究所、海洋開発研究機構、気象業務支援センター、気象庁気象研究所 中間とりまとめ関連「4-3 予測情報」とりまとめ関連「4-3 予測情報」
-	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	382	拡充	H28~R2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連「4-1 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化(地球観測による課題解決への更なる貢献)」 4-4 共通的・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献
常時	気象庁	地震津波観測業務等	地震津波観測業務等の内数		H9~	整理番号182を参照	整理番号182の再掲
アメダス: 10分毎 レーダー: 5分毎 ラジオゾンデ: 1日2回 ウィンドプロファイラー: 10分毎 静止気象衛星: 10分毎(日本域は2.5分毎)	気象庁	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務の内数		M5~	整理番号183を参照	整理番号183の再掲
1時間に1回	総務省 ( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数		H28~		
常時	文部科学省 ( (研) 海洋研究開発機構)	海域で発生する地震及び火山活動に関する研究開発	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連
常時	文部科学省 ( (研) 海洋研究開発機構)	海域で発生する地震及び火山活動に関する研究開発	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連
常時	文部科学省 ( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号172を参照	整理番号172を参照
常時	文部科学省 ( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号174を参照	整理番号174の再掲
常時	文部科学省 ( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号191を参照	整理番号191を参照
常時	文部科学省 ( (研) 防災科学技術研究所)	海底地盤・津波観測網の運用に必要な経費(地球観測システム研究開発費補助金)	6,960		DONET: H18~S-net: H23~N-net: H30~	整理番号171を参照	整理番号171を参照
1時間に1回	総務省 ( (研) 情報通信研究機構)		運営費交付金の内数		H28~		
日本(2.5分毎)、 全球(10分毎)	総務省 ( (研) 情報通信研究機構) 国土交通省(気象庁)	運営費交付金	運営費交付金の内数		H27~	<a href="http://himawari8.nict.go.jp">http://himawari8.nict.go.jp</a> <a href="http://amsterass.nict.go.jp">http://amsterass.nict.go.jp</a>	
常時	文部科学省 ( (研) 防災科学技術研究所)	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号174を参照	整理番号174の再掲

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
	215		D1ASを用いた水課題アプリケーションの開発 XRAIN等の降水データや河川の流量、ダムの水位データを基に、洪水予測シミュレーションが可能なアプリケーションを開発する。			○				
	216		高性能レーダー雨量計ネットワーク「XRAIN」 XRAINによる高精度・高分解能・高頻度のレーダー雨量観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水強度	レーダー雨量計	日本
	217	再掲	台風・集中豪雨等の監視・予測のため、静止気象衛星、レーダー、アメダス、ラジオゾンデ、ウィンドプロファイラー等による気象の定常観測を行い国内外に提供する。	○				気温、風、日照、降水、気圧、大気現象等	地上、衛星	国内全域(各地における直接または間接な衛星観測は宇宙からの遠隔)
⑥高分解能のマイクロ波放射計による積雪量、降雪量観測、全球降水マップ(GSMaP)、衛星データ等同化による予報モデルの高度化を利用機関との連携を通じて強化	218	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W) GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	219	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪水災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間のゲリラ豪雨等の予測開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す	○	○	○		気象	レーダー等	全国
	220		GSMaPなどを活用した洪水解析システムの機能強化に関する研究			○		降水	GPM	全球
⑦地球観測の成果を、国・地方自治体・個人が災害時に的確に行動するための判断材料として社会に提供	221		航空機搭載高分解能合成開口レーダー(SAR)(災害発生時の状況把握等に有効な観測技術)について、状況認識のための観測技術や情報抽出技術の高度化、観測画像及び解析結果をネットワークを通じて社会に提供するための手法、更なる性能向上を目指したレーダー機器の研究開発を進める	○	○	○		地表面	航空機	日本国内
	222	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	223		東北マリンサイエンス拠点形成事業(海洋生態系の調査研究) 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による東北沖の海洋生態系へのインパクトと漁業への影響について、海洋生態系の調査・観測を元に行われたデータを解析し、被災地のニーズに合わせた効果的、効率的な漁業の復興と持続的漁業の在り方を示す。	○	○	○		地形、海洋に生息する生物、生態系及び生態系の基データ、PCB蓄積状況	船舶・ROV・観測装置、衛星観測装置	東北三陸沖(女川湾などから沖合)
	224	再掲	地震・津波の発生過程の理解とその予測 取得した各種データと既存データ等を統合して開発された地震発生モデルを高精度化し、それらモデルを用いた地震発生帯変動の計算結果と観測データとの解析による現状把握及び推移予測の手法を確立する。地震・津波被害想定や現状評価のための情報として提供する。			○		地震、津波	その他(地震計、水圧計等)	全国、一部海外地域
	225	一部再掲	地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価 巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。	○	○	○		海洋生物/PCB/水温・塩分・溶解酸素など物理・化学環境/地形・底質	船舶、その他(ラジオゾンデ、ランダー)	三陸沖
	226	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	227	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	228	再掲	センチネル・アジア「だいち2号」等の地球観測衛星による地震、津波、火山噴火等の大規模自然災害の観測及びデータ提供を行うとともに、災害関連情報をアジア太平洋地域の現地防災機関と間で共有する活動(「センチネル・アジア」プロジェクト)を継続する。	○		○		大規模自然災害	衛星	全球

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	(382)の内数	拡充	H26~R2		中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用 の現場に繋ぐ取組の強化(地球 観測による課題解決への更なる貢 献)
解像度: 250m 観測期間: 1分	国土交通省 水管理・国土保全局	治水事業費等	治水事業費等の内数		H26~	国土交通省水管理・国土保全局河川情報企画室 公開URL: http://www.river.go.jp/	H26より「XRAIN」はXバンドMP レーダー雨量計とバンドMPレーダ 雨量計を組み合わせて観測を開 始。
アメダス: 1 0分毎 レーダー: 5 分毎 ラジオゾン デ: 1日2回 ファインダー: 10分毎 静止気象衛 星: 10分毎 (日本域は 2.5分毎)	気象庁	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務	観測業務、高層気象観測業務、静止気象衛星業務の内数		M5~	整理番号183を参照	整理番号183を参照
全球: 2日に1 回	宇宙航空研究開発機構	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
常時	文部科学省 (研)防務科学技術研究所	国立研究開発法人防務科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号174を参照	整理番号174の再掲
1時間に1回	国土交通省 (国土研究開発法人 土木研究所)	土木研究所運営交付金の内数	1,704		H28~R3	・JAXA提供 GSMaPデータのサイト [http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GS Map/index_j.html] ・RRI (Rainfall-runoff- inundation)モデルの案内サイト [http://www.icharm.pwri.go.jp/r esearch/rri/index.html] ・総合洪水解析システム(IFAS)の 案内サイト [http://www.icharm.pwri.go.jp/r esearch/ifas/index.html]	JAXA提供のGSMaPデータを活用し 洪水予測を行うシステムの研究開 発。当研究成果は各国が活用。そ の他、各国では直接GSMaPデータ を左記のJAXAの提供サイトよりダ ウンロードして利用。
適宜	総務省 (研)情報通信研 究機構	JAXA運営費交付金 (115,923)の内数			H28~R2	https://pi-sar.mit.go.jp/ http://www2.mit.go.jp/res/Pi- SAR-ing/msp.html	
1時間に1回	総務省 (研)情報通信研 究機構	運営費交付金の内数			H28~		
海底観測設 置: 常時	文部科学省 (研)海洋研究開 発機構	海洋地震発生帯研究開 発、東北マリンサイエ ンス拠点形成事業(文部科学 省)	運営費交付金 (31,843)及び東北 マリンサイエンス拠 点形成事業(文部科学 省)(539)の内 数		H23~R2	問合せ先: 東日本海洋生態系変動 解析プロジェクトチーム URL: http://www.jamstec.go.jp/teams/ j/data.html	中間とりまとめ関連 被災地漁業者、自治体の参画
常時	文部科学省 (研)海洋研究開 発機構	海域で発生する地震及び 火山活動に関する研究開 発	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data base/	中間とりまとめ関連
三陸沖は3-4回 /年程度	文部科学省 (東北マリンサイエ ンス拠点形成事業 (文部科学省))	東北マリンサイエ ンス拠点形成事業(文部科学 省)	海洋生態系研究開発 拠点形成事業費 補助金(210)の内 数		H23~R2	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data base/	
全球: 最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球: 14日に1 回	文部科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球: 14日に1 回	文部科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	国立研究開発法人宇宙航 空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金 (115,923)の内数		H18~		

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	229	再掲	地震・津波の観測・予測研究 S-net及びDIONEを含む海陸の基礎的地震観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警報及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○		地震、津波	地震計、津波計等	全国、一部海外地域
	230	再掲	火山災害の観測・予測研究 基礎的火山観測網と各種リモートセンシング技術やモニタリング技術等を活用して火山災害過程の把握や予測に関する研究開発及び火山災害の軽減につながるリスクコミュニケーションの在り方に関する研究を実施し、新たな火山防災・減災対策の実現を目指す。	○	○	○		火山活動	地震計、衛星、航空機等	全国、一部海外地域
	231	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪水災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間のゲリラ豪雨等の予測技術開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○		気象	レーダー等	全国
	232	再掲	自然災害ハザード・リスク評価と情報の活用に関する研究 地震・津波災害等のハザード・リスク評価手法の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○	○	○		地震、津波等	地震計、衛星、航空写真、ボーリング等	全国、一部海外地域
		再掲	気候変動適応技術社会実装プログラム これまでの気候変動研究の蓄積を生かすとともに、地方自治体等が適応策を策定するために必要となる共通基盤技術の開発、整備することにより、成果の社会実装を行う。			○				
	233		地震・津波・火山等の観測成果に基づく適時的確な防災情報の発表 適時的確な防災情報の発表のため、地震活動等総合監視システム及び火山監視情報システムの運用を行う。				○	地震活動、火山活動	監視・情報発表に必要なシステム	全国
	234		地方自治体等が保有している航空レーザ測量データを活用して危険地形の判別可能な微地形図を提供するとともに、地理データを活用した山地災害リスクの予測技術について普及活動を行う。				○	山地地形	航空機	国内の対象県

(2) 発生時の緊急対応と復旧・復興への貢献

①広範囲の情報を観測可能な衛星観測や、狭範囲であるが高解像度の機動的な観測等の観測体制の充実と、予測モデルの構築・高度化	235	再掲	地上設置型リモートセンシング技術の研究開発(ゲリラ豪雨・竜巻に代表される突発的大気現象の早期捕捉・発達メカニズム解明及び予測技術の向上に貢献する。風、水蒸気、降水等を高時間空間分解能で観測する技術の研究開発する)	○	○	○		風向・風速、水蒸気、降水	地上	大阪、神戸、沖縄等
	236	再掲	航空機搭載高分解能合成開口レーダー(SAR)(災害発生時の状況把握等に有効な航空機搭載能力)について、状況判別のための観測技術や情報抽出技術の高度化、観測画像及び解析結果をネットワークを通じて社会に提供するための手法、更なる性能向上を目指したレーダー機器の研究開発を進める)	○	○	○		地表面	航空機	日本国内
	237	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	238	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	239	再掲	センチネル・アジア「だいち2号」等の地球観測衛星による地震、津波、火山噴火等の大規模自然災害の観測及びデータ提供を行うとともに、災害関連情報をアジア太平洋地域の現地防災機関との間で共有する活動(「センチネル・アジア」プロジェクト)を継続する。	○		○		大規模自然災害	衛星	全球
	240	再掲	地震・津波の観測・予測研究 S-net及びDIONEを含む海陸の基礎的地震観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警報及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○		地震、津波	地震計、津波計等	全国、一部海外地域
	241	再掲	火山災害の観測・予測研究 基礎的火山観測網と各種リモートセンシング技術やモニタリング技術等を活用して火山災害過程の把握や予測に関する研究開発及び火山災害の軽減につながるリスクコミュニケーションの在り方に関する研究を実施し、新たな火山防災・減災対策の実現を目指す。	○	○	○		火山活動	地震計、衛星、航空機等	全国、一部海外地域
	242	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪水災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間のゲリラ豪雨等の予測技術開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○		気象	レーダー等	全国
	243	再掲	自然災害ハザード・リスク評価と情報の活用に関する研究 地震・津波災害等のハザード・リスク評価手法の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○	○	○		地震、津波等	地震計、衛星、航空写真、ボーリング等	全国、一部海外地域

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号172を参照	整理番号172を参照	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号173を参照	整理番号173の再掲	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号174を参照	整理番号174の再掲	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号191を参照	整理番号191を参照	
	文部科学省	気候変動適応技術社会実装プログラム		354	H27~H31	整理番号104を参照	整理番号104の再掲	
常時	気象庁	地震津波観測業務等、火山観測業務等	地震津波観測業務等、火山観測業務等の内数		S21~	・利用条件URL(日): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/comment.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/comment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="http://www.jma.go.jp/jma/en/coop/yrigh.html">http://www.jma.go.jp/jma/en/coop/yrigh.html</a>		
既存データを利用	農林水産省(農)農水産技術会議、内閣府	戦略的プロジェクト研究推進事業(森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発)		37	拡充	H28~R2	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所研究ディレクター(国土保全・水資源研究担当) 大丸 裕武 TEL 029 829 8215 daimaru@affrc.go.jp	【中間とりまとめ関連】 4-1 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化 2019年度より内閣府PRISM予算による拡充を受けている。予算額は当該課題を含むプロジェクト全体の額。
数10秒~数分ごと	総務省(研)情報通信研究機構	総務省(研)情報通信研究機構	運営費交付金の内数		H28 ~R2	整理番号162を参照	整理番号162の再掲	
適宜	総務省(研)情報通信研究機構	総務省(研)情報通信研究機構	運営費交付金の内数		H28 ~R2	整理番号221を参照	整理番号221の再掲	
全球: 最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照	
全球: 14日1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照	
全球: 14日1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金(115,923)の内数		H18~			
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号172を参照	整理番号172を参照	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号173を参照	整理番号173を参照	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号174を参照	整理番号174を参照	
常時	文部科学省(研)防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H28~R4	整理番号191を参照	整理番号191を参照	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	244		航空機による被害地域の撮影・観測 災害発生時に、測量用航空機を用いて、広域にわたる被災状況や地形の変化を機動的に把握・観測する。	○				災害により被害が出た地域	航空機	日本国内
②復興・復興段階における「より良く再建すること」の典型的な実務の提示や特定基準策定への地球観測活用方策の検討	245	再掲	地震・津波の観測・予測研究 S-net及びD0NEIを含む海陸の基盤的地震観測網等の観測データと大規模シミュレーションを活用して、地震動・津波即時予測のための研究開発を実施し、迅速かつ高精度な地震や津波の早期警報及び直後の被害予測の実現を目指す。	○	○	○		地震、津波	地震計、津波計等	全国、一部海外地域
	246	再掲	火山災害の観測・予測研究 基盤的火山観測網と各種リモートセンシング技術やモニタリング技術等を活用して火山災害過程の把握や予測に関する研究開発及び火山災害の軽減につながるリスクコミュニケーションの在り方に関する研究を実施し、新たな火山防災・減災対策の実現を目指す。	○	○	○		火山活動	地震計、衛星、航空機等	全国、一部海外地域
	247	再掲	気象災害の軽減に関する研究 竜巻、短時間強雨、強い台風、局地的豪雪等による風水害、土砂災害、雪氷災害等の気象災害を軽減するため、先進的なマルチセンシング技術と数値シミュレーション技術を活用した短時間のゲリラ豪雨等の予測技術開発やハード評価技術等の研究開発を実施し、成果の社会実装を目指す。	○	○	○		気象	レーダー等	全国
	248	再掲	自然災害/ハード・リスク評価と情報の利活用に関する研究 地震・津波災害等のハード・リスク評価手法の高度化やリスクマネジメント手法の研究開発、被害状況の推定及び把握技術の開発や災害対策支援技術の研究開発、災害リスク情報の共有及び利活用技術の開発や災害リスク低減のための制度設計に資する研究及び対策技術の研究開発を推進する。	○		○		地震、津波等	地震計、衛星、航空写真、ボーリング等	全国、一部海外地域
	249	一部再掲	地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価 巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。	○	○		○	海洋生物/POB /水温・塩分・溶解酸素 など物理・化学環境/ 地形・底質	船舶、その他(ラゾマ、ランダー)	三陸沖

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
発災時	国土交通省 国土地理院	航空機による被害地域の撮影・観測(測量用航空機運航経費)	146の内数		H22~	<データ公開URL> <a href="https://www.gsi.go.jp/bousai.html">https://www.gsi.go.jp/bousai.html</a> ※ 問合せは上記URL内の連絡先に問合せ可能。	中間取りまとめ関連
常時	文部科学省 ( 研) 防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H26~R4	整理番号172を参照	整理番号172を参照
常時	文部科学省 ( 研) 防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H26~R4	整理番号173を参照	整理番号173を参照
常時	文部科学省 ( 研) 防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H26~R4	整理番号174を参照	整理番号174を参照
常時	文部科学省 ( 研) 防災科学技術研究所	国立研究開発法人防災科学技術研究所運営費交付金	運営費交付金(7,609百万円)の内数		H26~R4	整理番号191を参照	整理番号191を参照
三陸沖は3-4回/年程度	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	海洋生態系研究開発拠点機能形成事業費補助金(210)の内数		H23~H2	問合せ先: 付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	-

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
4. 食料及び農林水産物の安定的な確保への貢献										
①農業への地球観測の活用(農地やその周辺における土地利用・作付け体系、農産物の生産量、有害動植物や病害虫による被害の実態及びその推移、農業生産を支える環境の実態及びその推移に関する高頻度、短周期の観測)	250		イネ群落の微気象と高温障害の実態解明のためのモニタリング(農地を閉鎖した自立型気象観測システムMINCERを用いて、アジアを中心とするコム生産国の実験水田において、イネの高温障害に直接関わる穂周辺の気温・湿度の測定を継続し、イネの生育、収量との関連を解析する。)	○		○		水田の気温、相対湿度	地上	インド、スリランカ、ミャンマー、中国、フィリピン、台湾、アメリカ、カナダ、コートジボワール、セネガール、マダガスカル、日本
	251		全国の農地・草地土壌の炭素蓄積を推定するために、サンプリングによる定点の土壌調査を実施する。	○		○		農地・草地土壌中の炭素含有量、窒素含有量	地上	日本各地
	252		温暖化緩和技術の開発と農業現場におけるその効果の最大化(農業分野における温室効果ガスの発生・吸収量の評価、メカニズムの解明、温室効果ガスの排出削減技術、農地土壌等の吸収機能向上技術を開発する。)	○		○		温室効果ガス等	地上	農地、畜産、日本、アジア
	253		小型衛星データとフラックスサイトデータを利用したディープラーニングによる作物予測 小型高解像度衛星データに対して、作物成長のプロセスモデル、データ同化手法、ディープ・ラーニングを組み合わせ、日本の狭小地帯における作物バイオマスをより精密に予測することができる手法を開発する。さらに、様々な地点でのハイスペデータと気象観測データとを組み合わせ、各予測手法の精度の地域的・地形的差異を解析する。			○		水田	衛星	つくば市、長岡市
	254		気象観測装置の整備 農研機構は、全国各地の研究拠点で気象観測を行っており、気象データの蓄積・利用促進のために、気象観測装置のスペックの統一、農研機構統合データベースへの収録等の取組を進めている。R2年より10年の計画で各地の気象観測装置の更新を進めていく予定。	○				気温、日照時間、日射量、土壌水分量等の気象情報	風速計・風速計等の観測装置	札幌、芽室、温別、旭川、上越、福山、普通寺、合志、浜後、久留米、都城、種子島、鳥田、東広島、津、那須塩原、御代田、つくば
	255		気候変動予測、野生鳥獣被害拡大への対応技術の開発 予測される温暖化による鳥獣被害の北上、発生時期の変化に対応する目的で、農地周辺の野生動物の出現状況、繁殖時期の周年観測を実施し、適切な被害対策を地域別のマニュアルを作成し、かつ、気候変動で予測される被害状況の変化に対応する。			○		シカ、イノシシ等の野生動物	自動撮影カメラ	遠野市、二本松市、秋田市、東京都新島村、津市、大田市、広島県神石高原町、佐伯市、石垣市
②林業への地球観測の活用(森林の分布、樹種、森林蓄積量と成長量)										
	256	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	257	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	258	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	259		人工林に係る気候変動の影響評価 気候変動に対するスギ人工林の応答を解明し、影響評価を1kmメッシュでマッピングする。			○		森林(人工林)	タワー観測、土壌計測、地上森林計測	日本(茨城、高山、熊本)

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
イネ出穂期から 収穫期 の 観測 頻度 は 2分 毎	農林水産省 (研)農業・食品産業技術総合研究機構、国際農林水産業研究センター)	地球環境保全試験研究費委託事業		12	H23~	(参考URL) http://www.naro.affrc.go.jp/arc-hive/niaes/sinfo/result/result27/result27_48.html	水田群落内の気温・湿度のモニタリングによるイネ高温障害の実態解明を目的とする微気象観測ネットワーク(MINCERnet)を組織(参加国：インド、スリランカ、ミャンマー、中国、フィリピン、台湾、アメリカ、カナダ、コートジボワール、セネガール、マダガスカル、日本)し、2018年1月にはMINCERnetとして3回目のワークショップ「気候変動下のイネの高温障害に打ちむかう国際観測ネットワーク MINCERnet」を開催 (http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078423.html)
年1回	農林水産省	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業		48	H29~R2		
土壌炭素：年1回 温室効果ガス：週1回	農林水産省 (研)農業・食品産業技術総合研究機構	運営費交付金		22	H28~		
衛星 (Planet) 自体は毎日だが、画像購入は数日から2週間1回	農林水産省 (研)農業・食品産業技術総合研究機構	科研費		3	R1~R4		農業環境変動研究センター環境情報基礎研究領域主任研究員 櫻井 玄 029-838-8224
常時	農林水産省 (研)農業・食品産業技術総合研究機構	運営費交付金		26	新規 R2-R11	農研機構本部研究推進総括課 029-838-8896	【中間とりまとめ関連】 4-2 観測解決を志向した地球観測インフラの長期的・継続性の確保
周年(動物センサーが検知)	農林水産省 (研)農業・食品産業技術総合研究機構	試験研究調査委託費		21	H28-R2	農研機構西農研畜産・鳥獣害研究領域、江口祐輔(委託プロ研究者) 0854-82-2047	
全球：最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費		101	H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球：14日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球：2~3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
連続	農林水産省	戦略的プロジェクト研究推進事業(森林・林業、水産分野における気候変動適応技術の開発)		18	H28~R2		

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
③水産業への地球観測の活用(水産資源の量や分布、漁場環境、有害生物などの把握のための地球観測)	260	再掲	地球表層と人間活動との相互作用の把握(地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸地における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表層の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、二酸化炭素、一酸化窒素(NO2)、O2、PM2.5、大気エアロゾル粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海水中の溶解酸素、pH、溶存酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海面潮流等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロート)	福江島、横須賀、沖縄辺野浦、韓国光州、ロシアズベニゴロ、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北太平洋定地点(K2)、西部北極海定地点(NAP)、東部津軽海峡
	261	一部再掲	地球環境変動と人間活動が生物多様性に与える影響評価(巨大地震被災地の漁業復興と持続的漁業に資するため、三陸沖の環境と生態系の現状を把握するとともに、それらの変動を予測する。	○	○	○	○	海洋生物/POB(水温、塩分、溶存酸素など物理・化学環境、地形・底質)	船舶、その他(ラバ実験、ランダ)	三陸沖
	262	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)による降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○	○	○	○	降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	263	再掲	水産資源調査・評価推進事業我が国周辺水域の主要魚種について、資源調査・評価を強化するとともに、よりの確な漁場形成・漁況予測を行う。また、資源変動要因の解析及び情報収集の取組の支援。また、まぐろ類、サンマ等の主要な国際漁業資源について、資源調査や評価等を実施する。併せて海洋環境の変化が水産資源に与える影響に関する調査の支援。	○	○	○	○	水温、塩分、栄養塩、海洋生物等	調査船、衛星等	日本周辺海域
	264	再掲	漁場環境改善推進事業(赤潮や貧酸素水塊による漁業被害を防止するため、広域海洋モニタリング調査体制の確立や発生メカニズムの解明及び予察・防除技術の開発などを実施)。	○	○	○	○	水温、塩分、栄養塩、海洋生物等	衛星等	日本周辺海域
	265	再掲	有害生物漁業被害防止総合対策事業(ト、ザラボヤ等による漁業被害の防止・軽減を図るための対策、被害防止・軽減対策のより効果的・効率的な手法の開発・実証、日中韓による大型クラゲ国際共同調査等の支援)。	○	○	○	○	水温、塩分、栄養塩、海洋生物等	調査船等	日本周辺海域
④林業、水産業に貢献する衛星データの活用、温室効果ガスフラックス等に関する既存の観測ネットワークの維持とデータ活用、自動計測技術及びデータ同化技術の開発・高度化	266	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。	○	○	○	○	植生、雪氷等	衛星	全球
	267	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○	○	○	○	植生、雪氷等	衛星	全球
	268	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○	○	○	○	雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	269	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)による降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○	○	○	○	降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	270	再掲	漁場環境改善推進事業(赤潮や貧酸素水塊による漁業被害を防止するため、広域海洋モニタリング調査体制の確立や発生メカニズムの解明及び予察・防除技術の開発などを実施)。	○	○	○	○	水温、塩分、栄養塩、海洋生物等	衛星等	日本周辺海域
	271	再掲	大気環境観測データ同化と化学輸送モデルによる解析・予測(地上・航空機、衛星等による各種観測データを同化し、化学輸送モデルによる解析・予測結果について、国内外に情報提供を行う)。	○	○	○	○	-	-	-
	272	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDGG)の運営(WMO)のデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。	○	○	○	○	温室効果ガス等	-	-

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大気組成観測は1時間~1日毎、植生開成観測は1日48回(気象・フラッグス、分光反射、観音等)、1~5年に1回(分光反射、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節・天窓)は2分から15秒、森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測・定点観測のうち、センサーは1時間に1回、海洋沈降粒子は1か月1~2回、船上観測では1時間~1日毎、BGCフロートは1時間に1回、HF-Liは毎30分	文部科学省(文部科学省関係機関)	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GCOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(MAP))、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサと韓国の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GCOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JaLIER(Japan Long-term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
三陸沖は3~4回/年程度	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	・東北マリンサイエンス拠点形成事業(文部科学省)	運営費交付金(32,070)の内数、海洋生態系研究開発拠点機能形成事業費補助金(210)の内数		H23-R2	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/	
全球:2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費		700	H17~	整理番号122を参照	整理番号122を参照
適宜	水産庁(水産研究・教育機構)	水産資源調査・評価推進事業	5,225		H31~R5	調査船調査に関する情報は海洋情報クリアリングハウス(http://www.mich.go.jp/)。	
適宜	水産庁(水産研究・教育機構)	漁場環境改善推進事業	157		H30~R4	赤潮関係に関する情報は国立研究開発法人水産研究・教育機構 西海区水産研究所HP(http://snf.fra.affrc.go.jp/)	
適宜	水産庁(水産研究・教育機構)	有害生物漁業被害防止総合対策事業	33		H30~R2	大型クラゲに関する情報は国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所HP(http://jsnfr.fra.affrc.go.jp/)	中国および韓国との共同調査
全球:最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2~3日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球:2日に1回	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
適宜	水産庁(水産研究・教育機構)	漁場環境改善推進事業	157		H30~R4	整理番号264を参照	整理番号264の再掲
-	気象庁	気候変動対策業務			-	-	中間とりまとめ関連
-	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
5. 総合的な水資源管理の実現への貢献										
①治水・利水施設の操作・管理に利用するための地球観測の実施(降水量や河川流量、地下水位、揚水量、土壌水分量、水質などを地上観測ネットワーク、衛星観測、観測モデルの統合利用によって把握)	273	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)・TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二層波降水レーダ(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う。	○	○			降水	衛星	全球
	274	再掲	水循環変動観測衛星「しきさい」(GCOM-W)GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	275	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)・TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二層波降水レーダ(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う。	○		○		降水	衛星	全球
	276		国際洪水イニシアチブ(HI)デモンストラレーションプロジェクトによりスリランカ、フィリピン、マニラ、ハクスタンにて、地上雨量のリアルタイム観測を用いたGSMPバイパス補正を実施し、洪水予測を行う。	○		○		降水	GPM	IFIデモンストラーション流域
			全球物理影響評価モデルを一般均衡モデルと連携させるための理論的・技術的基盤の確立に関する研究費を重点ミッションによる陸域貯水量観測に基づく、全球水資源モデルの検証。				○	重力変動	衛星	全球
②食料、エネルギー、健康、生物多様性などとの統合的な地球観測の実現とデータの統合的利用手法の開発										
	277	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。				○			
6. エネルギー及び鉱物資源の安定的な確保への貢献										
①再生可能エネルギーの活用に関する風況、日射量、海況等の観測や、海底資源等の確保に資する資源の賦存量、海底下の地質などを把握する観測										
	278		海底資源の有効利用 海底資源の形成について、化学・物理過程の相関を見いだすとともに、得られた科学的知見に基づく海底資源生成モデルを構築し、有望な海域を理論的に予測するための研究開発を実施する。	○		○		海水(熱水等)、海底地形、岩石試料	船舶および探査機	日本周辺海域(伊豆・小笠原海域等)
②資源の安定的確保を目的とした、衛星観測情報や地質情報の整備、環境・災害リスクを考慮した資源開発を目的とした地球観測の推進										
	279	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	280	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	281	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
③アジア及びアフリカ地域における小規模鉱山開発等による環境・災害リスクや健康リスクの衛星観測による監視										
	282	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	283	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	284	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球:3時間ごと	総務省 (理)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H12~	整理番号35を参照	
全球:2日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
GPM計画全体で3時間毎の全球降水観測	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、宇宙航空宇宙	研究開発推進費	444		H13~	整理番号41を参照	整理番号41を参照
地上雨量計:毎10分・流域雨量分布:毎1時間	国土交通省 (国土研究開発法人 土木研究所)	土木研究所運営交付金の内数	運営費交付金の内数		H28~R3	IFIホームページ http://www.ifi-home.info/	宇宙航空研究開発機構・PMIプロジェクトと共同研究
月毎	環境省 (国立環境研究所)	環境研究総合推進費S-14 (環境研究総合推進費)	16		H27~H31	和文: http://s-14.iis.u-tokyo.ac.jp/ 英文: http://s-14.iis.u-tokyo.ac.jp/eng/	
-	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	382	拡充	H28~R2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化(地球観測による課題解決への更なる貢献) 4-4 共通の・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献
-	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	海洋資源の持続的有効利用に資する研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R8.3	-	中間とりまとめ関連 【民間参画】 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)次世代海洋資源調査技術で得られた成果を活用し、民間企業等との共同研究などを実施予定
全球:最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2~3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球:最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2~3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲



「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
7. 健康に暮らせる社会の実現への貢献										
①大気汚染物質の濃度やヒートアイランドの実態の把握、感染症の発生状況、媒介生物の出現状況などの把握のための地球観測(特に、大気汚染状況の把握等を目的とした地上観測網の整備や大気汚染物質の鉛直方向の分布の解明)	285	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的大気汚染予報システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	286	再掲	大気中のSLOPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う国際宇宙ステーション搭載uv300PE	○	○	○		大気汚染物質	衛星	全球
	287	再掲	大気中のSLOPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う静止衛星搭載GMAP-ASIA	○	○	○		大気汚染物質	衛星	アジア域
	288	再掲	地球系層と人間活動との相互作用の把握 地球系層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸地における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球系層の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、二酸化炭素、二酸化窒素(N2O)、CO2、PM2.5、大気エアロゾル粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル東光、海氷濃度、海中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン群、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他(BGC浮動)	福江島、横須賀、沖縄、鹿児島、韓国光州、ロシアアムニゴロド、アラスカ、シベリア、北太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北太平洋定点(K2、KEO)、西部北極海定点(NAP、NBC)、東部津軽海峡
	289	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)等・エアロゾル、海洋生物の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	290	再掲	オゾン観測 オゾン分光光度計およびオゾンソナドによるオゾン観測及びデータ提供を継続する。	○		○		オゾン	地上	光度計：全国3箇所 ソナド：全国1箇所
	291	再掲	紫外線観測 波長別紫外域日射観測装置による紫外線観測及びデータ提供を継続する。	○		○		紫外線	地上	全国1箇所
	292	再掲	アジア、太平洋地域における温室効果ガス等の地上観測の展開 インドを含むアジア諸国での観測の空白域を少なくするためにプロジェクトベースで観測点を展開し、温室効果ガス等の観測を行い、これまでなかったデータを取得	○	○	○		温室効果ガス 短寿命気候汚染物質、エアロゾル、酸素、同位体比	ステーション(自動観測装置、ポートルサンブラー)	中国、マレーシア、インドネシア、ハワイ、インド、バングラデッシュ
	293		東京スカイツリー等を利用した首都圏の大気観測 東京スカイツリーを含む都内複数箇所での温室効果ガスの観測	○	○	○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、炭素同位体、酸素、等	地上	東京
	294		辺戸岬スーパーサイトの共同運用 国内の研究機関と連携し大気質・エアロゾルについて長期連続観測を行う。気候変動に関連しエアロゾルと雲の相互作用などについての観測も行った。関連する研究者にホームページでの情報整備を通じて観測データの利用を促進する。アジア地域のABC観測地点と協働しデータを継続して整備する。	○		○		対流圏大気質(主にエアロゾル)	地上での物理的、化学的観測	沖縄県辺戸岬
	295		平成18年度より体感指標である暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)を計測し、WEB上でデータ提供を継続するとともに、暑熱環境の把握をする。	○				湿球黒球温度(WBGT)	地上	国内11地点

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
1時間~1回	総務省 (研) 情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H28~		
全球 1 1 日に 1 回	総務省 (研) 情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H24~		共同研究：文部科学省(研) 海洋研究開発機構
1時間~1回	総務省 (研) 情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H24~		共同研究：文部科学省(研) 海洋研究開発機構
0	文部科学省 (研) 海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL： <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data-base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data-base/</a>	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・ 全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(AMAP))、北極大気汚染と社会(PAGES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)(TROPOMI衛星センサや韓国静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLOWNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JALIER(Japan Long-Term Ecological Research Network)、GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球：2~3日に1回	文部科学省 (研) 航空研究開発機構	研究開発推進費	1,252		H17~		整理番号8を参照
光度計：毎日 ソナド：週1回	気象庁	オゾン観測	11(11)		S32~		整理番号13を参照
毎時(日中)	気象庁	紫外域日射観測	0.9(0.4)		H2~		整理番号45を参照
連続または週に1回	環境省 (国立環境研究所)	低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部)	16,307の内数		H16~		整理番号25を参照
連続	環境省 (国立環境研究所)	1.低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部) 2.(環境省)「温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)シリーズ」による岸上観測器に向けた技術高度化事業」	1,46の内数 2,1,880の内数		H26~	問い合わせ先： <a href="http://www.cger/nies.go.jp">www.cger/nies.go.jp</a>	
連続観測から集中観測まで多岐にわたる	環境省 (国立環境研究所)	安全確保研究プログラム(運営費交付金の一部)	16,307の内数		H17~	<a href="http://www.nies.go.jp/asia/hedo_misaki/kiki_data.html">http://www.nies.go.jp/asia/hedo_misaki/kiki_data.html</a> (日本語) <a href="http://www.nies.go.jp/asia/hedo_misaki/instruments_list.html">http://www.nies.go.jp/asia/hedo_misaki/instruments_list.html</a> (英語)	UNEP アジア褐色雲ジェットのサイト
1時間毎	環境省 (WBGIT)	クールシティ推進事業	57の内数		H18~	<a href="https://www.wbgit.env.go.jp/data_service.php">https://www.wbgit.env.go.jp/data_service.php</a>	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	296		大気汚染状況の常時監視を実施する。	○				大気汚染物質	地上	全国9地点
②感染症の発生や媒介生物の出現が見込まれる場所の予測・同定に資する地形、土地利用、土地被覆、水質等の環境因子の観測	297	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
③データ利用者となる疫学者や現場の公衆衛生担当者との連携による、利用が必要とする環境因子に関する情報の共有、適切な空間・時間分解能での観測・予測データの提供	298	再掲	福岡市など地方自治体レベルの局所的な大気汚染予測システムとその健康影響			○		大気汚染物質	各種衛星データ、地上データ	福岡市・日本・アジア・全球
	299	再掲	大気中のSLOPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う国際宇宙ステーション搭載uvSCOPE	○	○	○		大気汚染物質	衛星	全球
	300	再掲	大気中のSLOPs(短寿命気候汚染物質)など大気汚染物質の観測を行う静止衛星搭載GMAP-ASIA	○	○	○		大気汚染物質	衛星	アジア域
	301	再掲	大気環境観測データ同化と化学輸送モデルによる解析・予測地上や航空機、衛星等による各種観測データを同化し、化学輸送モデルによる解析・予測結果について、国内外に情報提供を行う。			○	○	-	-	-
<b>8. 科学の発展への貢献</b>										
①地球システムの包括的理解に必要な基礎的知見を蓄積するための地球観測(エアロゾル、雲、降水相互作用等をはじめとする気候変動のメカニズムや、地球システムを構成する固体地球、陸面、海洋、大気、電離圏・磁気圏の相互作用及びフィードバック、太陽地球系の結合過程等の理解の深化)	302		宇宙天気予報精度向上のための観測技術・モデル技術開発	○	○	○		太陽フレア、コロナ質量放出(CME)、太陽風、惑星間空間磁場、電離圏、地磁気	衛星・地上観測、数値シミュレーション	太陽面から地球までおよび地球全球、我が国周辺領域
			統合的観測解析システムの構築による全球・アジア太平洋の炭素循環の変化の早期検出 地上・航空機・船舶等による温室効果ガスの観測、インバージョン解析による地球毎の温室効果ガス収支の推定等を含み合わせ、全球および地域別の炭素収支の精緻な評価を行うと同時に、炭素循環の変化を早期検出する。	○		○		二酸化炭素	地上、航空機、衛星	全球・アジア太平洋
	303		数値科学的手法による海洋地球情報の高度化及び最適化に係る研究開発 地球システムの変動と人間活動との相互関連性の理解を推進するため、データを連携する手法と、連携された膨大なデータの効率的かつ最適な処理を可能にする数値解析手法を開発し、相互関連性を見いだすための研究開発を行う。			○		-	-	-

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
常時	環境省(都道府県等)	大気環境監視測定網整備推進費(環境保全調査費等)	75		S46~		
全球:最短2日	文部科学省(宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
1時間に1回	総務省(研)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H28~		
全球1日に1回	総務省(研)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H24~		共同研究:文部科学省(研)海洋研究開発機構
1時間に1回	総務省(研)情報通信研究機構		運営費交付金の内数		H24~		共同研究:文部科学省(研)海洋研究開発機構
-	気象庁	気候変動対策業務	気候変動対策業務の内数			整理番号271の再掲	整理番号271の再掲
15分に1回程度	総務省(研)情報通信研究機構	運営費交付金	運営費交付金の内数			<a href="http://swc.nict.go.jp/contents/index.php">http://swc.nict.go.jp/contents/index.php</a>	
多様	環境省(国立環境研究所、海洋研究開発機構、気象庁気象研究所、千葉大学)	環境研究総合推進費2-1701(環境研究総合推進費)	50		H29~H31	CONTRAIL: <a href="http://www.oger.nies.go.jp/contrail/">http://www.oger.nies.go.jp/contrail/</a> AsiaFlux database: <a href="https://db.oger.nies.go.jp/asiafluxdb/">https://db.oger.nies.go.jp/asiafluxdb/</a> FLUXNET data portal: <a href="http://fluxnet.fluxdata.org/">http://fluxnet.fluxdata.org/</a>	日本航空株式会社、株式会社ジャムコ、(公財)JAL財団の参画 6E0 The Carbon and GHGs イニシアティブに貢献
-	文部科学省(研)海洋研究開発機構	数値科学的手法による海洋地球情報の高度化及び最適化に係る研究開発	運営費交付金(31,843)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data.html">http://www.jamtec.go.jp/j/data.html</a>	中間とりまとめ関連

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	304	再掲	地球表層と人間活動との相互作用の把握 地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分の陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両アプローチから捉え、それら地球表層の変動等と人間圏における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	BC、対流圏オゾン、一酸化炭素、二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )、O <sub>3</sub> 、PM <sub>2.5</sub> 、大気エアロゾル、粒子物理特性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海水中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン、動物プランクトン群集、海面流速等	衛星、地上、船舶、その他(BGCフロード)	福江島、横須賀、沖縄辺野岬、韓国光州、ロシアズベニゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、バイオマス、衛星・カメラ観測、エアロゾル、シベリア、西部北極海定点(K2)、西部北極海定点(NAP)、東部津軽海峡
	305	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W) GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○				降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	306	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	307	再掲	南鳥島および緯度における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一WMOの地球観測所に選定されている南鳥島と、気象庁経緯観測所において、各機関と連携して、大気主成分や温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、気象庁と海洋庁熱量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南鳥島、緯度
	308	再掲	温室効果ガス等の観測 大気中の温室効果ガス等について、国内3地点及び東京～南鳥島間の上空において観測を行い、データ提供を継続する。	○		○		温室効果ガス等	地上、航空機	国内3箇所及び航空機
	309	再掲	降水・降水観測 降水及び降水観測データの提供を継続する。	○				降水及び降水観測	地上	南鳥島
	310	再掲	オゾン観測 オゾン分光光度計およびオゾンゾンデによるオゾン観測及びデータ提供を継続する。	○		○		オゾン	地上	光度計：全国3箇所 ゾンデ：全国1箇所
	311	再掲	紫外線観測 波長別紫外域日射観測装置による紫外線観測及びデータ提供を継続する。	○		○		紫外線	地上	全国3箇所
	312	再掲	エアロゾル観測 スカイラジオメーターによるエアロゾル観測及びデータ提供を継続する。	○				エアロゾル	地上	全国3箇所
	313	再掲	日射放射観測 日射計及び放射計による日射放射観測及びデータ提供を継続する。	○				日射及び赤外放射	地上	全国5箇所
	314		地磁気観測業務 国際科学会議(IGSU)の下部組織である国際地球電磁気学・超高層物理学協会(AGA)の推進するインターマグネット計画の枠組みのもと、アジア、太平洋地域のインターマグネット観測所として地磁気の定常観測を実施	○		○		地磁気	地上	全国3地点 (INTERMAGNET登録地点)

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大気組成観測は1時間～1日毎、植生観測は1日4回(気象・フラッグロス、分光放射、観測等)、1～5年に1回(分光放射、葉面積、バイオマス)、衛星・カメラ観測(植物季節・天候)は2分から1日毎、森林の光環境の観測(1時間毎)海洋物質観測：定点観測のうち、センサーは1時間に1回、海洋沈降粒子は1か月に1回 船上観測では1時間～1日毎、BGCフロードは1時間に1回、HF-L <sub>2</sub> は毎0.5h	文部科学省 (財)海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内訳、環境総合研究推進費(37)の内訳		R31.4～R8.3	問合せ先：付加価値情報創生部門 地球情報センターデータ管理グループ URL： <a href="http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/</a>	中間とりまとめ関連【国際連携状況】 ・ 全球気候観測システム(GCOS)・北極圏監視評価プログラム作業部会(北極圏監視評価プログラム作業部会(AMAP))・北極大気汚染と社会(PAGES)・MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサーと韓国の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GCOS)・OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)・Phenological Eyes Network(PEN)・JaLIER(Japan Long-term Ecological Research Network)・GEO Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
全球：2日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17～	整理番号120を参照	整理番号120を参照
全球：2～3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17～	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
連続観測および月2～4回の大気サンプリング	経済産業省 (研)産業技術総合研究所、気象庁気象研究所と共同)	大気成分の長期観測による海洋熱量および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境保全試験研究費) ・ 運営費交付金の内訳	19		R1年度～R5年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連
国内3箇所：連続 航空機：月1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳		S62～	整理番号11を参照	整理番号11の再掲
降水：毎日 降水下：毎月	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳		S51～	整理番号12を参照	整理番号12の再掲
光度計：毎日 ゾンデ：週1回	気象庁	オゾン層観測	11(11)		S32～	整理番号13を参照	整理番号13の再掲
毎時(日中)	気象庁	紫外域日射観測	0.9(0.4)		H2～	整理番号45を参照	整理番号45を参照
10分に1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内訳		S50～	整理番号14を参照	整理番号14を参照
毎時	気象庁	日射観測	3(3)		S31～	整理番号15を参照	整理番号15を参照
地磁気変化観測：1秒毎 地磁気絶対観測：週に1回(女湯別、鹿屋は2週に1回)	気象庁	地磁気観測業務	28(28)		T2～	・ 利用条件URL(日)： <a href="http://www.kakioka-jma.go.jp/inquiry/copyright.htm">http://www.kakioka-jma.go.jp/inquiry/copyright.htm</a> #exclusion	国際リアルタイム地磁気観測ネットワーク(INTERMAGNET)計画と連携した観測

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
②広範囲の情報を正確に把握するための衛星の活用、海洋内部の観測を可能とする観測機器や観測網の構築と維持等	315	再掲	雲エアロゾル放射ミッション(EarthCARE)(EarthCAREプログラムのコアセンサーである雲プロファイリングレーダ(DPR)の開発)	○	○			雲・エアロゾル	衛星	全球
	316	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)(TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二周波降水レーダ(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う)	○	○			降水	衛星	全球
	317		超伝導サプレミリ波リム放射サウンダSMILES後継機(風、気温、多種類の分子・原子の分布を広い高度範囲にわたって地球規模で観測する技術の開発)		○			風向・風速・気温・大気微量成分	衛星	全球
	318		衛星搭載ドップラー風ライダー(地球規模の風観測可能な衛星ドップラー風ライダー実現に向けた基盤技術開発)		○			風向・風速	衛星	全球
	319		グローバル観測データの自動収集および遠隔監視システムの開発		○			各種観測データ	地上観測	全世界
	320	再掲	小型テラヘルツリモセンによる水蒸気・水蒸気・水蒸気同位体の観測	○	○	○		水蒸気・水蒸気同位体	衛星	全球
	321	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動・変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支と淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連溶解物質、その他溶解化学物質、温度、塩分、栄養塩、海上気象など	船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大
	322	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○	○			二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	323	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2)温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機となるGOSAT-2による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。		○			二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	324	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、雲生分布の全球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、雲生分布等	衛星	全球
	325	再掲	雲エアロゾル放射ミッション(EarthCARE)EarthCAREプログラムのコアセンサーである雲プロファイリングレーダ(DPR)の開発を行う。		○			雲・エアロゾル	衛星	全球
	326	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	327	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	328	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、水蒸気、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
大抵同周回 軌道(回帰 日数25日)	総務省 (研)情報通信 研究機構		運営費交付金の内 数		H17~		
全球:3時間ご と	総務省 (研)情報通信 研究機構		運営費交付金の内 数		H12~	整理番号35を参照	
未定	総務省 (研)情報通信 研究機構		運営費交付金の内 数		H28 ~R2		
未定	総務省 (研)情報通信 研究機構		運営費交付金の内 数		H28 ~R2		
データによる	総務省 (研)情報通信 研究機構	運営費交付金	運営費交付金の内 数		H24~	http://sc-web.nict.go.jp	
3時間ごと	総務省 (研)情報通信 研究機構		運営費交付金の内 数		H16~	整理番号36を参照	整理番号36を参照
船舶:1日に4 回程度、衛星: 連日観測 フロート、ブ イ:1時間に1 回~10日に1回 等	文科科学省 (研)海洋研究 開発機構	地球環境の状況把握と変 動予測のための研究開発 環境総合研究推進費 (37)の内数	運営費交付金 (31,843)の内数、 環境総合研究推進費 (37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data base/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム (GOS)・全球海洋観測システム (GOOS)・ARGO国際プロジェクト、 気候変動及び予測可能性研究 計画(CLIVAR)、表層海洋CO2 データベース(SOCAT)、全球海 洋観測調査プログラム(GO-SHIP)、 熱帯太平洋海洋観測シ ステムプロジェクト(TPOS2020) 、世界定法観測ネットワーク (OceansITES)、国際海洋炭素デー タ統合プロジェクト(IOCOP)、 YMOといった国際プロジェクト等 に参画し、観測を実施 【関係企業参画】 高精度溶解酸素センサを搭載した 次世代型深層用フロートの開発に 関する共同研究、海洋標準物質作 成に関する共同研究
全球:3日に1 回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構、国立環境研 究所)	研究開発推進費	80		H20~	整理番号6を参照	整理番号6を参照
全球:6日に1 回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構、国立環境研 究所)	研究開発推進費	20		H26~	整理番号7を参照	整理番号7を参照
全球:2~3日 に1回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8を参照
全球:25日に1 回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構、情報通信研 究機構、欧州宇宙機 関)	研究開発推進費	203		H20~	整理番号40を参照	整理番号40の再掲
全球:最短2日	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日に1 回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2日に1 回	文科科学省 (宇宙航空研究開 発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	329	再掲	全球降水観測計画衛星(GPM)TRMM/PRの技術を継承・発展させた全球降水観測プログラムのコアセンサーである二周波降水レーダー(DPR)による高精度・高感度な全球降水観測データの取得及び提供を行う。	○		○		降水	衛星	全球
	330	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)GOSATによる全球の温室効果ガスの観測及びデータ処理、データ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	331	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2)観測センサーの高度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出単位での排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリの比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロソール等	衛星	全球
	332	再掲	温室効果ガス観測技術衛星3号機継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。		○	○		二酸化炭素、メタン、二酸化窒素等	衛星	全球
③地球システムの包括的理解を目的とした、科学観測の提案から、審査、策定、実行、評価まで、一貫して推進する機能の確立(取得されたデータや創出された知見の社会での活用を考慮)										
④人類共通の科学的知見の蓄積・深化のため、科学的理解に乏しい現象の科学過程の解明を目的とした観測研究の実施とモニタリングとの連携を通じた観測研究の強化	333	再掲	南島高および経緯度における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一前回の観測所にて測定されている南島高と、気象庁経緯度観測所において、各機関と連携して、大気成分及び温室効果ガスの変動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、炭素循環と海洋貯蔵量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南島高、経緯度
	334	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測 アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通じて他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度、フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびナコンラチャシマ県
	335	再掲	地球表層と人間活動との相互作用の把握 地球表層を総合的に扱うために、海洋、大気、それらと不可分な陸域における、水循環や物質循環、生態系変動等を観測と予測の両方プロシから捉え、それら地球表層の相互作用と人間活動における諸活動の相互作用を理解するための研究開発を行う。	○	○	○	○	CO <sub>2</sub> 、対流圏オゾン、一酸化炭素、二酸化炭素(N <sub>2</sub> O、BGCフットロート) 大気エアロゾル粒子物性・成分、バイオエアロゾル、バイオマス、植物季節、クロロフィル蛍光、海洋沈降粒子、海中の栄養塩、pH、溶解酸素、植物プランクトン活性、植物プランクトン群集、海表面流等	衛星、地上、船舶、その他 マレーシア、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北太平洋地点(K2、KEO)、西部北極海地点MAP、NSO、東部洋群、海表面流等	福江島、横須賀、沖縄辺野浦、韓国光州、ロシアズベゴロド、アラスカ、シベリア、太平洋、北極海、全球(海上)、マレーシア、アラスカ、シベリア、西部北太平洋地点(K2、KEO)、西部北極海地点MAP、NSO、東部洋群、海表面流等
	336		マルチスケールGHG変動評価システム構築と緩和策評価に関する研究 グローバルからローカルまでいろいろなスケールにおけるGHGの収支に關して観測を通じて科学的理解を含め、科学的知見から将来GHG緩和策や影響適応策の評価を行う	○	○	○		温室効果ガス短寿命気候汚染物質、エアロソール、酸素、同位体比	地上、航空、衛星	全球

観測頻度	府省庁名組織名	事業名(予算費目)	R02年度予算額(百万円)	新規/拡充	計画期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
0時台直全体で3時間毎の全球降水観測	文部科学省(宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、米国防空宇宙局)	研究開発推進費	444		H13~	整理番号41を参照	整理番号41を参照
全球:3日1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H16~	整理番号21を参照	整理番号21を参照
全球:6日1回	環境省(宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H24~	整理番号22を参照	整理番号22を参照
全球:3日1回	環境省(国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充	H30~	整理番号23を参照	整理番号23を参照
連続観測および月2~4回の大気サンプリング	経済産業省(産業界技術総合研究所、気象庁、環境省等と共同)	大気成分の長期観測による海洋貯蔵量および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境保全試験研究費)・運営費交付金の内数	19		R1年度~R5年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連
項目により10分~1日間隔	経済産業省(産業界技術総合研究所、岐阜大学と共同)	・科研究 ・運営費交付金の内数	3		~R2年度(以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連
大気組成観測は1時間~1日毎、植生指標観測は1日4回URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/basos/	文部科学省(理研)海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、環境総合研究推進費(37)の内数		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報観測生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/basos/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、北極圏監視評価プログラム作業部会(AMAP)、北極大気汚染と社会(PACES)、MOSAIC(Multidisciplinary drifting Observatory for the Study of Arctic Climate)TROPOMI衛星センサー検証の静止大気汚染観測衛星センサGEMSの検証プログラム、全球気候観測システム(GOOS)、OceanSITES、全球二酸化炭素フラックス観測ネットワーク(FLUXNET)、Phenological Eyes Network(PEN)、JALTER(Japan Long-Term Ecological Research Network)、GED Carbon and GHG Initiative、AP-BON、APN(Asia Pacific Network)、国際アルゴ計画、Global Ocean Acidification Observing Network(GOA-ON)といった国際プロジェクト等に参画し、観測を実施
多様	環境省(国立環境研究所)	低炭素研究プログラム(運営費交付金の一部)	16,307の内数		H28~	整理番号25,26,28,51,73を参照	整理番号25,26,28,51,73を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
	337	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDGGG)の運営WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	338	再掲	世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(QA/SAC)の運営アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	339	再掲	世界気象機関(WMO)全球大気監視校正センター(WDC)の運営アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
⑤安定・継続した観測体制の確立、新たな観測技術の研究開発の強化・推進及び観測・予測データの適切な管理	340		電離圏・宇宙天気世界資料センターの運営	○		○		電離圏	地上観測	我が国および世界観測点
	341	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動・変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支や淡水収支、物質収支の推定。それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の深化。更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連蓄存物質、その他蓄存化学物質、温度、塩分、栄養塩、海上気象など	船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大
	342	再掲	小型赤外線カメラ 小型赤外線カメラによる森林火災や火山の観測を行い、データ提供を行う。		○			森林火災	衛星	全球
	343	再掲	広域大気汚染センサの研究 静止衛星への搭載を目指した、アジア地域を含む広域の大気汚染を観測する広域大気汚染センサの研究を実施する。		○			大気汚染物質	衛星	アジア地域等
	344	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	345	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を効率的に気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○		—	—	—
	346	再掲	南鳥島および領土における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一WMOの全球観測所に選定されている南鳥島と、気象庁観測所において、各機関と連携して、大気成分や温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、放棄地帯や海洋貯熱量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南鳥島、嶺
	347	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測 アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度、フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびチヤンマ県
	348	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDGGG)の運営WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	349	再掲	世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(QA/SAC)の運営アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	350	再掲	世界気象機関(WMO)全球大気監視校正センター(WDC)の運営アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	351		国際的な地震データの共有化 我が国の地震観測データを提供するとともに、国際的な地震データを共有化する。			○		—	—	全世界

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
—	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	整理番号19を参照	整理番号19を参照
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	整理番号20を参照	整理番号20を参照
15分に1回程度	総務省 (研)情報通信研究機構	運営費交付金	運営費交付金の内数			http://wdc.nict.go.jp/IONO/	
船舶:1日に4回程度、 地上・衛星 連日観測 フロート、ブイ:1時間に1回等	文科科学省 (研)海洋研究開発機構	地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発	運営費交付金(31,843)の内数、 理研総合研究推進費(37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム(GOOS)、全球海洋観測システム(GOOS)、ARGO国際プロジェクト、気候変動及び予測可能性研究計画(GLIVAR)、表層海洋CO2データベース(SOCAT)、全球海洋各層観測調査プログラム(GO-SHIP)、熱帯太平洋海洋観測システムプロジェクト(TPOS2020)、世界定点観測ネットワーク(OceanSITES)、国際海洋学データ統合プロジェクト(10CCP)、WMOと連携した国際プロジェクト等に参画し、観測を実施【民間企業参画】 高精度溶存酸素センサを搭載した次世代型深海用フロートの開発に関する共同研究、海洋観測船製作に関する共同研究
搭載衛星に依る	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金(115,923)の内数		H21~		
常時	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金(115,923)の内数		H11~		
全球:2~3日に1回	文科科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
—	文科科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	362	拡充	H26~H2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ活用現場に繋ぐ取組の強化(地球観測による課題解決への更なる貢献) 4-4 共通の・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献
連続観測および月2~4回の 大気サンプリング	経済産業省 (研)産業技術総合研究所と共同	大気成分の長期観測による海洋熱塩および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境保全試験研究費)	—	19	R1年度~R5年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連
項目により10分~1日間隔	経済産業省 (産)産業技術総合研究所、岐阜大学と共同	科学研究費補助金・運営費交付金の内数	—	3	~R2年度 (以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連
—	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	整理番号19を参照	整理番号19を参照
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	整理番号20を参照	整理番号20を参照
—	気象庁	地震津波観測	地震津波観測の内数		S22~	・観測URL(英): http://www.isc.ac.uk/contact/ ・観測URL(英): http://www.isc.ac.uk/standards/datacollection/index.php	国際地震センター(ISC)の特組みで実施。

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
V章. 共通・基盤的な取組 1. 観測データのアーカイブとデータの統合・利活用の促進										
(1) プラットフォームの構築 (2) オープンデータ化の推進 (3) データの利活用の促進 (4) 過去の地球観測データの活用										
	352		ISC-WDS(世界科学データシステム)事業の推進			○	○	-	-	-
	353	再掲	データ及びサンプルの提供・利用促進 保有する研究開発基盤等によって取得した各種データやサンプルに関する情報等を効果的に提供する。				○	-	-	-
	354	再掲	数値科学的手法による海洋地球情報の高度化及び最適化に係る研究開発 地球システムの変動と人間活動との相互関連性の理解を推進するため、データを連携する手法と、連携された膨大なデータの効率的かつ最適な処理を可能にする数値的解析手法を開発し、相互関連性を見いだすための研究開発を行う。			○		-	-	-
	355	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	356	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○		-	-	-
	357		各種衛星系コンテンツの作成と検証	○		○		地球観測衛星データ	衛星	全球陸域
	358	再掲	南島および緯度における微量温室効果ガス等の長期観測 日本唯一の南島の地球観測に適応している南島と、各気象庁観測所において、各機関と連携して、大気主成分と温室効果ガスの挙動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、炭素循環や海洋貯蔵量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度・二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南島島、緯度
	359		政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備・データ利用促進事業 政府衛星データのオープン&フリー化を行うとともに、AIや画像解析用のソフトウェア等が活用可能なデータプラットフォームの整備を行う。また、宇宙データの活用促進を図り、新規アプリケーション開発によるビジネス創出を促進する観点から、衛星データ活用スキル習得機会の拡大や本プラットフォームを活用した新たなアプリケーションの開発を行う。			○		-	-	-
	360	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDGG)の運営 WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等	-	-
	361		NEAR-GOOS地域リアルタイムデータベースの運用 政府海洋学委員会(10C)の地域計画として構築した本データベースを運用し、観測データのリアルタイムに近い迅速な収集と流通を促進する。			○		海洋	船舶、その他(ブイ等)	北東アジア海域
	362		データバイ協同パネル(DBCP)の日本フォーカルポイント WMO(世界気象機関)と10C(ユネスコ政府海洋学委員会)が推進するデータバイ協同パネル(DBCP)のわが国フォーカルポイントとして、WMO国際ブイ登録等の国内窓口を担当している。			○		海洋・海上気象	その他(ブイ、中層フロート)	全球
	363		気候変動適応情報プラットフォームの構築・運営 関係府省庁の情報基盤と連携し、気候変動影響に適応するための各主体の活動基盤となる気候変動適応情報プラットフォームを構築・運営する。			○		情報基盤の構築・運用	-	-
	364		アジアフラックス事務局活動 アジア各地の陸域生態系における熱・水・温室効果ガスフラックスの観測点情報と観測データのオープン化、データ利活用の促進	○		○		陸域生態系 熱・水・温室効果ガス収支	地上連続観測	アジア諸国(100地点以上)

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/拡 充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄	
	総務省 (研)情報通信研究機構	運営費交付金の内訳	運営費交付金の内訳		H23~		連携:ISC-WDSは、RDA(研究データ同盟)、OECD(経済協力開発機構)等各種国際機関と連携。WDS加盟機関:NASA、中国科学院、福建下龍組、NICT、京都大学など117機関	
	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	大型研究開発基盤の供用及びデータ等提供の促進	運営費交付金(31,843)の内訳		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data/base/	中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ユネスコ政府海洋学委員会国際海洋データ・情報交換(10C/10DE)の我が国代表機関である日本海洋データセンター(JODC)に対して、種々な調査・観測で取得した海洋データを提供。また、10C/10DEの下で運営されている全球規模の海洋生物情報データベースシステム(OBIS)の連携データユニット(ADU)として、国内における関連データの受入・調整・保管、提供及びOBISとのデータ連携等の調整を実施。	
	文部科学省 (研)海洋研究開発機構	数値科学的手法による海洋地球情報の高度化及び最適化に係る研究開発	運営費交付金(31,843)の内訳		H31.4~R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理グループ URL: http://www.jamtec.go.jp/j/data	中間とりまとめ関連	
全球:最長2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費		101	H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照	
	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム		382	拡充	H28~R2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化(地球観測による課題解決への更なる貢献) 4-4 共通・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献
	経済産業省 (産業技術総合研究所)	産総研運営費交付金の一部	運営費交付金(62,320の内訳)		H26.4-R2.9 R2年度以降も継続			
	経済産業省	大気成分の長期観測に び月2~4回の海洋浮遊物および生態系への気候変動影響のモニタリング(環境省地球環境保全試験研究費) ・運営費交付金の内訳		19	R1年度~R5年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中間とりまとめ関連	
	経済産業省	政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備事業費・データ利用促進事業	1,299の内訳		H30.4-R3.3			
	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照	
	気象庁	海洋環境観測業務	海洋環境観測業務の内訳		H6~	・利用条件URL(英): https://www.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rrtdb/data_usage.html		
	気象庁	海洋環境観測業務	海洋環境観測業務の内訳		H4~		世界気象機関(WMO)の枠組と連携した観測	
	環境省 (国立環境研究所)	気候変動適応に関する業務(運営費交付金の一部)	16,307の内訳	拡充	H26~	http://www.adaptation-platform.nies.go.jp/	【中間とりまとめ関連】 4-4 共通・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献	
	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング事業(運営費交付金の一部)	39の内訳		H11~	http://www.asiaflux.net/ Database: https://db.oger.nies.go.jp/asiafluxdb/	国際連携:下記観測ネットワークの地域ネットワークであるFLUXNET: http://fluxnet.fluxdata.org/	

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	365		地球環境データベースの構築と運用 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○ (データベース構築・運用)		地球環境に関する現象・変化	地点から全球まで	
2. 分野間の連携、多様なステークホルダーの関与及び人材育成										
(1) 社会と研究開発をつなぐ地球観測 (2) 官民一体となった地球観測 (3) 国民の理解増進 (4) 市民参加型の地球観測の推進 (5) 地球観測を担う人材の継続的な育成	366	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○				
		再掲	気候変動適応技術社会実装プログラム これまでの気候変動研究の蓄積を生かすとともに、地方自治体等が適応策を策定するために必要となる共通基盤技術を開発、整備することにより、成果の社会実装を行う。			○				
	367		広報・アウトリーチ活動の促進 研究開発や海洋科学技術による社会的・政策的課題、地球規模の諸課題の解決への対応を始めとする取組について国民に広く認知・理解されるよう、普及広報対象者の特徴を踏まえた戦略的な広報活動を行う。			○				
	368		若手人材の育成等 若手研究者・技術者等について、大学等他機関との連携体制を構築して効率的・効果的な人材育成施策を展開する。また、高い専門性、俯瞰力、リーダーシップを持った優秀かつ多様な人材の確保及び育成について、計画的に行う。			○				
	369		海上気象観測データの収集 船舶による気象観測報告の促進、技術指導などを行う。	○				海上気象	船舶	北西太平洋
	370	再掲	温室効果ガス等の観測 大気中の温室効果ガス等について、国内3地点及び東京～南鳥島間の上空において観測を行い、データ提供を継続する。	○		○		温室効果ガス等	地上、航空機	国内3箇所及び航空機
	371	再掲	降水・降下塵観測 降水及び降下塵試料の採取及び化学分析データの提供を継続する。	○				降水及び降下塵	地上	南鳥島
	372	再掲	オゾン観測 オゾン分光光度計およびゾンゾンデによるオゾン観測及びデータ提供を継続する。	○		○		オゾン	地上	光度計：全国3箇所 ゾンデ：全国1箇所
	373	再掲	紫外線観測 遠長別紫外線日射観測装置による紫外線観測及びデータ提供を継続する。	○		○		紫外線	地上	全国1箇所
	374	再掲	エアロゾル観測 スカイラジオメーターによるエアロゾル観測及びデータ提供を継続する。	○				エアロゾル	地上	全国3箇所
	375	再掲	日射放射観測 日射計及び放射計による日射放射観測及びデータ提供を継続する。	○				日射及び赤外放射	地上	全国5箇所
	376	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WMO/GG)の運営 WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等		
	377		地球観測連携拠点(温暖化分野)の運営 地球温暖化分野に係る関係府省・機関の地球観測連携拠点の事務局を運営し、関係府省・機関の連携を推進する。			○ (事務局活動)				
	378	再掲	アジアフラックス事務局活動 アジア各地の陸域生態系における熱・水・温室効果ガスフラックスの観測点情報と観測データのオープン化、データ利活用の促進	○		○ (事務局活動)		陸域生態系の熱・水・温室効果ガス収支	地上連続観測	アジア諸国(100地点以上)

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
-	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング-地球環境データベース事業(運営費交付金の一部)	31		H5~	和文: http://db.cger.nies.go.jp/porta/1/?lang=jpn 英文: http://db.cger.nies.go.jp/porta/1/overviews/index?lang=eng	
-	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	352	拡充	H26~H2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用の現場に繋ぐ取組の強化(地球観測による課題解決への更なる貢献) 4-4 共通的・基盤的な取組の推進とイノベーションへの貢献
-	文部科学省	気候変動適応技術社会実装プログラム	354		H27~H31	整理番号104を参照	整理番号104の再掲
-	文部科学省 ( (研) 海洋研究開発機構)	広報・アウトリーチ活動の促進	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R8.3	-	中間とりまとめ関連
-	文部科学省 ( (研) 海洋研究開発機構)	若手人材の育成	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R8.3	-	中間とりまとめ関連
	気象庁	資料統計業務	資料統計業務の内数		M21~	・利用条件URL(日): http://www.jmbsc.or.jp/jp/onlin e/o-onlinef.html	世界気象機関(WMO)の枠組と連携した観測。北西太平洋を航行する船舶などの一般船舶に対し、海上気象観測の成果の報告を求めている。
国内3箇所:連続 航空機:月1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S62~	整理番号11を参照	整理番号11を参照
降水:毎日 降下塵:毎月	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S51~	整理番号12を参照	整理番号12を参照
光度計:毎日 ゾンデ:週1回	気象庁	オゾン観測	11(11)		S32~	整理番号13を参照	整理番号13を参照
毎時(日中)	気象庁	紫外線日射観測	0.9(0.4)		H2~	整理番号45を参照	整理番号45を参照
10分1回	気象庁	大気バックグラウンド汚染観測	大気バックグラウンド汚染観測の内数		S50~	整理番号14を参照	整理番号14を参照
毎時	気象庁	日射観測	3(3)		S31~	整理番号15を参照	整理番号15を参照
-	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
-	環境省 (国立環境研究所)	気候変動適応に関する業務(運営費交付金の一部)	16,307の内数		H28~	和文: http://occo.nies.go.jp/index.html 英文: http://occo.nies.go.jp/e_index.html	H18~H27は環境省と気象庁が共同で運営
-	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング-森林炭素収支モニタリング事業(運営費交付金の一部)	39の内数		H11~	整理番号364を参照	整理番号364を参照



「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
3. 長期継続的な地球観測の実施										
(1) 恒常的な地球観測体制の確立 (2) 必要な観測項目の特定 (3) 地理空間情報の整備	379		国際VLBI事業 (IVS) の組織する国際地球基準座標系 (ITRF) と国際天球座標系 (ICRF) 及びそれらをつなぐ地球回転計測VLBI観測に継続的に参加し、ITRF、ICRFとUT1の維持と精度向上に貢献する。新しい国際VLBI観測の仕様であるVGOSに対応する観測技術の開発を行う。	○	○			基準点位置、基準座標系、地球姿勢パラメータ	VLBI(超長基線干渉法)	東京観測所、干渉計のVLBI局の位置
	380	再掲	南高島および緯度における微量温室効果ガス等の長期観測 日本で唯一南緯の地球観測所に選定されている南高島と、気象庁緯度観測所において、各機関と連携して、大気成分や温室効果ガスの変動に影響する関連ガス等を監視する総合的なモニタリングシステムを開発し、炭素循環や海洋貯蔵量・生物活動の情報を得ることを目指した長期観測を行う。	○	○	○		大気中酸素濃度、二酸化炭素安定同位体比、アルゴン濃度等	地上	南高島、緯度
	381	再掲	観測による海洋環境変動の把握と観測技術開発 物理的、化学的な海洋環境の変動、変化を精密に把握し、観測、理論、予測の科学的なサイクルの加速に資する。熱収支や淡水収支、物質収支の推定、それらと大気海洋相互作用との整合性の理解の変化、更には全球規模の物理的、化学的な海洋環境変化の把握に関する観測研究を行う。	○	○	○		温暖化関連溶存物質、その他溶存物質、温度、塩分、栄養塩、海上気象など	船舶、地上、衛星、その他(フロート、ブイ等)	太平洋、インド洋、南大洋、海大産
	382		電子基準点測量 全国に設置された電子基準点によりGNSS連続観測を行う。また、GNSSの精密軌道決定のための軌道追跡局のデータを収集し、国際GNSS事業 (IGS) に提供する。	○				水平位置、高さ	衛星	日本国内
	383		基本測地基準点測量 国内全陸域の基準点等においてGNSS測量、水準測量、重力測量及び地磁気測量を行う。また、陸揚場において潮位の連続観測を行う。	○				水平位置、高さ、重力、地磁気、潮位等	衛星、航空機、地上	日本国内
	384		水準測量 国内の地殻活動の活発な地域等において、水準測量等を高頻度で繰り返す行う。	○				高さ	地上	日本国内
	385		高精度地盤変動測量 国内全陸域において、地球観測衛星の観測データを用いた干渉SAR技術による高精度地盤変動測量を実施する。	○				地表面の変動量	衛星	日本国内
	386		機動観測 活動的な火山周辺等において、地殻変動を監視するためのGNSS連続観測を実施する。	○				水平位置、高さ等	衛星、地上	日本国内
	387		VLBI測量 国際VLBI事業 (IVS) によるVLBI国際観測に参加するとともに、観測データの相関処理・解析を実施する。また、より高精度な成果を算出するための新たなVLBI観測システム (VGOS) の運用を行うことで、国際地球基準座標系 (ITRF) の整備に貢献する。	○				水平位置、高さ及び地球の自転や姿勢に関する情報等	地上	日本国内

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
月に1回程度	総務省 (防)情報通信研究 機構)	運営費交付金	運営費交付金の内数		H13~	<a href="http://ivsc.bkg.bund.de/index.html">http://ivsc.bkg.bund.de/index.html</a>	
連続観測および 月2~4回の 大気サンプリ ング	経済産業省 ( (研) 産業技術統 合研究所、気象庁生 象研究所と共同)	・大気成分の長期観測に 関する海洋貯蔵量および生 地系への気候変動影響の モニタリング(環境省地 球環境保全試験研究費) ・運営費交付金の内数	19		R1年度~R5 年度	整理番号10を参照	整理番号10の再掲 中取りまとめ関連
船舶:1日に4 回程度 地上、衛星: 運回観測 フロート、ブ イ:1時間に1 回~10日に1回	文部科学省 ( (研) 海洋研究開 発機構)	地球環境の状況把握と変 動予測のための研究開発	運営費交付金 (31,843)の内数、 環境総合研究推進費 (37)の内数		H31.4~ R8.3	問合せ先:付加価値情報創生部門 地球情報基盤センターデータ管理 グループ URL: <a href="http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/">http://www.jamstec.go.jp/j/data/base/</a>	中取りまとめ関連 【国際連携状況】 ・全球気候観測システム (GOOS)、全球海洋観測システム (GOOS)、ARGO国際プロジェクト、 気候変動及び予測可能性研究 計画 (GLIAR)、表層海洋O2 データベース (SOCAT)、全球海 洋各層 観測調査プログラム (GO-SHIP)、 熱帯太平洋海洋観測シス テムプロジェクト (TPOS2020) ・世界定点観測ネットワーク (OceanSITES)、国際海洋炭素デー タ統合プロジェクト (IOCCP)、 IMCといった国際プロジェクト等 に参画し、観測を実施 【民間企業参画】 高精度溶存酸素センサを搭載した 次世代型深海用フロートの開発に 関する共同研究、海洋観測船買付 成に関する共同研究
常時	国土交通省 国土地理院	電子基準点測量(基本測 地基準点測量経費)	2,047の内数		H7~	<データ公開URL> (日本語) <a href="https://terras.gsi.go.jp/">https://terras.gsi.go.jp/</a> (英語) <a href="https://datahouse1.gsi.go.jp/terras/terras_eng/ish.html">https://datahouse1.gsi.go.jp/terras/terras_eng/ish.html</a> ※ 問合せは上記URL内の連絡先に 問合せ可能。	国際GNSS事業 (IGS) へのデータ 提供を実施。 中取りまとめ関連
GNSS測量:年1 回 水準測量:年1 回 重力測量:年1 回 地磁気測量: 常時 潮位観測:常 時	国土交通省 国土地理院	・三角点・水準点等の測 量(基本測地基準点測量 経費) ・陸揚(基本測地基準点 測量経費)	2,047の内数		M16~	<データ公開URL> ○基準点成果等閲覧サービス <a href="https://sokuseikaigis1.gsi.go.jp">https://sokuseikaigis1.gsi.go.jp</a> ○水準測量 <a href="https://www.gsi.go.jp/sokuchiki/jun/su/jun-top.html">https://www.gsi.go.jp/sokuchiki/jun/su/jun-top.html</a> ○重力・ジオイド <a href="https://www.gsi.go.jp/buturisok/uchii/geoindex.html">https://www.gsi.go.jp/buturisok/uchii/geoindex.html</a> ○地磁気測量 <a href="https://www.gsi.go.jp/buturisok/uchii/geomag/index.html">https://www.gsi.go.jp/buturisok/uchii/geomag/index.html</a> ○潮位観測 (日本語版) <a href="https://www.gsi.go.jp/kanshi/tide/index.html">https://www.gsi.go.jp/kanshi/tide/index.html</a> (英語版) <a href="https://www.gsi.go.jp/kanshi/tide/index.e.html">https://www.gsi.go.jp/kanshi/tide/index.e.html</a> ※ 問合せは上記URL内の連絡先に 問合せ可能。	潮位観測では、国際GNSS事業 (IGS)のGNSS陸揚プロジェクト (TIGA)に参加。
年1~2回	国土交通省 国土地理院	水準測量(地殻変動等調 査経費)	245の内数		S42~	<データ公開URL> <a href="https://www.gsi.go.jp/kidou/index.html">https://www.gsi.go.jp/kidou/index.html</a> ※ 問合せは上記URL内の連絡先に 問合せ可能。	
年6回	国土交通省 国土地理院	高精度地盤変動測量(地 殻変動等調査経費)	245の内数		H16~	<データ公開URL> <a href="https://www.gsi.go.jp/uchusokuo/hi/gsi_sar.html">https://www.gsi.go.jp/uchusokuo/hi/gsi_sar.html</a>	中取りまとめ関連
常時	国土交通省 国土地理院	機動観測(地殻変動等調 査経費)	245の内数		H1~	<データ公開URL> <a href="https://www.gsi.go.jp/kidou/regmos.html">https://www.gsi.go.jp/kidou/regmos.html</a> ※ 問合せは上記URL内の連絡先に 問合せ可能。	
週5~6回	国土交通省 国土地理院	VLBI測量(基本測地基準 点測量経費)	2,047の内数		S61~	<データ公開URL> (日本語版) <a href="https://www.gsi.go.jp/uchusokuo/hi/vbi.html">https://www.gsi.go.jp/uchusokuo/hi/vbi.html</a> (英語版) <a href="http://www.spaceodesy.go.jp/vbi/en/index.html">http://www.spaceodesy.go.jp/vbi/en/index.html</a>	国際VLBI事業 (IVS) による国際 VLBI観測に参加。 中取りまとめ関連

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	388	再掲	世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(OA/SAC)の運営 アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	389	再掲	世界気象機関(WMO)全球大気監視校正センター(WDC)の運営 アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等	—	—
	390		異常気象現象の探知のための観測網の高度化 全国の潮位観測施設において、恒常的に観測データを取得、伝送し、高潮や津波の監視を行う。	○				潮位	地上	全国
	391		海象観測等の実施 海洋観測等の基礎資料として、広域な海況観測や短波レーダーにより、箱根沖において詳細な流れを常時収集するとともに、横浜などに設置した観測所において潮汐観測を実施する。また、調査結果をホームページで公表するとともに日本海洋データセンターで管理・提供している。	○				海流、潮流	船舶等	日本近海
	392			○				氷質	海上	東京湾
	393	再掲		○				潮汐	地上	横浜等20観測所
	394			○				海流、潮流	地上	相模湾
	395		地球環境モニタリング事業 広域的に各種プラットフォームをもちいて、大気、海洋、陸域の温暖化に係る物質や温暖化影響など継続的に体制を確立したものと	○	○	○		GHG濃度、フラックス、温暖化影響	地上、航空機、船舶、衛星	アジア太平洋地域

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	整理番号19を参照	整理番号19を参照
—	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	整理番号20を参照	整理番号20を参照
連続	気象庁	高潮高波対策業務	高潮高波対策業務の内数		T13~	・利用条件URL(日): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/kiisho/kiisho/info/coment.html">https://www.jma.go.jp/jma/kiisho/kiisho/info/coment.html</a> ・利用条件URL(英): <a href="https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html">https://www.jma.go.jp/jma/en/cookie.html</a>	世界気象機関(WMO)の枠組と連携した観測
観測により異なる	海上保安庁海洋情報部	海象観測 (旅費等)	23		S23~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	
1時間に1回	海上保安庁海洋情報部	東京湾再生プロジェクト (旅費等)	2		H14~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	
常時	海上保安庁海洋情報部	地震予知計画参加 (旅費等)	30		S40~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	
常時	海上保安庁海洋情報部	海洋情報の収集・管理・提供業務の推進 (旅費等)	2		H12~	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/copyright.html</a>	
多様	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング事業(運営費交付金の一部)	218		H2~	整理番号 24, 26, 27, 29, 50, 51, 108, 365を参照	整理番号 24, 26, 27, 29, 50, 51, 108, 365を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
4. 地球観測による科学技術イノベーションの推進										
(1) 地球観測・予測技術の高度化 (2) 観測・予測データを活用した新産業等の創出への貢献 (3) データの公正性・透明性の確保 (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への貢献	396		研究開発成果の活用促進 研究開発から得られた知見を用いて、社会的・政策的な課題の解決と産業の活性化を推進する。推進に当たっては、産学官との連携関係を通じ、活用対象となり得る知的財産の発展・強化や訴求効果の向上を目指す。獲得した各種リソースを用いて次なる研究開発に繋げるという、継続的な科学的成果の創出サイクルを好循環させることを目指す。						○	
	397	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)観・エアロゾル、組成分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C)による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、組成分布等	衛星	全球
	398	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)アーカイブデータによる植生、雪氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雪氷等	衛星	全球
	399	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)による植生、雪氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雪氷等	衛星	全球
	400	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	401	再掲	センチネル・アジア「だいち2号」等の地球観測衛星による地震、津波、火山噴火等の大規模自然災害の観測及びデータ提供を行うとともに、災害関連情報をアジア太平洋地域の現地防災機関との間で共有する活動(「センチネル・アジア」プロジェクト)を継続する。	○		○		大規模自然災害	衛星	全球
	402	再掲	小型赤外線カメラ 小型赤外線カメラによる森林火災や火山の観測を行い、データ提供を行う。			○		森林火災	衛星	全球
	403	再掲	広域大気汚染センサの研究 静止衛星への搭載を目指した、アジア地域を含む広域の大気汚染を観測する広域大気汚染センサの研究を実施する。			○		大気汚染物質	衛星	アジア地域等
	404		温暖化予測結果のダウンスケーリング技術の開発とデータ同化技術の高度化 全球気候モデルによる温暖化予測結果から力学的ダウンスケーリングまたは統計的ダウンスケーリングを実施する技術を開発することによって、極端現象などに関する日本域の詳細な温暖化予測情報を創出可能にしている。 また、デジタル化した日本域の歴史的観測データを気候モデルにデータ同化し再解析に活用するための技術の高度化も進めている。							
	405	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○				
		再掲	気候変動適応技術社会実装プログラム これまでの気候変動研究の蓄積を生かすとともに、地方自治体等が適応策を策定するために必要となる共通基盤技術を開発、整備することにより、成果の社会実装を行う。			○				
	406		標準ガス事業 GHG等の濃度決定のために国際的な濃度比較や標準ガス作りを行う			○		温室効果ガス各種	地上	
	407	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WMOGGS)の運営 WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等		
	408	再掲	世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(QA/SAC)の運営 アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等		
	409	再掲	世界気象機関(WMO)全球大気監視校正センター(WOC)の運営 アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等		

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
	文部科学省 (特) 海洋研究開発機構	国内の産学官との連携・広域及び研究開発成果の活用促進	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R3.3		中間とりまとめ関連
全球:2~3日 に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球:最短2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日 に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2日 に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
全球:14日 に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金 (115,923)の内数		H18~		
搭載衛星に 依る	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金 (115,923)の内数		H21~		
常時	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構運営費	JAXA運営費交付金 (115,923)の内数		H17~		
	文部科学省	統合的気候モデル高度化研究プログラム	744百万円の内数	拡充	H29~R3		実施機関:東京大学、国立環境研究所、海洋開発研究機構、気象業務支援センター、気象庁気象研究所 中間とりまとめ関連「4-3 予測情報の高精度化」
	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	382	拡充	H28~H2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用 の現場に繋ぐ取組の強化(地球 観測による課題解決への更なる貢 献) 4-4 共通的・基盤的な取組の推 進とイノベーションへの貢献
	文部科学省	気候変動適応技術社会実装プログラム	354		H27~H31	整理番号104を参照	整理番号104の再掲
	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング(標準ガス事業) (運営費交付金の一部)	9の内数		H2~	<a href="http://www.esri.noaa.gov/gmd/ccgg/wmor/wmor_results.php">http://www.esri.noaa.gov/gmd/ccgg/wmor/wmor_results.php</a> などにデータを公表	WMO国際比較への参加 欧州Sausageプロジェクトへの参 画 欧州Cucumberプロジェクトへの参 画 ジャパンファイブプロダクツ株式 会社、岩谷産業株式会社、日本エ ア・リキード株式会社との連携
	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	整理番号19を参照	整理番号19を参照
	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	整理番号20を参照	整理番号20を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種別				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用	その他			
5. 科学技術外交・国際協力への地球観測の貢献										
(1) 国際的な貢献の在り方の明確化	410		国際協力の推進 地球規模の課題の解決に貢献するため、海洋に関する国際協力を推進する。そのため、各種国際枠組み等に積極的に関与するとともに、必要に応じて主導的役割を果たす							
(2) 地球規模課題の解決への貢献	411	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
(3) 地域的な課題解決への貢献	412	再掲	温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」(GOSAT-2) 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) の後継機となるGOSAT-2 による全球の温室効果ガスの観測及びデータ提供を行う。		○			二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
(4) 「GEO戦略計画」への対応及びGEOSSの発展への貢献	413	再掲	気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) 雲・エアロゾル、植生分布の地球観測を行う気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C) による地球観測データの取得及び提供を行う。	○		○		雲・エアロゾル、植生分布等	衛星	全球
	414	再掲	陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) アーカイブデータによる植生、雲氷等のデータ提供を継続する。			○		植生、雲氷等	衛星	全球
	415	再掲	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) による植生、雲氷等のデータの観測及びデータ提供を行う。	○		○		植生、雲氷等	衛星	全球
	416	再掲	水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W) GCOM-Wによる降水、水蒸気、土壌水分等の観測及びデータ提供を継続する。	○		○		降水、土壌水分、水蒸気等	衛星	全球
	417	再掲	データ統合・解析システム(DIAS)の構築 地球観測・予測情報等を用いた気候変動適応・緩和等の社会課題の解決のため、地球観測データの収集、解析、アーカイブを行う地球環境情報プラットフォームを構築する。			○				
	418	再掲	アジア地域二酸化炭素フラックス等観測 アジア地域を中心とした森林生態系の二酸化炭素フラックスおよび関連する環境指標の連続観測を継続し、データベース等を通して他機関と共有する。長期観測を強化する計測技術や情報通信化など関連技術の開発を行う。	○	○	○	○	二酸化炭素濃度、フラックス、気象、樹冠映像、生理生態指標ほか約40項目	現地定点観測	岐阜県高山市、タイ王国カンチャナブリ県およびナコンラチャン県
	419		南極地域観測 南極地域における位置の基準を整備すると共に科学的・基礎的情報の整備に国際的な貢献をするため、精密測地測量、露岩変動測量、GNSS連続観測等を継続的に実施する。また、表面地形の詳細な3次元地形情報を整備する。	○				水平位置、高さ、重力等	地上、航空機、衛星、その他(無人航空機)	南極地域
	420		観測、データ統合及び情報利用に関する能力開発 異常気象情報センター(TCC)の運営			○		気候		
	421		異常気象現象の認知のための観測網の高度化 世界気象機関(WMO)CLIMATリードセンターの運営			○		地上気候	地上	全球
	422	再掲	世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センター(WDGGG)の運営 WMOのデータセンターとして、世界全体の温室効果ガス等のデータの収集・提供及び観測データの解析結果の公表を継続して行う。			○		温室効果ガス等		
	423	再掲	世界気象機関(WMO)品質保証科学センター(OA/SAC)の運営 アジア・南西太平洋の温室効果ガス等の観測データの品質管理、観測精度維持のための技術指導等を継続して行う。			○		温室効果ガス等		
	424	再掲	世界気象機関(WMO)全球天気監視校正センター(WDC)の運営 アジア・南西太平洋のメタン等の観測標準の維持、比較校正等を継続して行う。			○		温室効果ガス等		

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/ 拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
	文部科学省 (新) 海洋研究開発機構	国際協力の推進	運営費交付金 (31,843)の内数		H31.4~ R3.3		中間とりまとめ関連 【国際連携状況】 ・国際深海科学観測計画 (IODP)、国際陸上科学観測計画 (IODP)
全球:3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	880		H20~	整理番号6を参照	整理番号6を参照
全球:6日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	研究開発推進費	20		H26~	整理番号7を参照	整理番号7の再掲
全球:2~3日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,252		H17~	整理番号8を参照	整理番号8の再掲
全球:最長2日	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	101		H17~	整理番号91を参照	整理番号91を参照
全球:14日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	1,704		H20~	整理番号92を参照	整理番号92を参照
全球:2日に1回	文部科学省 (宇宙航空研究開発機構)	研究開発推進費	700		H17~	整理番号120を参照	整理番号120を参照
	文部科学省	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	382	拡充	H28~R2	整理番号99を参照	整理番号99の再掲 中間とりまとめ関連 4-1 地球観測情報をデータ利活用 の現場に繋ぐ取組の強化(地球 観測による課題解決への更なる貢 献) 4-4 共通の・基盤的な取組の推 進とイノベーションへの貢献
項目により10分~1日間隔	経済産業省 (産業技術総合研究所)	・科研費 ・運営費交付金の内数	3		~R2年度 (以降も継続予定)	整理番号43を参照	整理番号43を参照 中間とりまとめ関連
GNSS連続観測以外:年に1回 GNSS連続観測:常時	国土交通省 国土地理院	南極地域観測(南極地域観測事業費 観測部門経費)	96		S31~	<データ公開URL> https://www.gsi.go.jp/antarctic/index.html ※ 問合せは上記URL内の連絡先に 問合せ可能。	
	気象庁	異常気象情報センター業務	6(6)		H14~	・利用条件URL(日): https://www.jma.go.jp/jma/kiho/ku/info/comment.html ・利用条件URL(英): https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html	世界気象機関(WMO)の枠組で実施された観測データの提供、情報利用の能力向上等
1回/月	気象庁	気候変動対策業務	気候変動対策業務の内数		H11~	・利用条件URL(日): https://www.jma.go.jp/jma/kiho/ku/info/comment.html ・利用条件URL(英): https://www.jma.go.jp/jma/en/condition.html	異常気象現象の認知のための観測網の高度化 世界気象機関(WMO)及び全球気候観測システム(GCOS)の枠組みでの地上観測網のモニタリングセンター運営
	気象庁	温室効果ガス世界資料センター業務	4(4)		H2~	整理番号18を参照	整理番号18を参照
	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H7~	整理番号19を参照	整理番号19を参照
	気象庁	品質保証科学センター業務	0.2(0.2)		H14~	整理番号20を参照	整理番号20を参照

「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に基づく、令和2年度(元は令和元年度)の我が国における地球観測の実施計画

実施方針	整理番号	再掲	実施方針に貢献する項目(取組の概要)	項目の種類				観測対象	観測手段	観測域/観測地点
				観測	機器開発	データ利用研究	その他			
	425	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) GOSATによる全球の温室効果ガスの観測及びデータ処理、データ提供を継続する。	○		○		二酸化炭素、メタン等	衛星	全球
	426	再掲	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」(GOSAT-2) 観測センサーの高度化を行い、GOSATによる観測精度の更なる高精度化を図るとともに、大都市・大規模排出原単位での排出量の推定を行い、各国の温室効果ガス排出インベントリの比較・検証ツールとしての利用に向けた技術開発及び実証を行う。	○		○		二酸化炭素、メタン、一酸化炭素、エアロゾル等	衛星	全球
	427	再掲	温室効果ガス観測技術衛星3号機 継続的な全球温室効果ガス観測体制を構築するため、GOSAT-2の後継機である3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」(GOSAT-GW)の開発を着実に実施する。			○	○	二酸化炭素、メタン、二酸化窒素等	衛星	全球
	428	再掲	地球環境モニタリング事業 広域的に各種プラットフォームをもちいて、大気、海洋、陸域の温暖化に係る物質や温暖化影響など組織的に体制を確立したもの	○	○	○		GHG濃度、フラックス、温暖化影響	地上、航空機、船舶、衛星	アジア太平洋地域

観測頻度	府省庁名 組織名	事業名 (予算 費目)	R02年度 予算額 (百万円)	新規/拡充	計画 期間	データに関する問合せ先とURL	備考欄
全球：3日に1回	環境省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H18~	整理番号21を参照	整理番号21を参照
全球：6日に1回	環境省 (宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数		H24~	整理番号22を参照	整理番号22を参照
全球：3日に1回	環境省 (国立環境研究所)	1. GOSATシリーズによる地球環境観測事業 2. 温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 3. 衛星観測に関する研究事業(運営費交付金の一部)	1. 185の内数 2. 1,995の内数 3. 1,232の内数	拡充	H30~	整理番号23を参照	整理番号23を参照
多様	環境省 (国立環境研究所)	地球環境の戦略的モニタリング事業(運営費交付金の一部)	218		H2~	整理番号 24, 26, 27, 29, 50, 51, 108, 365を参照	整理番号 24, 26, 27, 29, 50, 51, 108, 365を参照